
令和5年度
八千代市の男女共同参画に関する
市民アンケート結果報告書

令和6年3月
八千代市

目次

I	調査の概要	3
II	調査結果	7
1	回答者の属性	7
	(1) 性別 (F 1)	7
	(2) 年代 (F 2)	7
	(3) 性・年代 (F 1・F 2)	8
	(4) 雇用形態 (F 3)	9
	(5) 世帯構成 (F 4)	10
	(6) 末子の年代 (F 4-1)	11
	(7) 介護者の有無 (F 5)	11
2	生活の中での男女共同参画	13
	(1) 家庭生活での役割分担 (問1)	13
3	働き方	20
	(1) 職場における性別を理由とする差別の有無 (問2)	20
	(2) 家事専業または無職の就労意向 (問3)	26
	(2-1) 「働きたいが働けない」と回答した理由 (問3-1)	28
	(3) 女性の理想の働き方 (問4)	32
	(4) 女性が長く働き続けるために特に重要なこと (問5)	36
4	男性のワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)	40
	(1) 育児休業や介護休業を取る男性が少ない理由 (問6)	40
	(2) 家事・子育て・介護・地域活動などに、男女がともに参加するために今後必要だと思うこと (問7)	44
5	男女平等	48
	(1) 「夫は外で働き、妻は家庭を守る方がよい」という考え方について (問8)	48
	(2) 男女の地位の平等感 (問9)	50
	(3-1) 男女共同参画社会をつくるために個人の心掛けで必要だと思うこと (問10-1)	57
	(3-2) 男女共同参画社会をつくるために家庭で必要な取組 (問10-2)	61
	(3-3) 男女共同参画社会をつくるために八千代市で必要だと思う取組 (問10-3)	65
6	性の多様性	69
	(1) 「LGBT」の認知 (問11)	69
	(2) 「SOGI」の認知 (問12)	71

(3) 性的マイノリティの方々にとって生活しづらい社会だと思うか (問13)	73
(3-1) 性的マイノリティの方々が生かしやすくなるために必要な対策 (問13-1) ...	75
7 DV (ドメスティック・バイオレンス)	79
(1) 身体的な暴力以外のDVの認知 (問14)	79
(2) DVの防止に必要な対策 (問15)	82
8 自由記述における主な意見	86
9 前回調査との比較【参考】	88
Ⅲ 調査票	91

I 調査の概要

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、八千代市における市民の男女共同参画に関する意識、実態について把握し、男女共同参画施策を推進するうえでの基礎資料を得ることを目的とする。

2 調査の項目

- (1) 回答者の属性
- (2) 生活の中での男女共同参画
- (3) 働き方
- (4) 男性のワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）
- (5) 男女平等
- (6) 性の多様性
- (7) DV（ドメスティック・バイオレンス）

3 調査の方法

- (1) 調査対象 八千代市在住の18歳以上の個人
- (2) 標本数 2,500人
- (3) 標本抽出方法 住民基本台帳に基づく無作為抽出
- (4) 調査方法 郵送配布、郵送回収・インターネット回収併用法
- (5) 調査期間 令和6年1月5日～1月25日（2月5日到着分まで集計に反映）

4 回収結果

- (1) 標本数 2,500
- (2) 有効回収数 807
- (3) 有効回収率 32.3%

5 報告書の見方

- (1) 図表中の「n」は、各設問の回答者数を示す。
- (2) 回答の比率（%）は、nを基数として算出し、小数点以下第2位を四捨五入して小数点以下第1位まで示した。したがって、選択肢の中から1つだけ回答を選ぶ設問では、すべての選択肢の比率の合計が100.0%にならない場合がある。また、選択肢の中から複数の回答を選ぶ設問では、すべての選択肢の比率を合計すると通常100.0%を超える。
- (3) 統計数値を考察するにあたっての表現はおおむね以下の通りとする。

例	表現
17.0～19.9%	約2割
20.0～20.9%	2割
21.0～22.9%	2割を超える
23.0～26.9%	2割台半ば
27.0～29.9%	約3割

- (4) 令和元年度に実施した調査と共通の設問については、調査結果の比較を行った。なお、令和元年度の調査は郵送配布・郵送回収法で実施している。今年度の調査は郵送配布、郵送回収・インターネット回収併用法で行っており、調査方法が異なっている。

- (5) グラフや表のタイトルなどは、なるべく調査票と同じ表現を用いているが、レイアウトなどの関係から一部省略した表現としている箇所がある。
- (6) 回答者数が30未満と小さいものについては、比率が動きやすく分析には適さないため、参考として示すにとどめる。
- (7) 性別の選択肢で「どちらとも言えない」「回答しない」を設定しているが、回答者が3人と少なく分析に適さない為、性別及び性年代別において結果を掲載していない。
- (8) この調査の標本誤差は次の式によって得られる。ただし、信頼度を95%とする。

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

N = 母集団数 (令和5年9月30日現在、八千代市在住の18歳以上の男女 174,399人)
n = 比率算出の基数 (回答者数)
p = 回答比率 (%)

次に、本調査の標本誤差の早見表をあげる。

回答比率 (p) 基数 (n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
807	±2.11%	±2.81%	±3.22%	±3.44%	±3.51%
800	±2.12%	±2.82%	±3.23%	±3.46%	±3.53%
600	±2.45%	±3.26%	±3.74%	±3.99%	±4.08%
400	±3.00%	±4.00%	±4.58%	±4.89%	±4.99%
200	±4.24%	±5.65%	±6.48%	±6.92%	±7.07%
100	±6.00%	±8.00%	±9.16%	±9.80%	±10.00%

注) 標本誤差とは

今回のように全体 (母集団) の中から一部を抽出して行う標本調査においては、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあり、その誤差のことをいう。この誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、その誤差を数学的に計算することが可能である。その計算式を今回の調査に当てはめて算出したのが、上記の表である。

見方としては、例えば、「ある設問の回答数が807であり、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±3.44%以内 (56.56%～63.44%) である」とみることができる。

II 調査結果

Ⅱ 調査結果

1 回答者の属性

(1) 性別 (F 1)

	人数	構成比	
1 男性	346	42.9	42.9 (43.4)
2 女性	458	56.8	56.8 (56.0)
3 どちらとも言えない・わからない	1	0.1	0.1
4 回答しない	2	0.2	0.2
その他(*)			(0.1)
(無回答)	0	0.0	0.0 (0.4)
全 体	807	100.0	

※ () 内は令和元年度調査の構成比 (n=702)

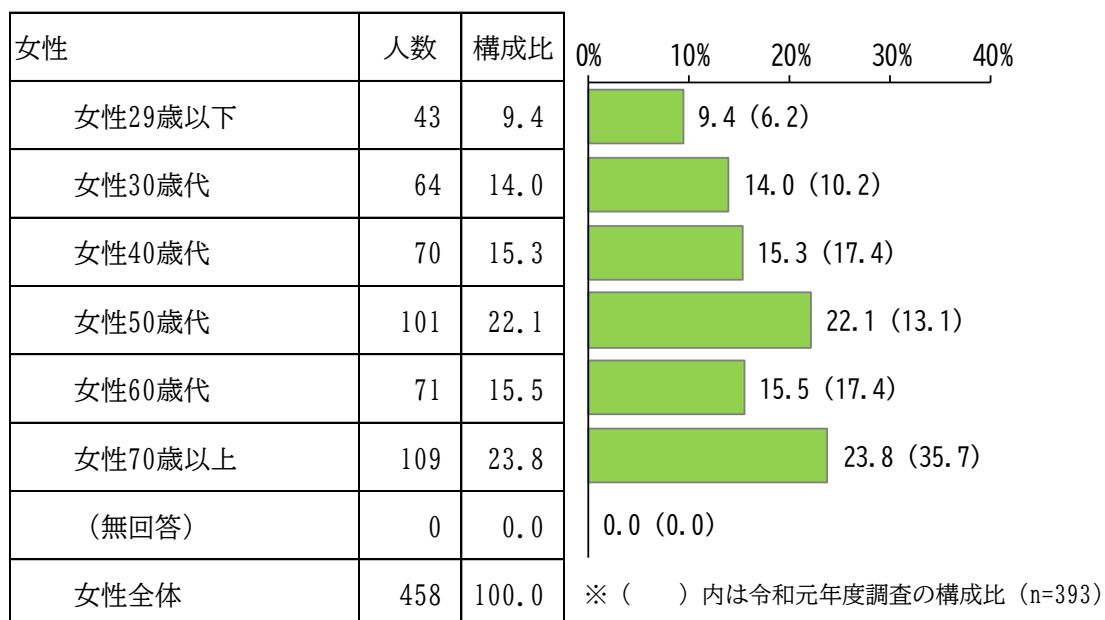
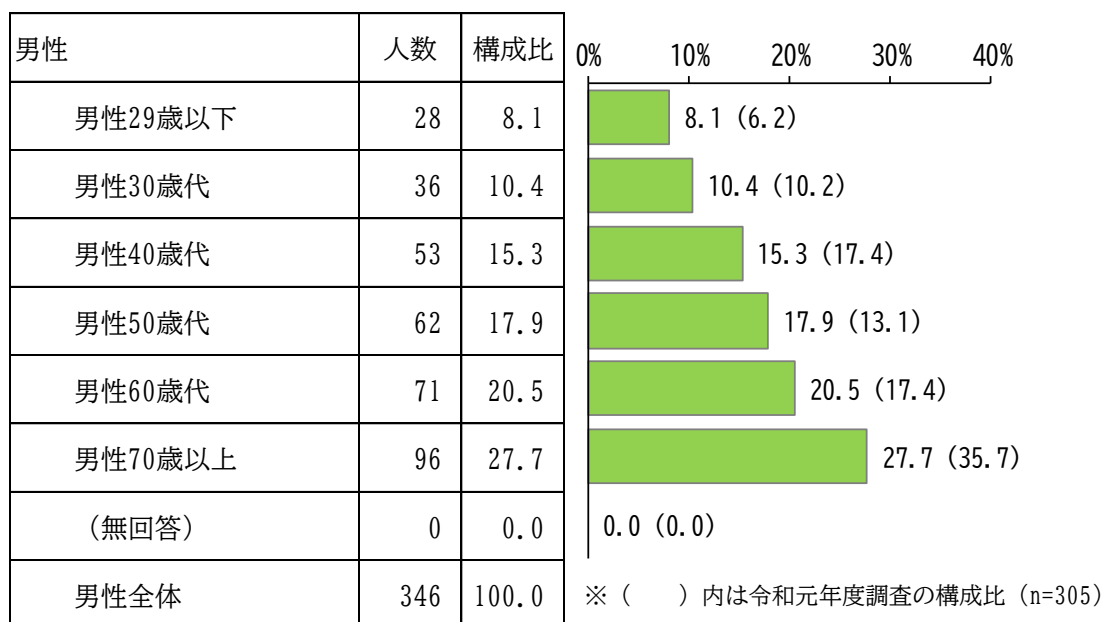
(*)令和元年度調査の選択肢

(2) 年代 (F 2)

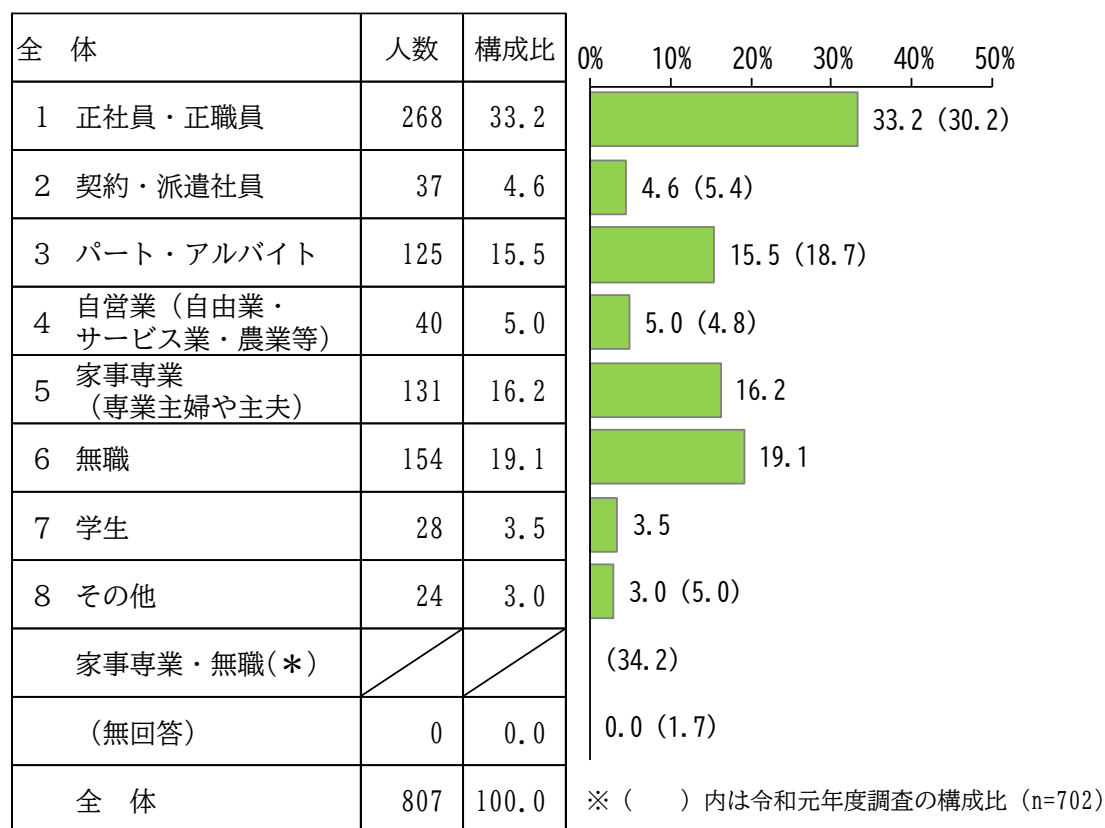
	人数	構成比	
1 29歳以下	71	8.8	8.8 (6.7)
2 30歳代	100	12.4	12.4 (14.2)
3 40歳代	123	15.2	15.2 (19.5)
4 50歳代	166	20.6	20.6 (15.4)
5 60歳代	142	17.6	17.6 (15.1)
6 70歳以上	205	25.4	25.4 (28.5)
(無回答)	0	0.0	0.0 (0.6)
全 体	807	100.0	

※ () 内は令和元年度調査の構成比 (n=702)

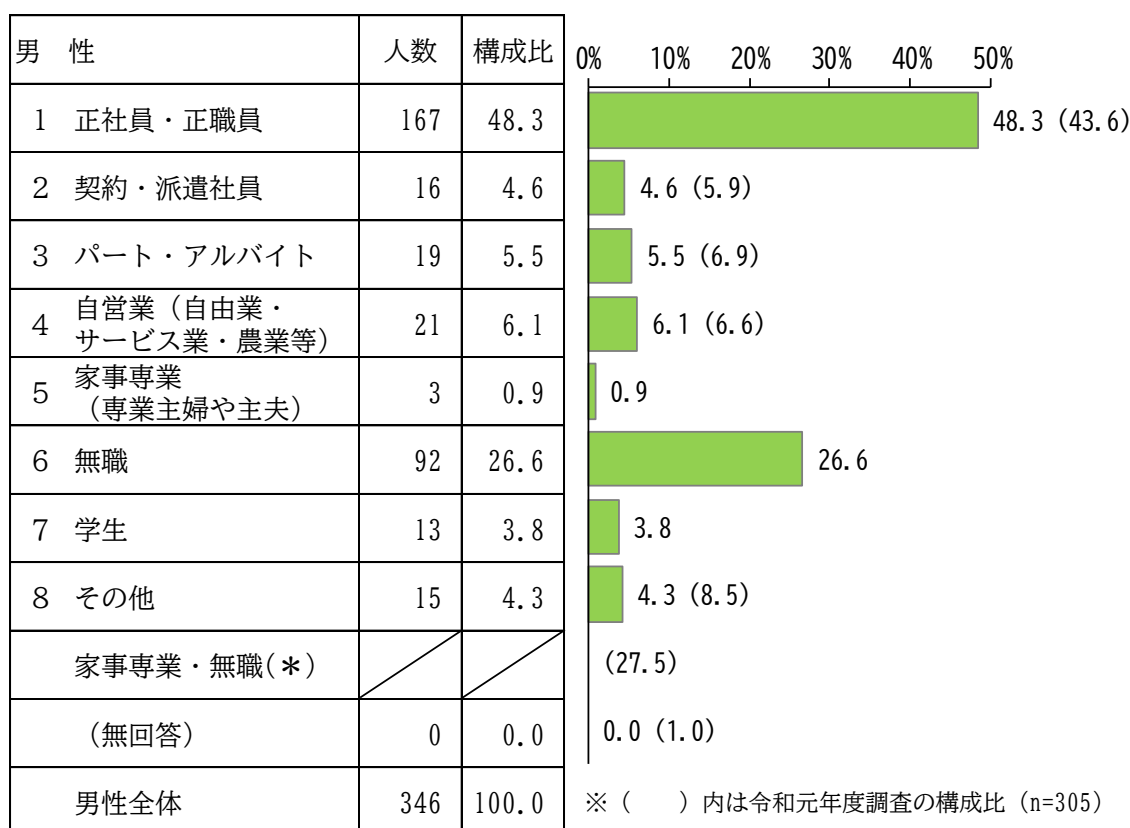
(3) 性・年代 (F1・F2)



(4) 雇用形態 (F3)



(*)令和元年度調査の選択肢



(*)令和元年度調査の選択肢

女 性	人数	構成比	0% 10% 20% 30% 40% 50%
1 正社員・正職員	101	22.1	22.1 (19.8)
2 契約・派遣社員	21	4.6	4.6 (5.1)
3 パート・アルバイト	105	22.9	22.9 (28.0)
4 自営業（自由業・サービス業・農業等）	18	3.9	3.9 (3.6)
5 家事専業（専業主婦や主夫）	128	27.9	27.9
6 無職	61	13.3	13.3
7 学生	15	3.3	3.3
8 その他	9	2.0	2.0 (2.3)
家事専業・無職(*)			(39.7)
(無回答)	0	0.0	0.0 (1.5)
女性全体	458	100.0	

※（ ）内は令和元年度調査の構成比（n=393）

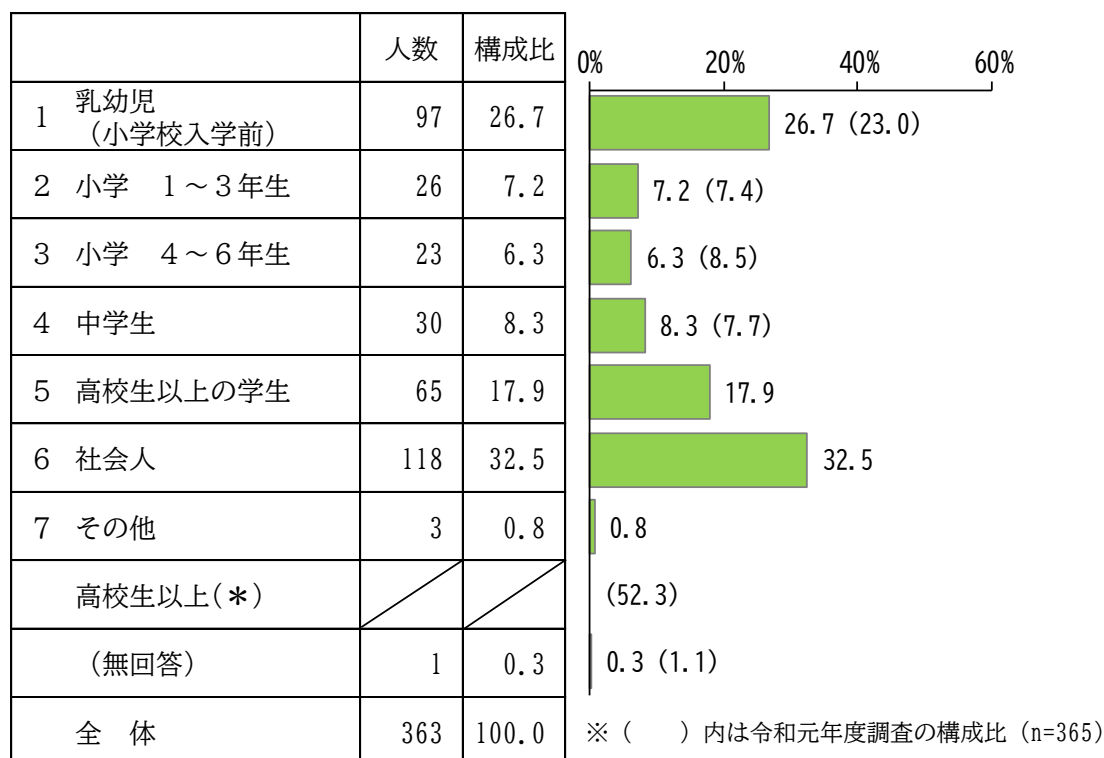
(*)令和元年度調査の選択肢

(5) 世帯構成（F4）

	人数	構成比	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70%
単身（ひとり暮らし）	89	11.0	11.0 (8.7)
夫婦のみ	265	32.8	32.8 (27.2)
親と子	408	50.6	50.6 (56.6)
親と子と孫（3世代）	36	4.5	4.5 (6.8)
その他	8	1.0	1.0 (0.4)
(無回答)	1	0.1	0.1 (0.3)
全 体	807	100.0	

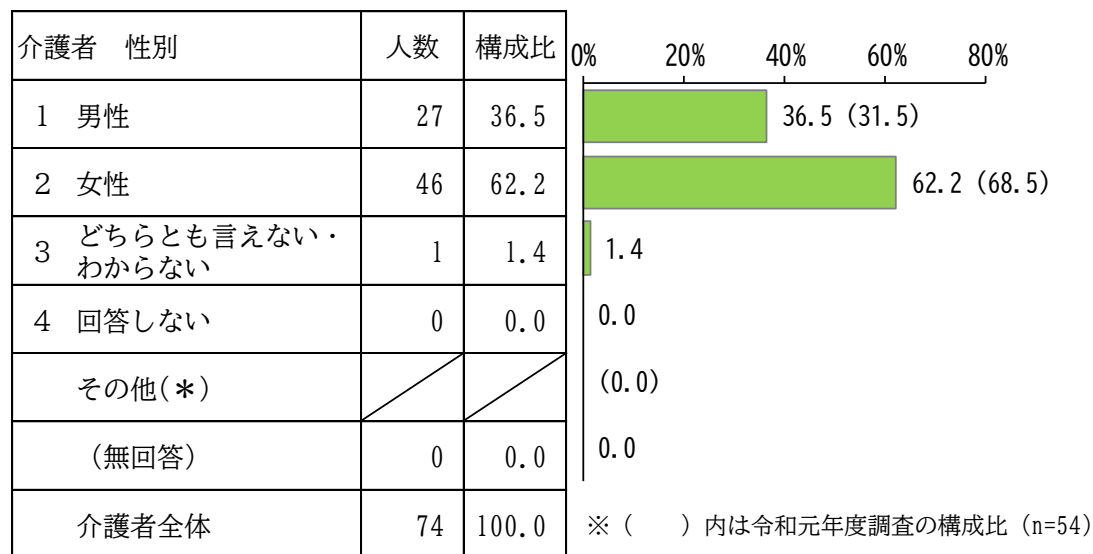
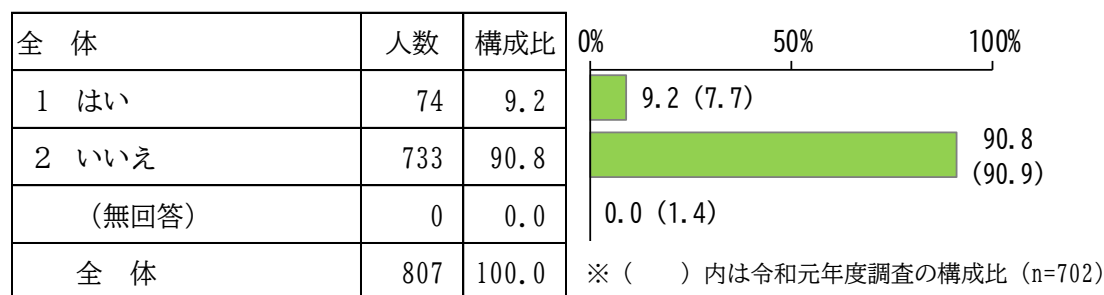
※（ ）内は令和元年度調査の構成比（n=702）

(6) 末子の年代 (F4-1)

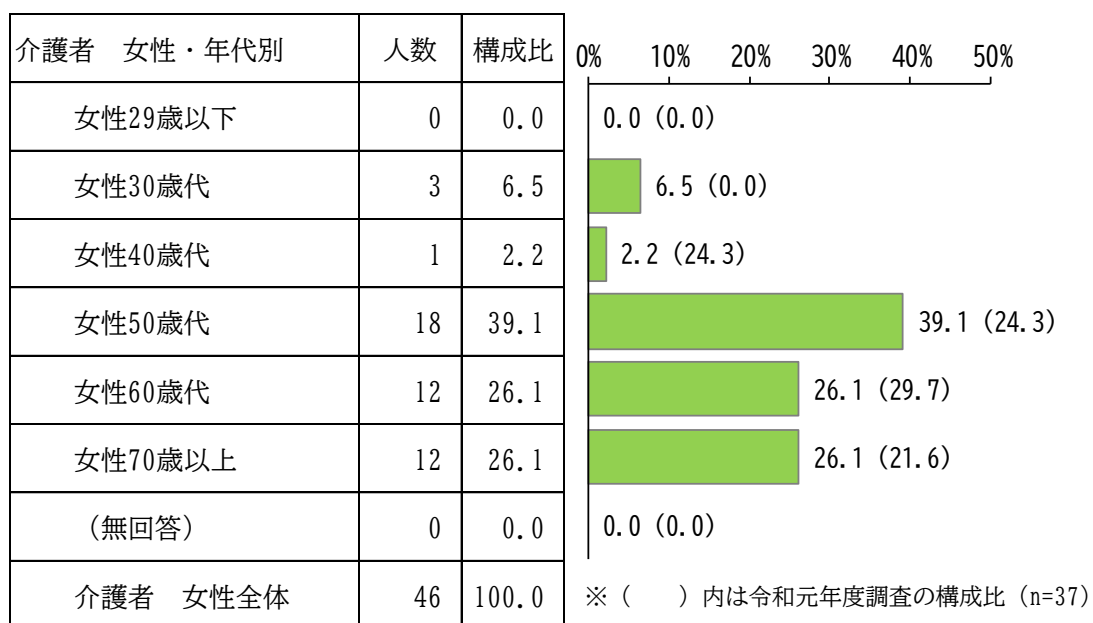
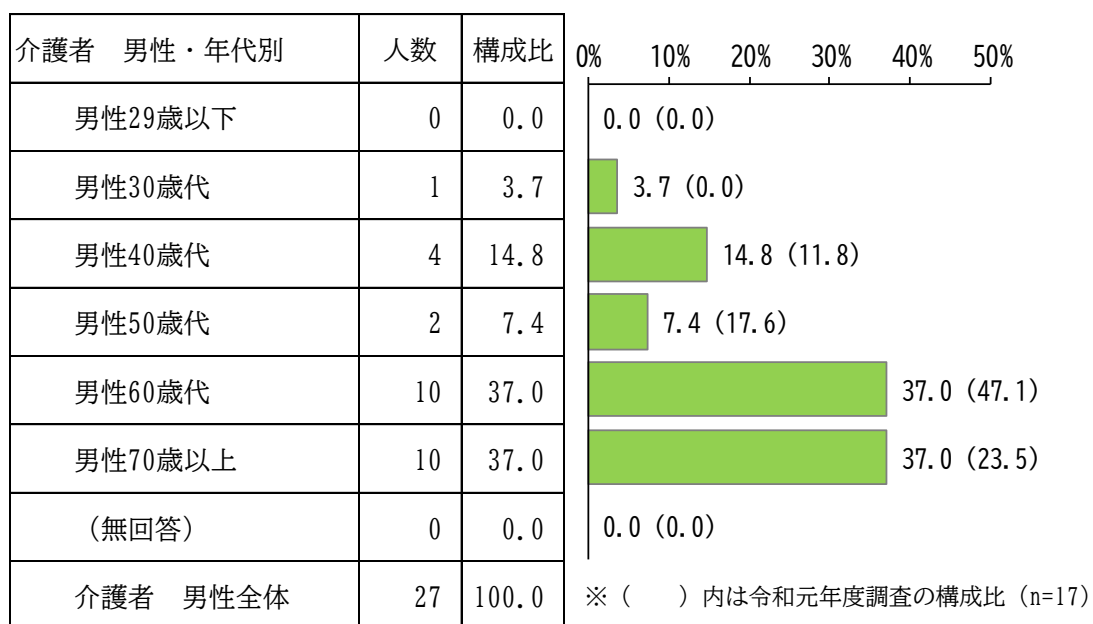


(*)令和元年度調査の選択肢

(7) 介護者の有無 (F5)



(*)令和元年度調査の選択肢



2 生活の中での男女共同参画

(1) 家庭生活での役割分担 (問1)

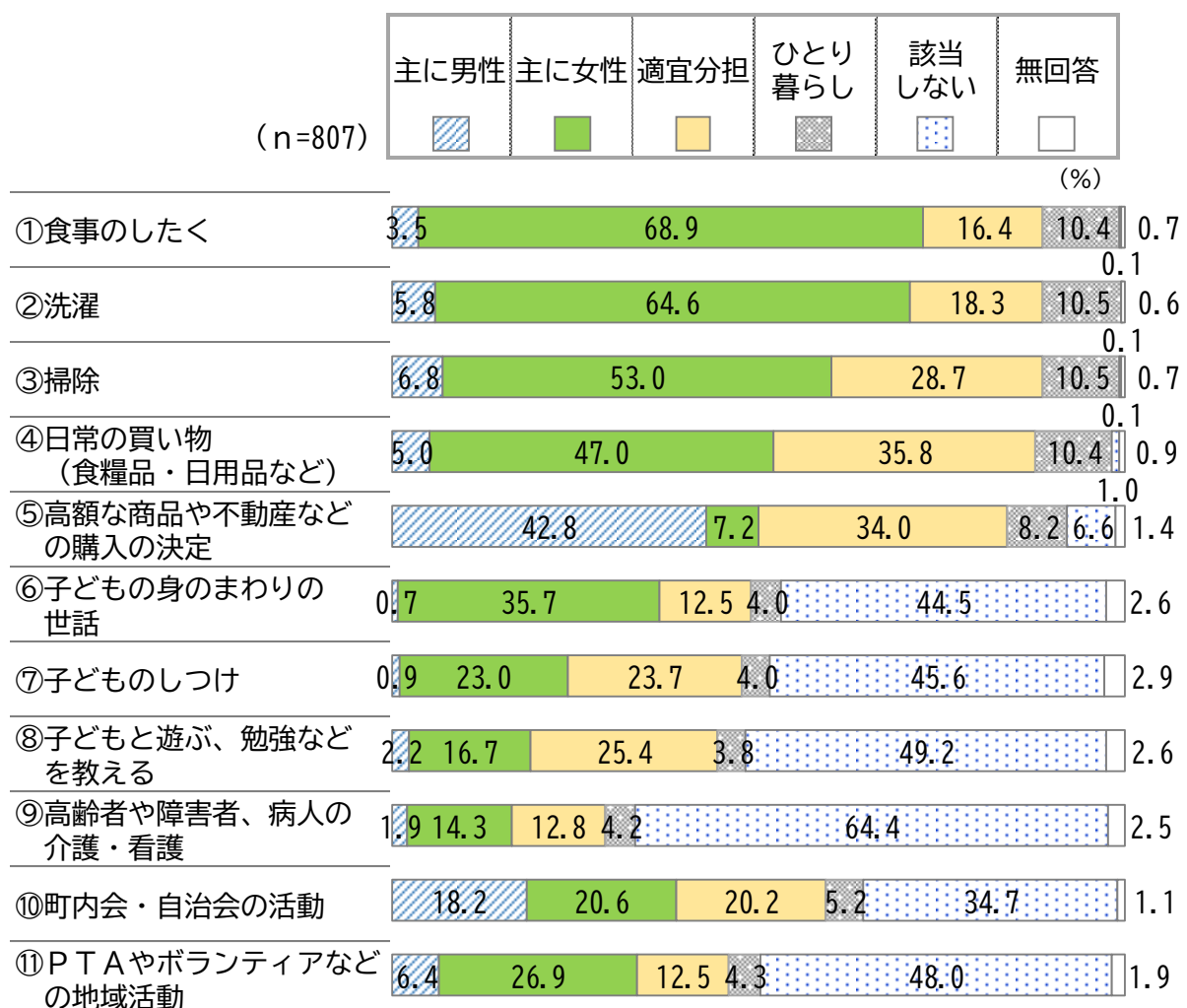
問1 家事や育児などは誰が日常的に行っていますか。①から⑪の項目ごとに1つずつ選んで番号に○をつけてください。(それぞれ○は1つずつ)

家庭生活での役割分担については、「食事のしたく」「洗濯」「掃除」「日常の買い物(食糧品・日用品など)」「子どもの身のまわりの世話」「子どものしつけ」「子どもと遊ぶ、勉強などを教える」「高齢者や障害者、病人の介護・看護」「PTAやボランティアなどの地域活動」といった大半の家事や育児で、「主に女性」の割合が「主に男性」に比べ高くなっている。

一方、「主に男性」の割合が高いのは、「高額な商品や不動産などの購入の決定」のみとなっている。

また、「町内会・自治会の活動」は、「主に男性」「主に女性」「適宜分担」の割合がそれぞれ2割前後で同程度となっている。

図表 家庭生活での役割分担 (全体)

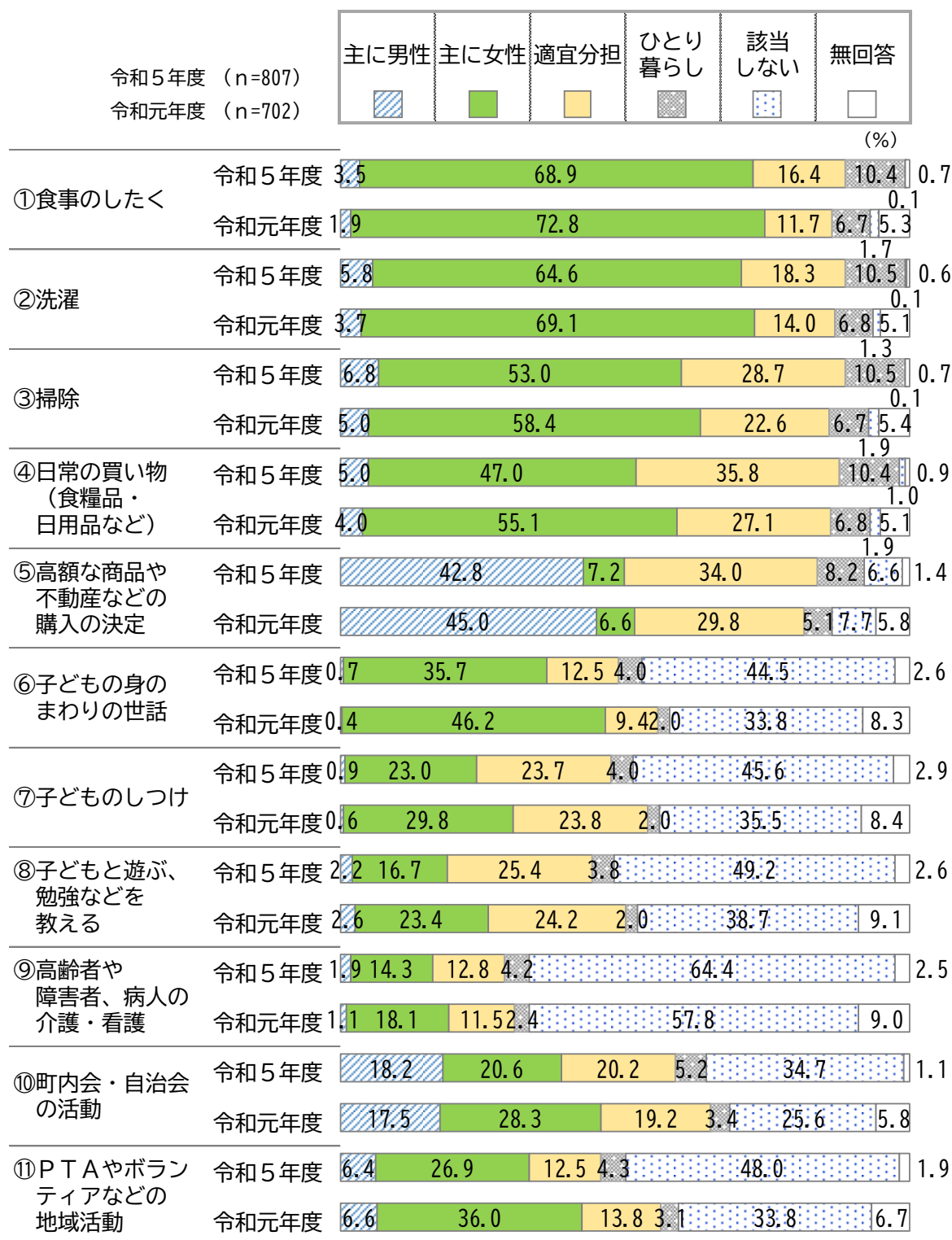


【前回調査との比較】

前回調査との比較でみると、「食事のしたく」「洗濯」「掃除」「日常の買い物（食糧品・日用品など）」は、「主に女性」の割合が減少し「適宜分担」が増加しており、特に「日常の買い物（食糧品・日用品など）」で増加幅が最も大きくなっている。

また、「子どもの身のまわりの世話」「子どものしつけ」「子どもと遊ぶ、勉強などを教える」「高齢者や障害者、病人の介護・看護」「町内会・自治会の活動」「PTAやボランティアなどの地域活動」は、いずれも「該当しない」が増加している。

図表 家庭生活での役割分担（前回調査との比較）

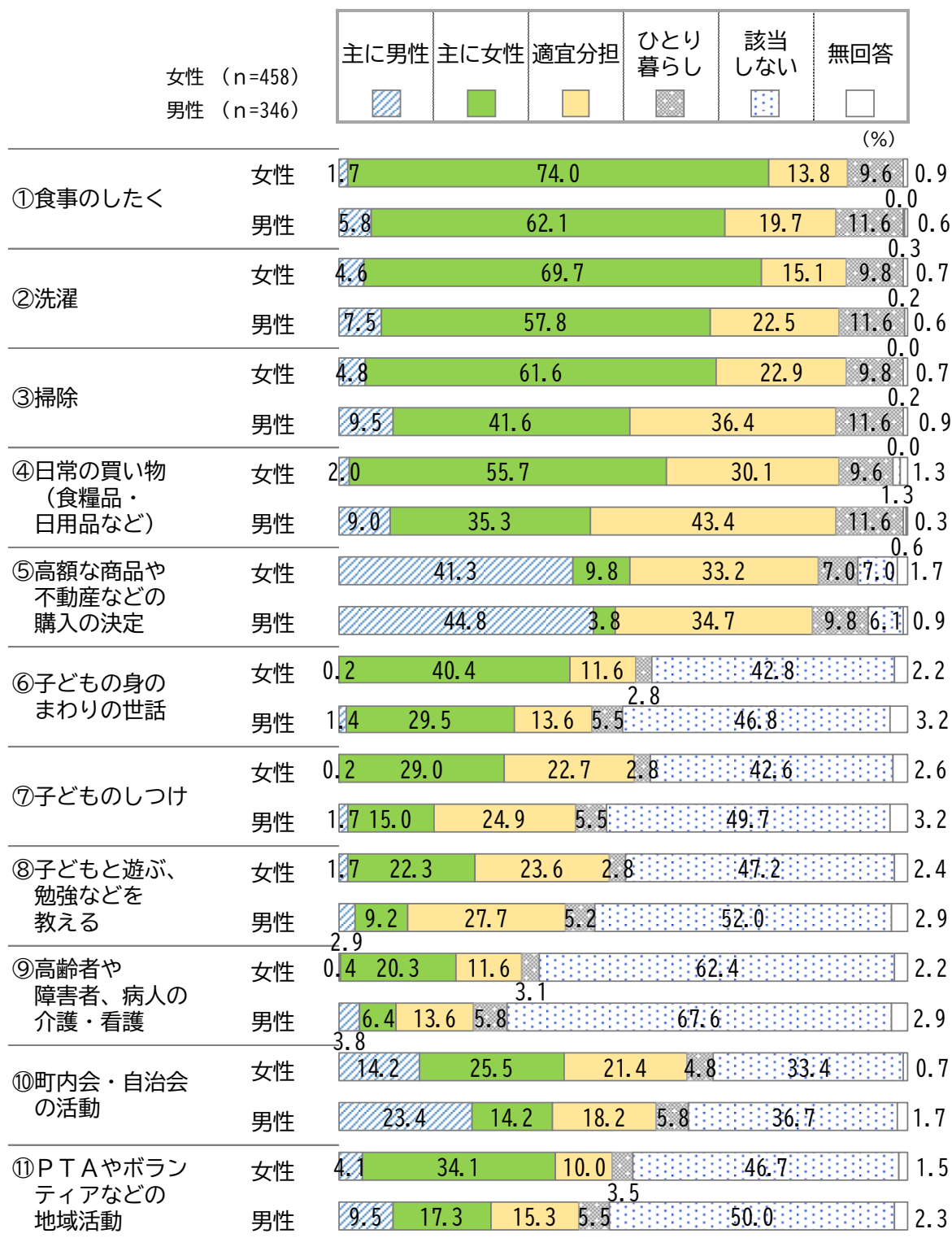


【性別】

性別でみると、すべての項目で女性の「主に女性」の割合が男性の「主に女性」を上回っており、特に「掃除」「日常の買い物（食糧品・日用品など）」で、女性が約20ポイント高くなっている。

また、「町内会・自治会の活動」以外の項目では、男性の「適宜分担」の割合が女性の「適宜分担」を上回っており、特に「掃除」「日常の買い物（食糧品・日用品など）」で、男性が約13ポイント高くなっている。

図表 家庭生活での役割分担（性別）



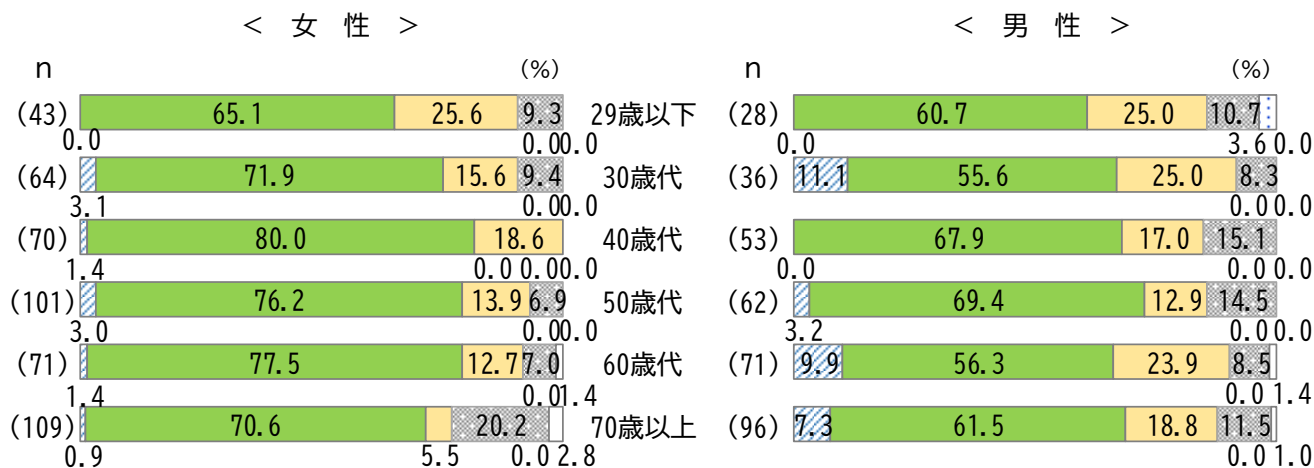
【性年代別】

性年代別でみると、「掃除」「日常の買い物（食糧品・日用品など）」は30歳代と40歳代で、女性の「主に女性」の割合が男性の「主に女性」を大きく上回っている。

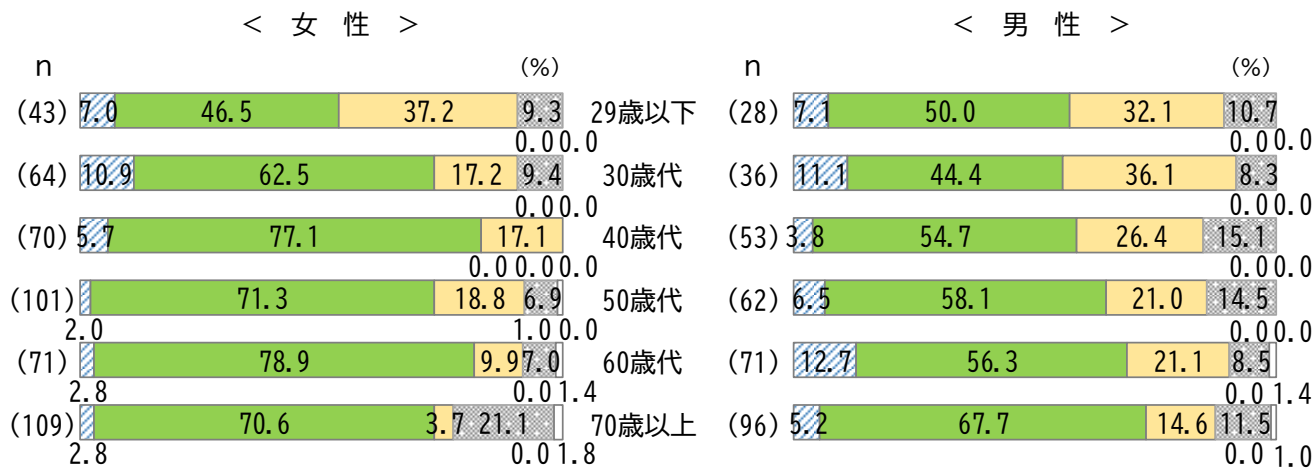
また、「掃除」は30歳代で、「日常の買い物（食糧品・日用品など）」は40歳代で、男性の「適宜分担」の割合が女性の「適宜分担」を大きく上回っている。

図表 家庭生活での役割分担（性年代別）

①食事のしたく

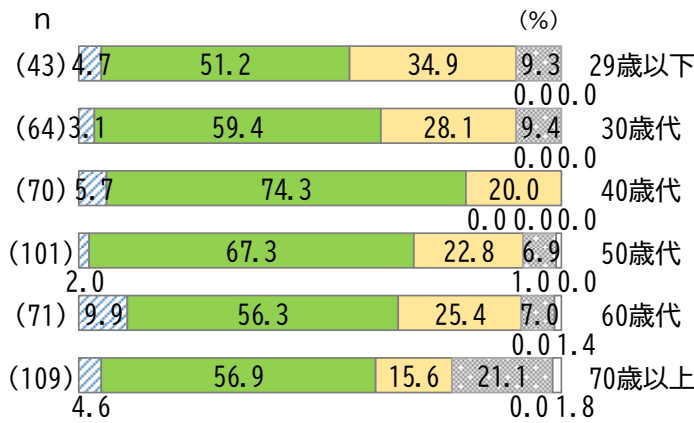


②洗濯

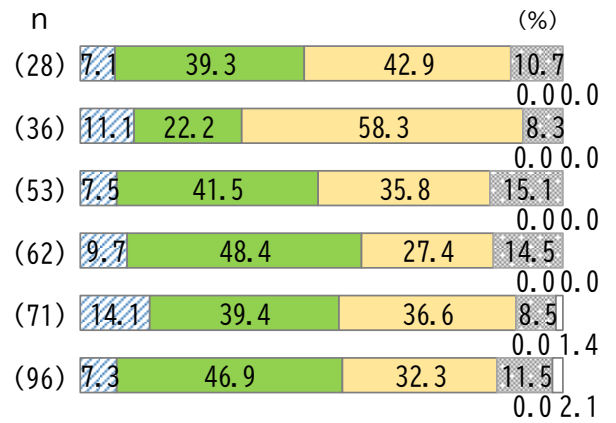


③掃除

< 女性 >

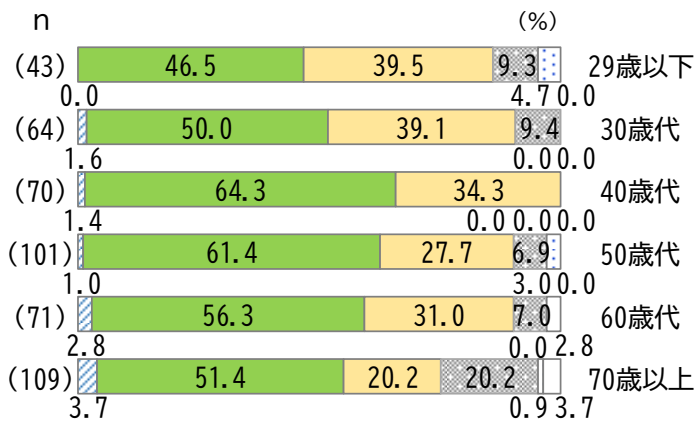


< 男性 >

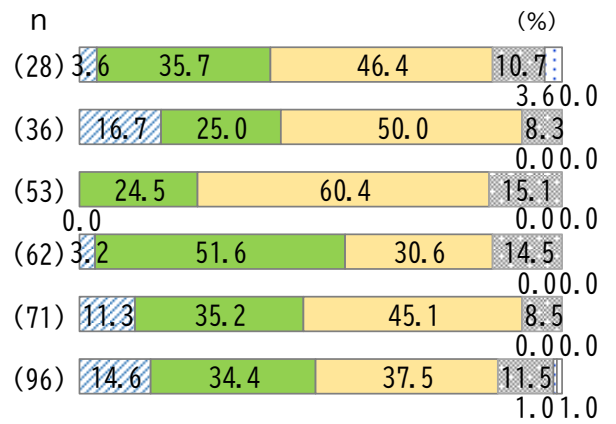


④日常の買い物（食糧品・日用品など）

< 女性 >

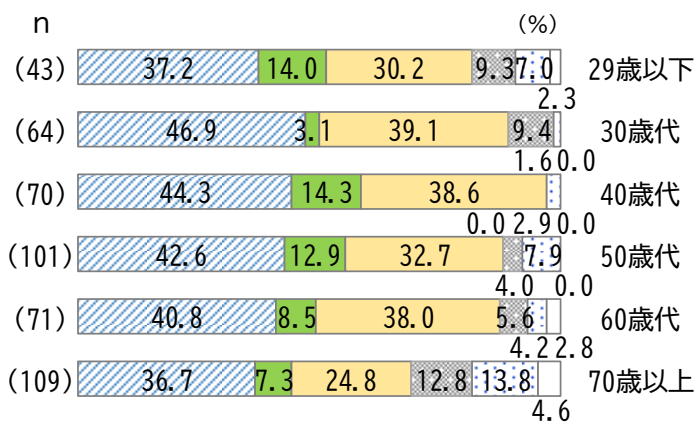


< 男性 >

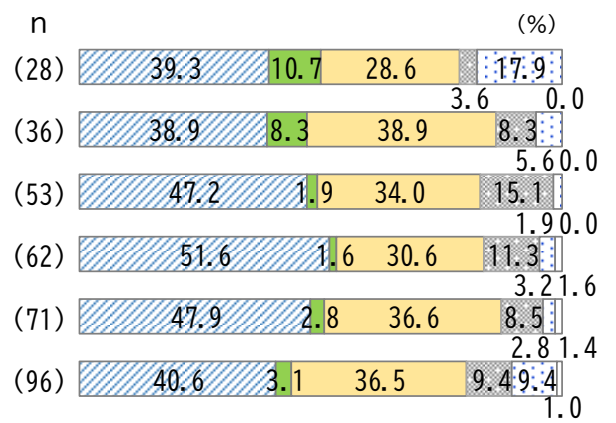


⑤高額な商品や不動産などの購入の決定

< 女性 >

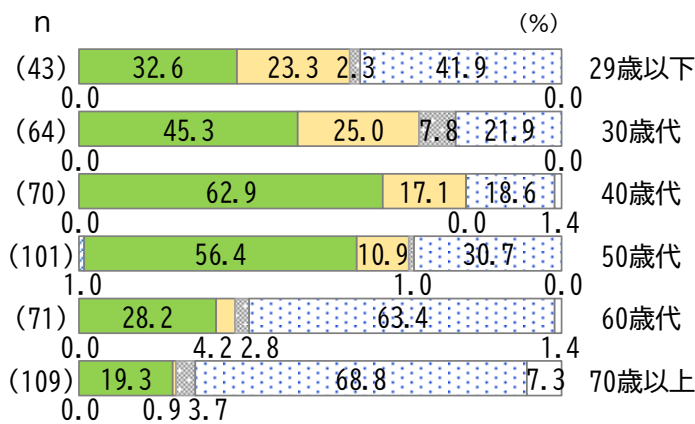


< 男性 >

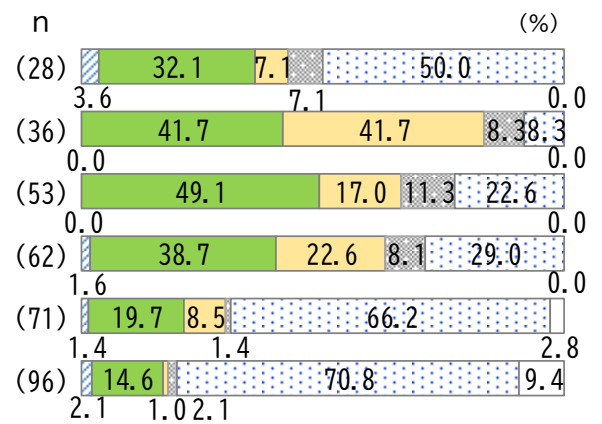


⑥子どもの身のまわりの世話

< 女性 >

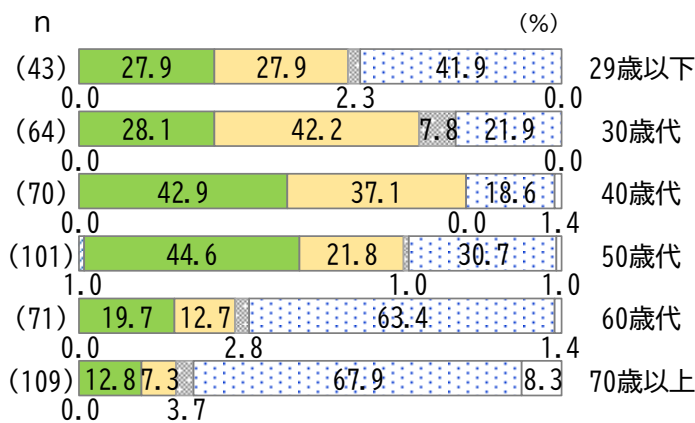


< 男性 >

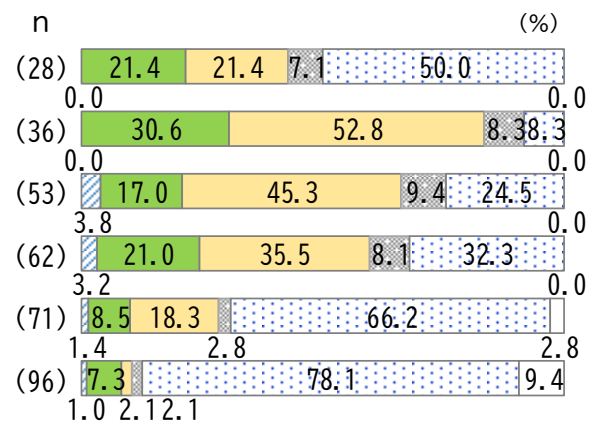


⑦子どものしつけ

< 女性 >

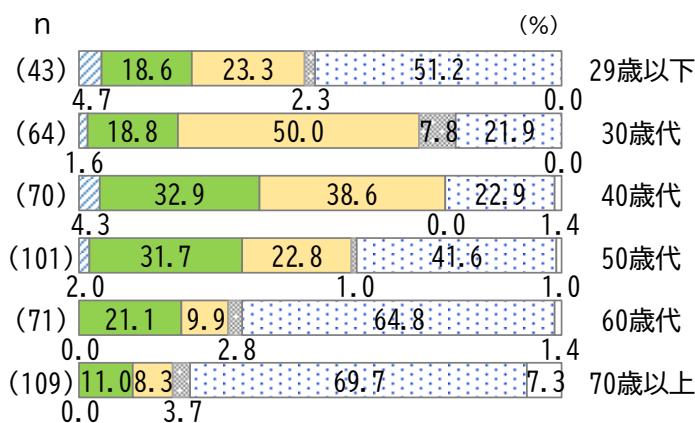


< 男性 >

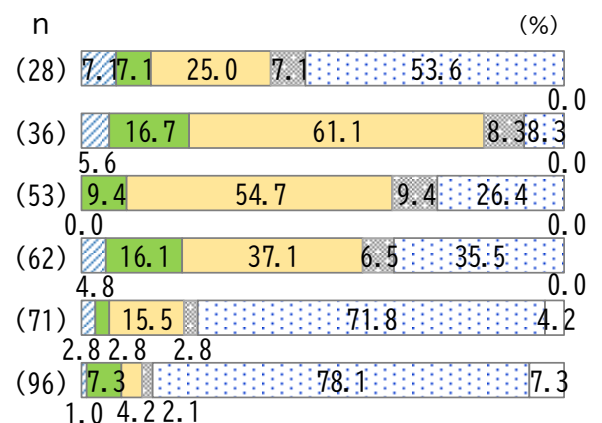


⑧子どもと遊ぶ、勉強などを教える

< 女性 >

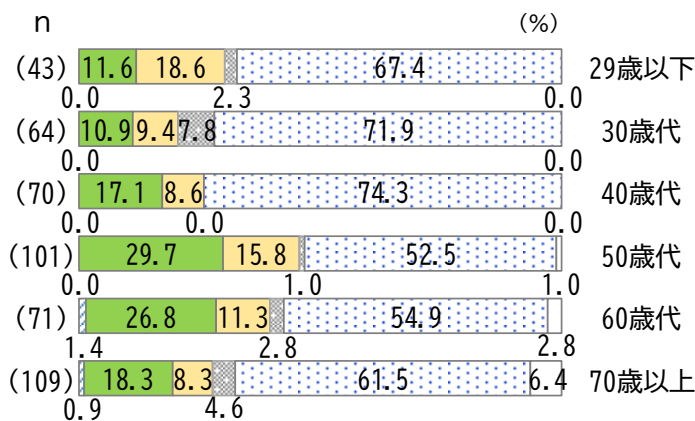


< 男性 >

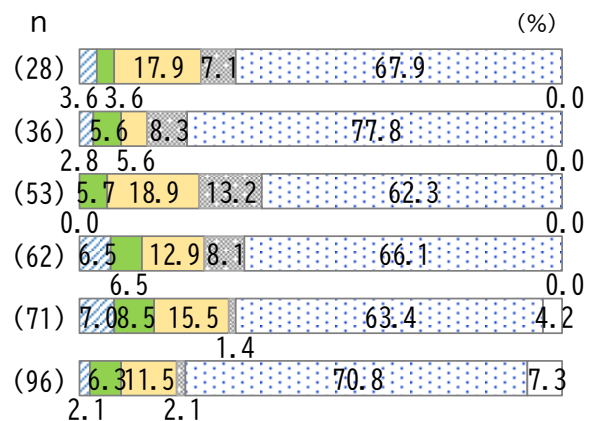


⑨高齢者や障害者、病人の介護・看護

< 女性 >

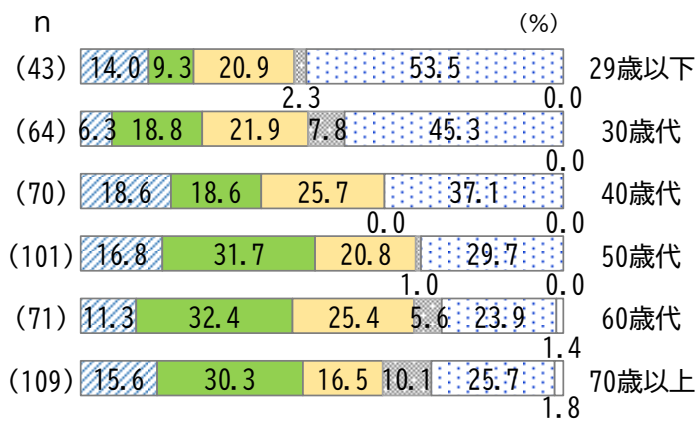


< 男性 >

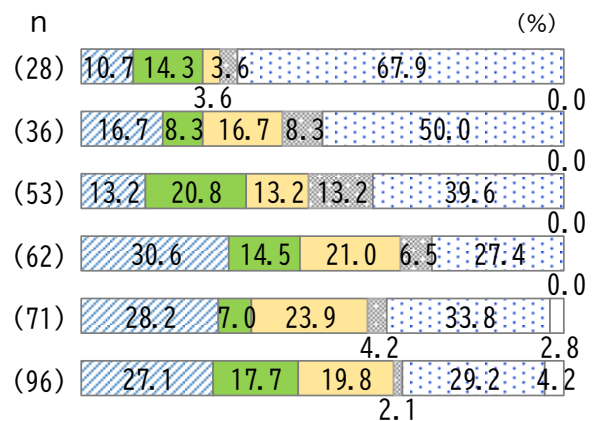


⑩町内会・自治会の活動

< 女性 >

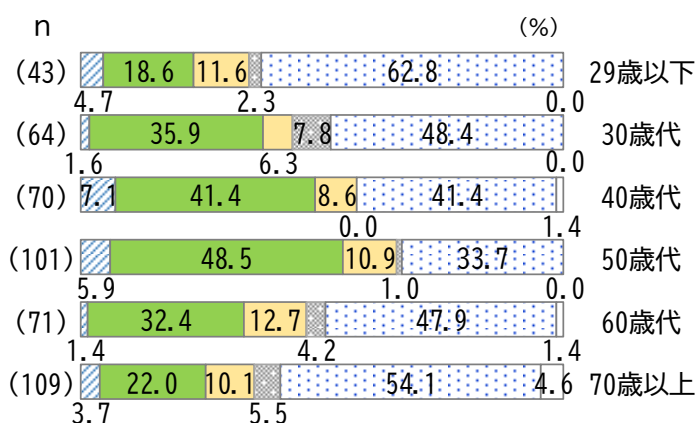


< 男性 >

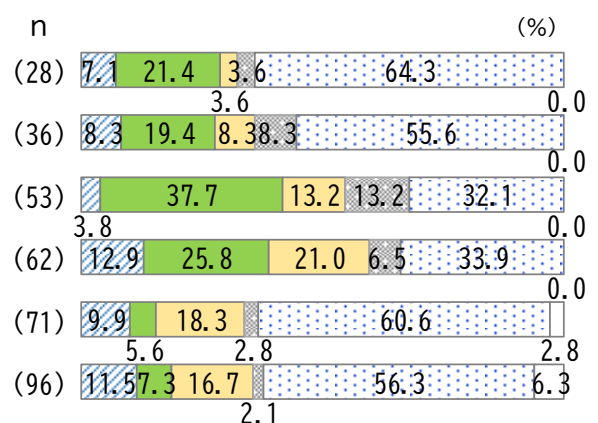


⑪PTAやボランティアなどの地域活動

< 女性 >



< 男性 >



3 働き方

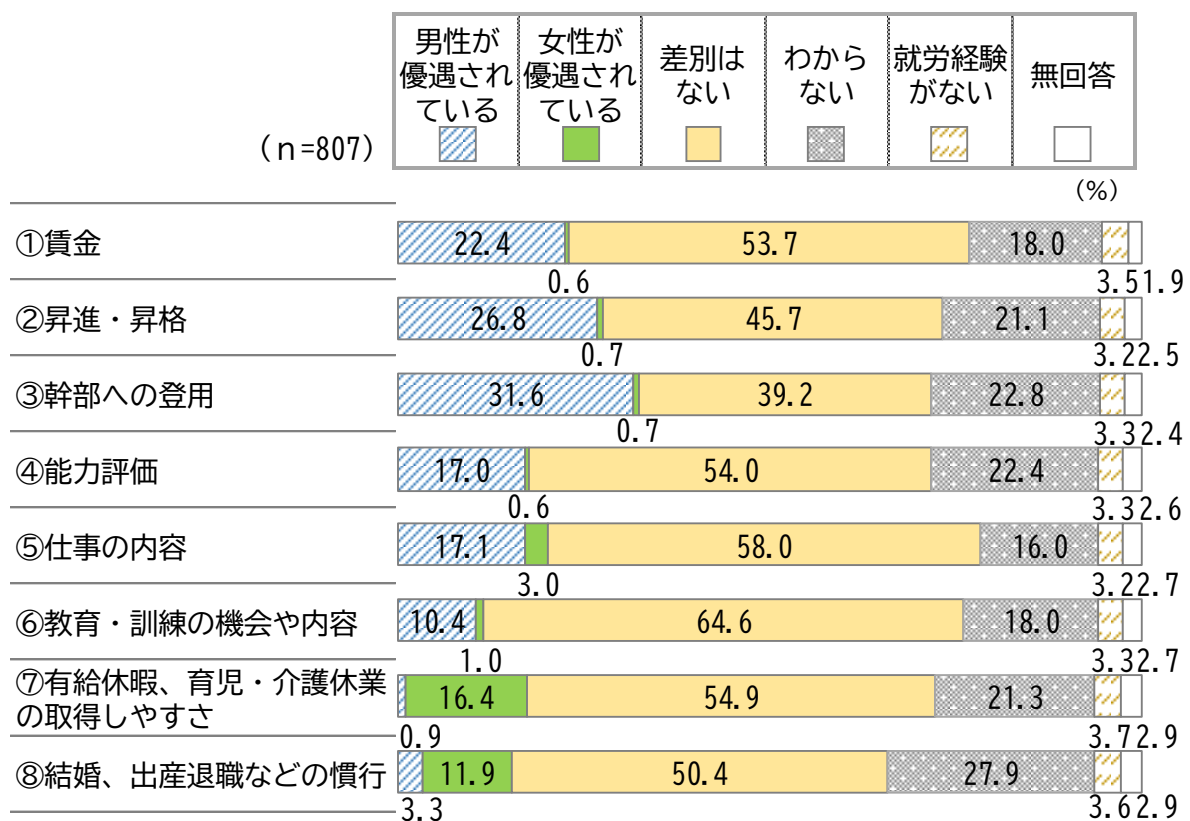
(1) 職場における性別を理由とする差別の有無 (問2)

問2 あなたが働いている（または働いていた）職場では、仕事の内容や待遇の面で、性別を理由とする差別がありますか（またはありましたか）。①から⑧の項目ごとに1つずつ選んで番号に○をつけてください。（それぞれ○は1つずつ）

職場における性別を理由とする差別の有無については、「賃金」「昇進・昇格」「幹部への登用」「能力評価」「仕事の内容」「教育・訓練の機会や内容」で、「男性が優遇されている」の割合が「女性が優遇されている」を上回っており、特に「幹部への登用」は3割を超えて最も高くなっている。

また、「有給休暇、育児・介護休業の取得しやすさ」「結婚、出産退職などの慣行」は、いずれも1割台ではあるが、「女性が優遇されている」の割合が「男性が優遇されている」を上回っている。

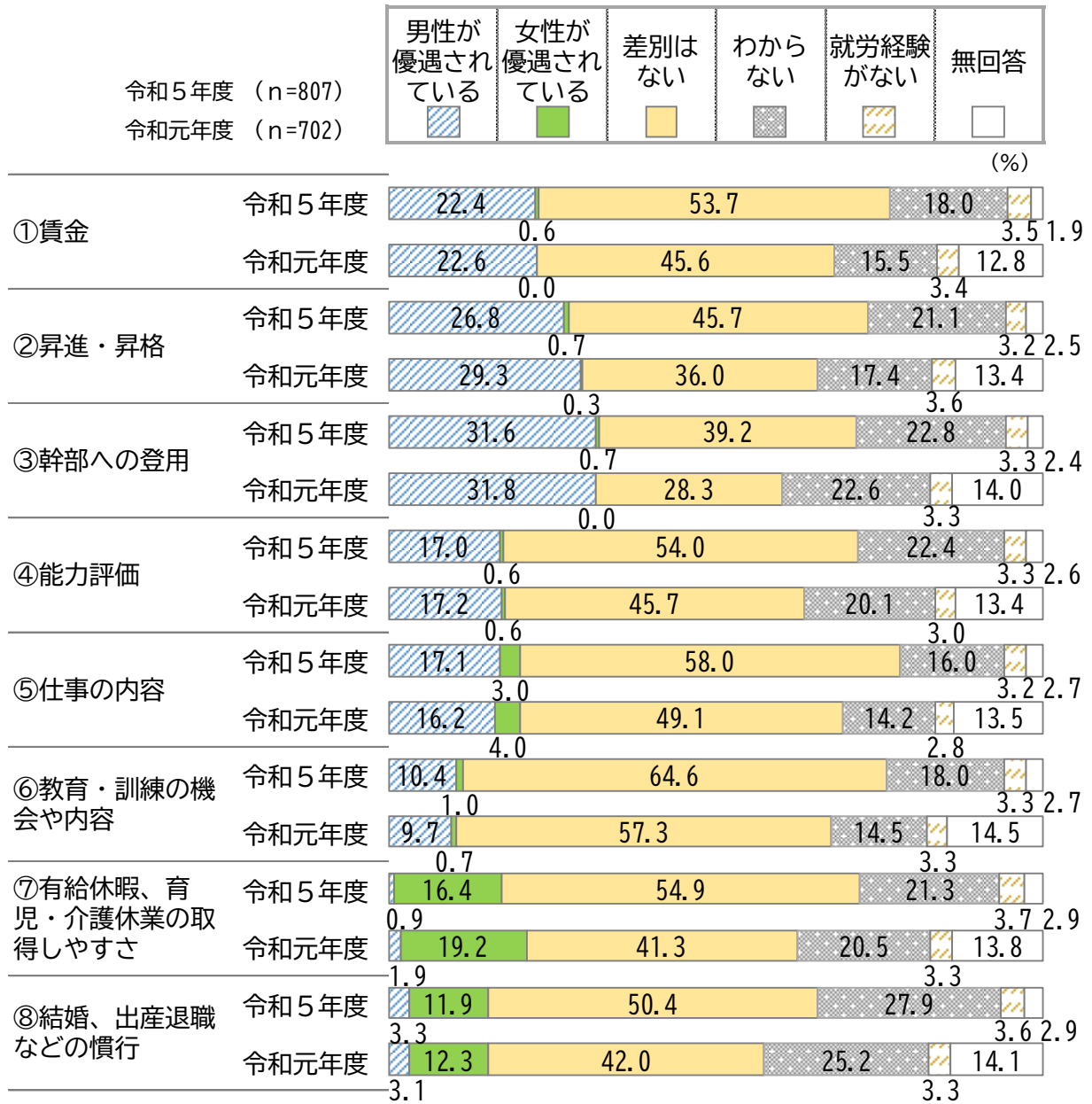
図表 職場における性別を理由とする差別の有無 (全体)



【前回調査との比較】

前回調査との比較でみると、すべての項目において、「差別はない」との回答が増えている。

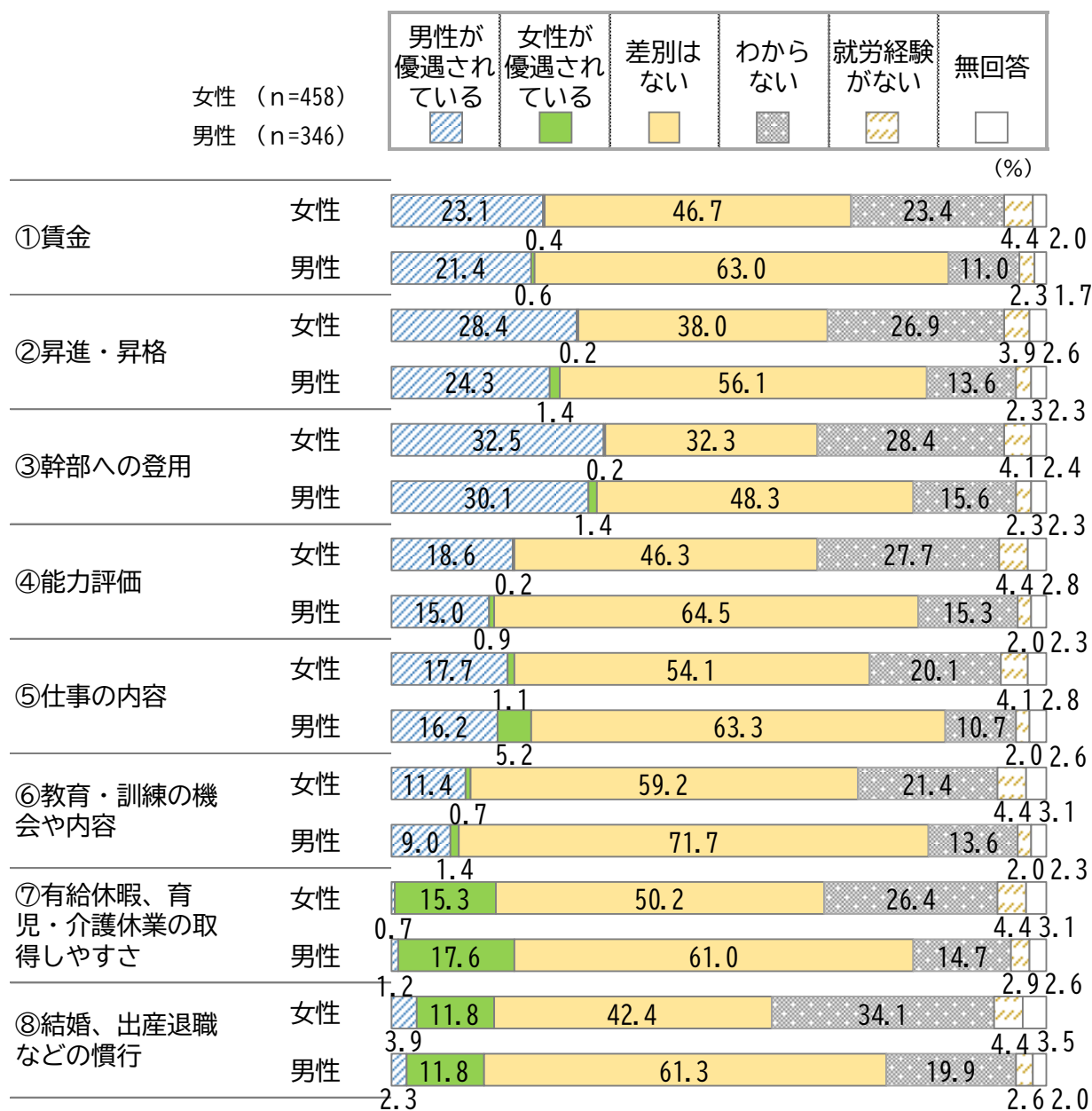
図表 職場における性別を理由とする差別の有無（前回調査との比較）



【性別】

性別でみると、「男性が優遇されている」「女性が優遇されている」のどちらの割合も男女で大きな差はみられないが、どの項目も男性は女性に比べ「差別はない」の割合が高く、女性は男性に比べ「わからない」の割合が高くなっている。

図表 職場における性別を理由とする差別の有無（性別）



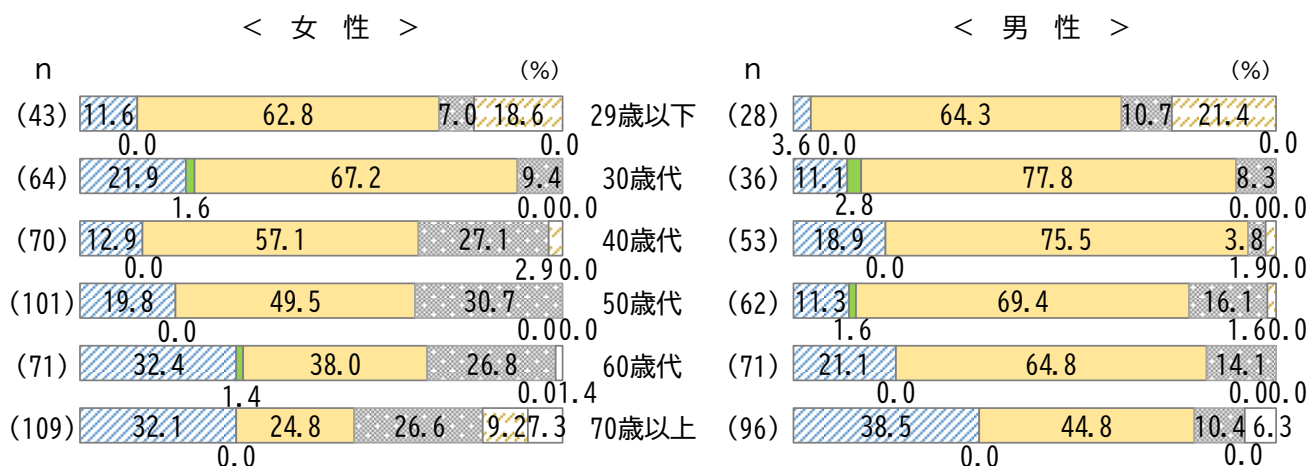
【性年代別】

性年代別でみると、「賃金」「昇進・昇格」「幹部への登用」の「男性が優遇されている」の割合は、女性の60歳代と70歳以上、男性の70歳以上が、それぞれ他の年代に比べ高くなっている。

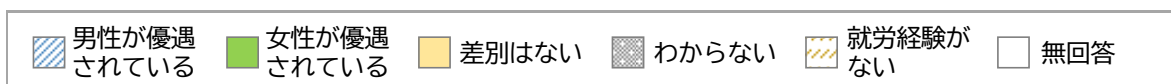
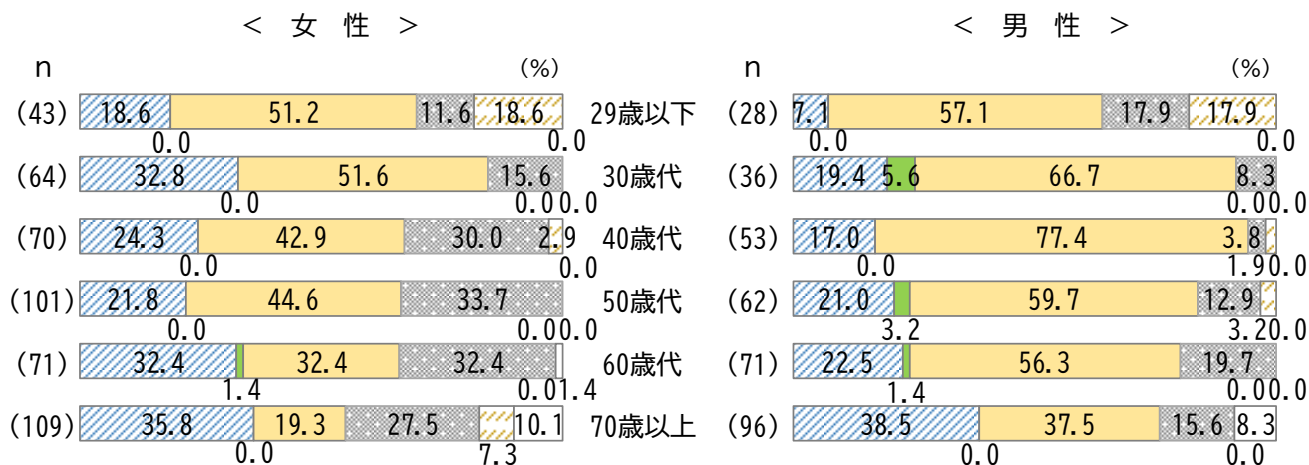
「有給休暇、育児・介護休業の取得しやすさ」「結婚、出産退職などの慣行」の「女性が優遇されている」の割合は、男女とも30歳代で他の年代に比べ高くなっている。

図表 職場における性別を理由とする差別の有無（性年代別）

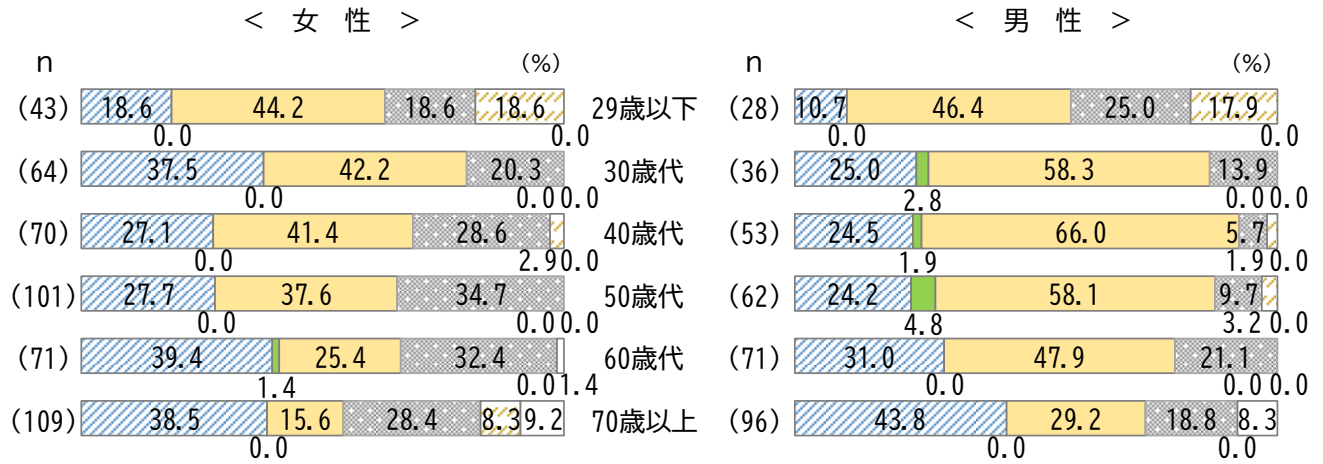
①賃金



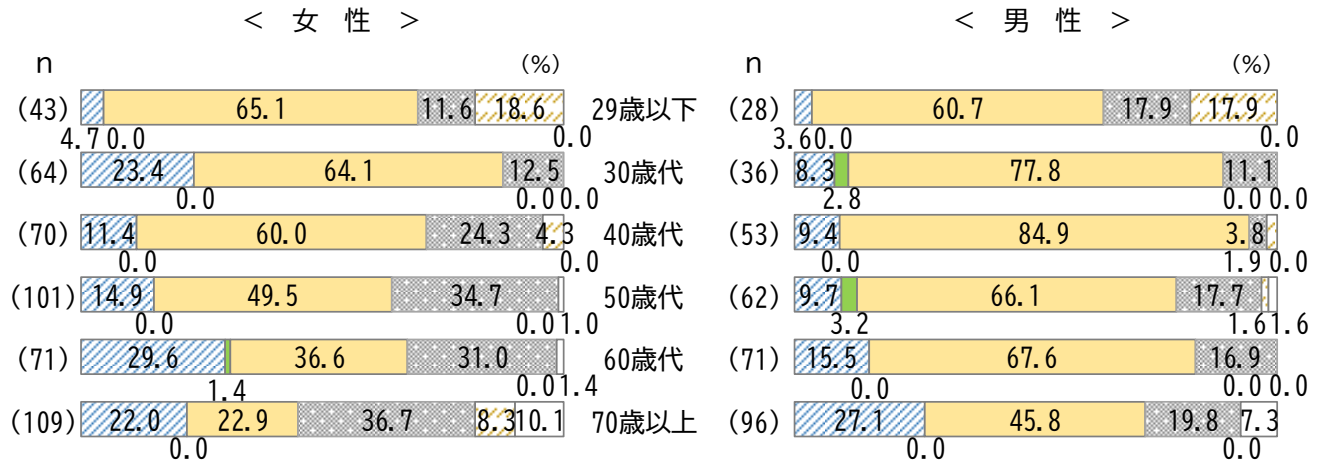
②昇進・昇格



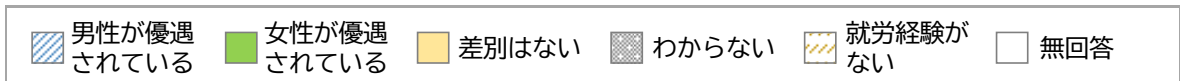
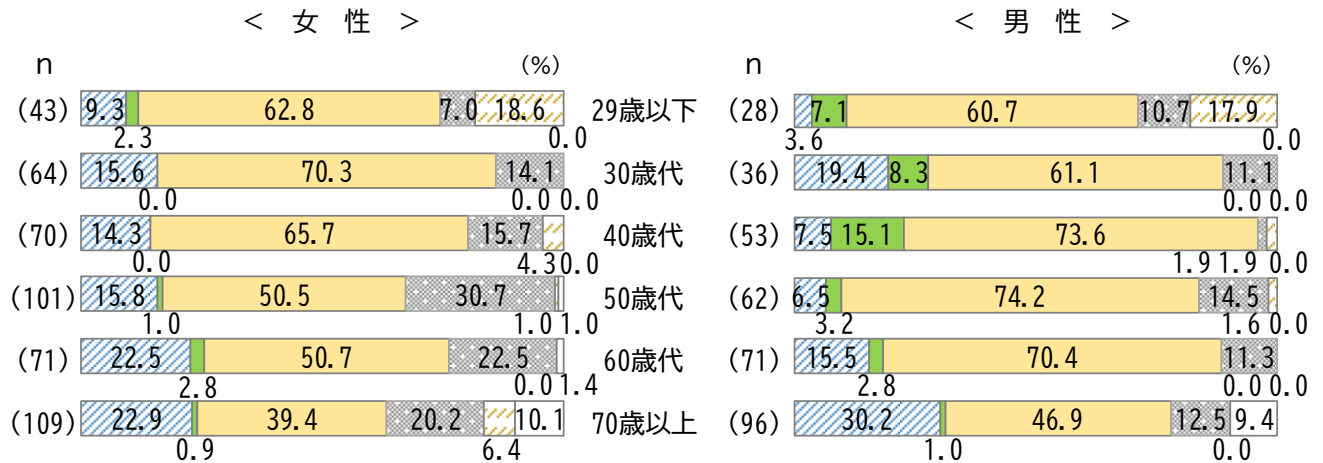
③幹部への登用



④能力評価

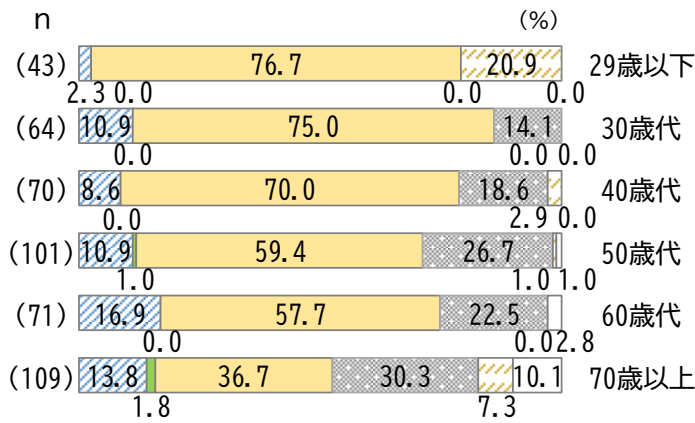


⑤仕事の内容

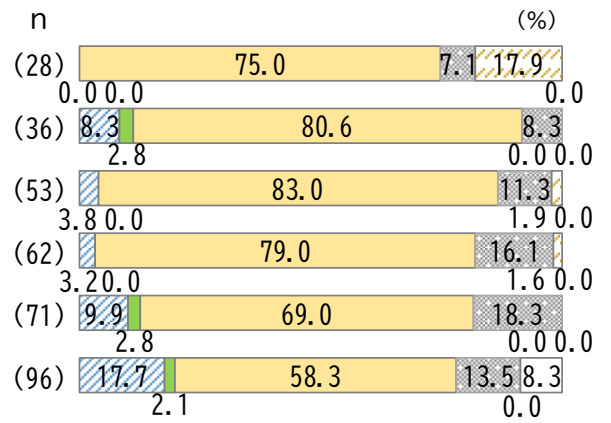


⑥教育・訓練の機会や内容

< 女性 >

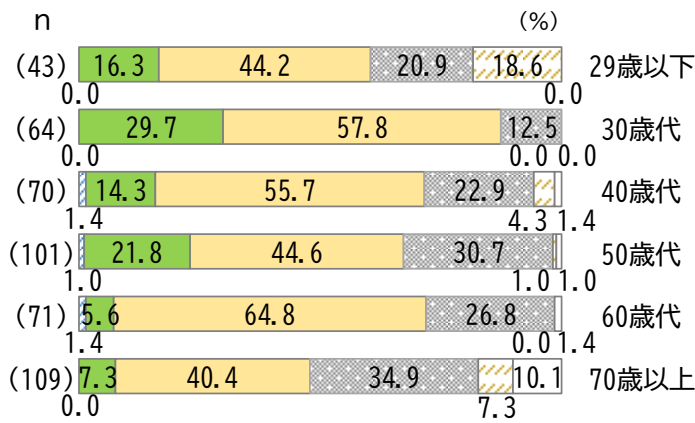


< 男性 >

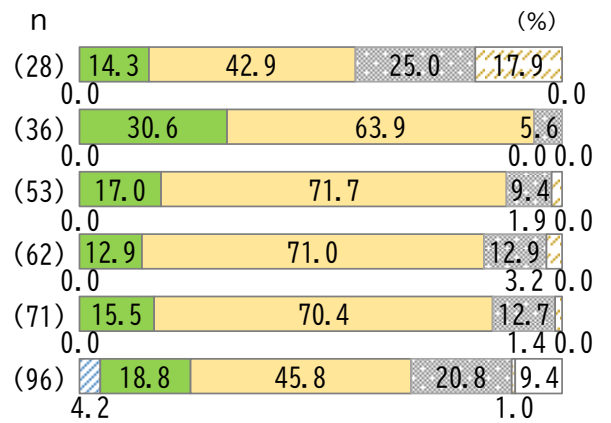


⑦有給休暇、育児・介護休業の取得しやすさ

< 女性 >

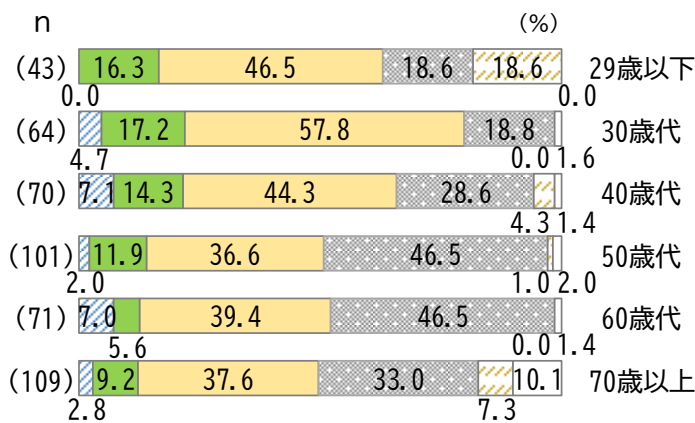


< 男性 >

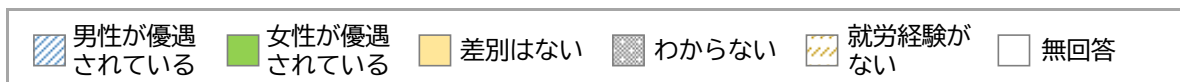
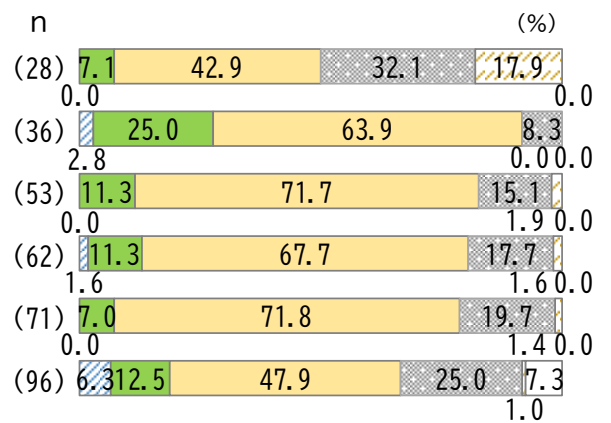


⑧結婚、出産退職などの慣行

< 女性 >



< 男性 >



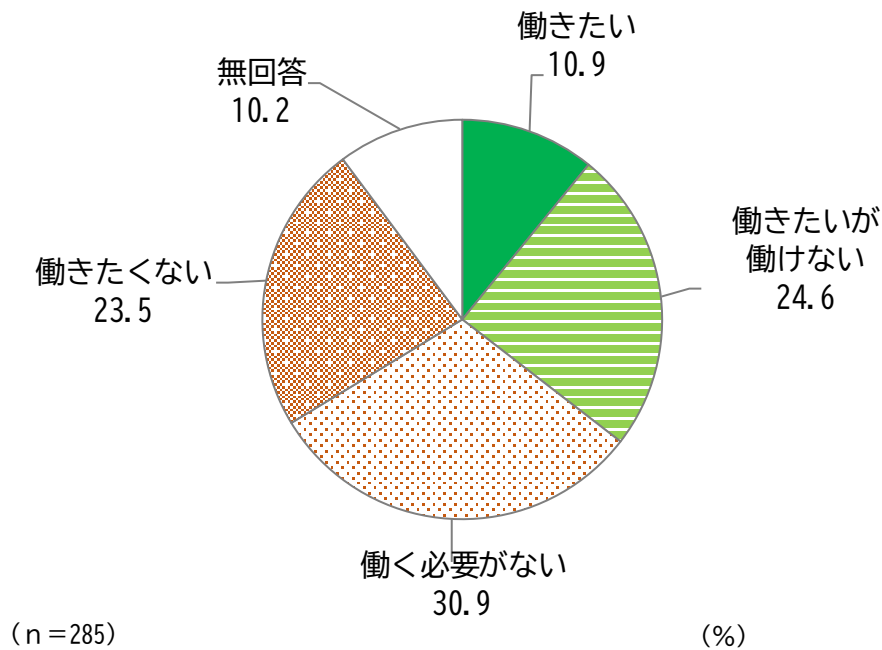
(2) 家事専業または無職の就労意向 (問3)

(1ページ目のF3で「5 家事専業 (専業主婦や主夫)」または「6 無職」とお答えの方にお聞きします。)

問3 現在または将来、あなたは働きたいと思いますか。(○は1つ)

家事専業または無職と回答した方の就労意向については、「働く必要がない」が3割で最も高く、「働きたいが働けない」と「働きたくない」が2割台半ば、「働きたい」が1割となっている。

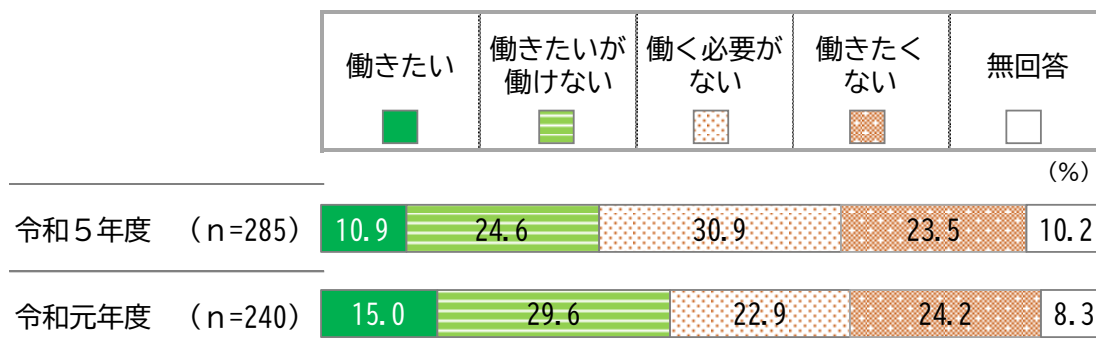
図表 家事専業または無職の就労意向 (全体)



【前回調査との比較】

前回調査との比較でみると、「働く必要がない」が約8ポイント増加し、「働きたいが働けない」が約5ポイント減少している。

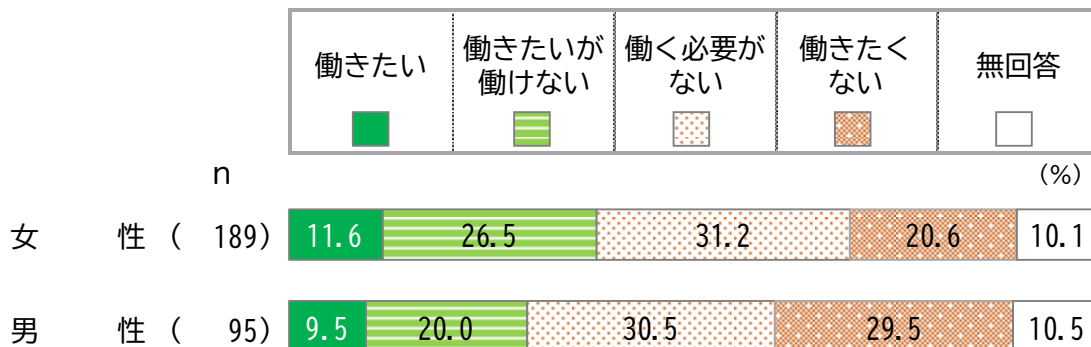
図表 家事専業または無職の就労意向 (前回調査との比較)



【性別】

性別で見ると、女性の「働きたいが働けない」が男性に比べ約7ポイント高く、男性の「働きたくない」が女性に比べ約9ポイント高くなっている。

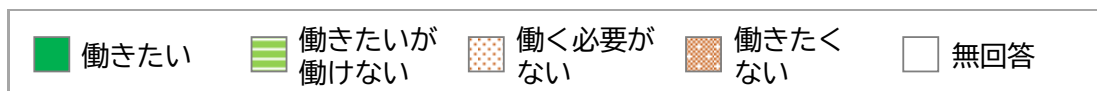
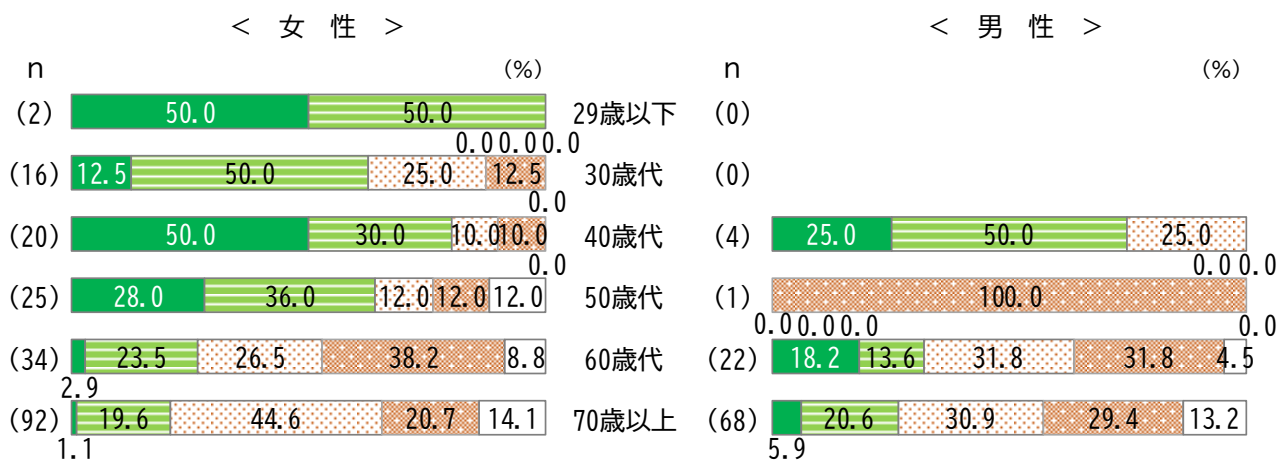
図表 家事専業または無職の就労意向（性別）



【性年代別】

回答者数が少ないことから参考として図示するにとどめる。

図表 家事専業または無職の就労意向（性年代別）



(2-1) 「働きたいが働けない」と回答した理由 (問3-1)

(問3で「2 働きたいが働けない」とお答えの方にお聞きします。)

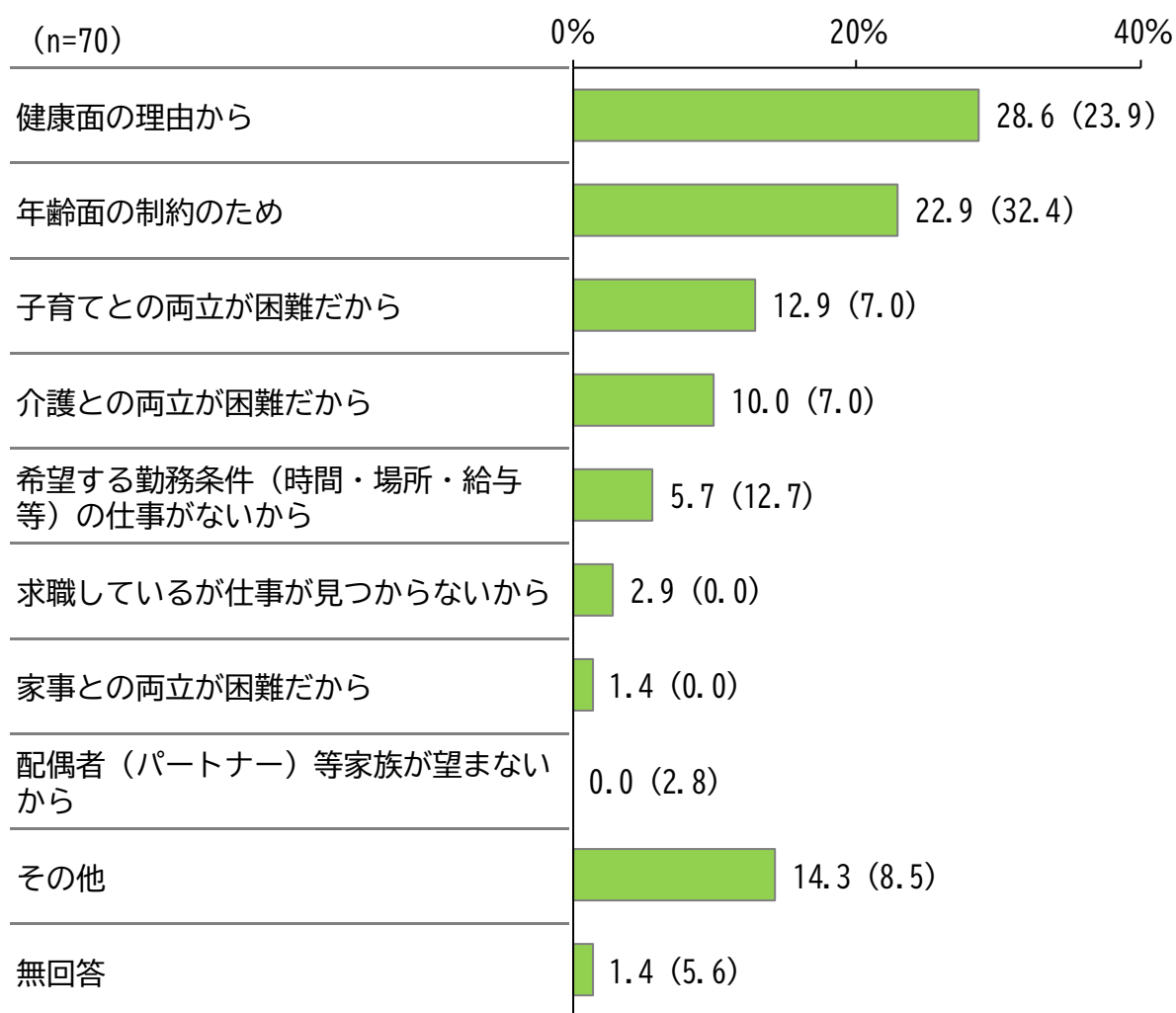
問3-1 「働きたいが働けない」と答えた、最も大きな理由を1つ選んで番号に○をつけてください。(○は1つだけ)

「働きたいが働けない」と回答した理由については、「健康面の理由から」が約3割で最も高く、「年齢面の制約のため」が2割を超えて続いている。

前回調査との比較でみると、「年齢面の制約のため」が約10ポイント減少している。

また、「子育てとの両立が困難だから」が約6ポイント増加し、「希望する勤務条件(時間・場所・給与等)の仕事がないから」が約7ポイント減少している。

図表 「働きたいが働けない」と回答した理由 (全体/前回調査との比較)

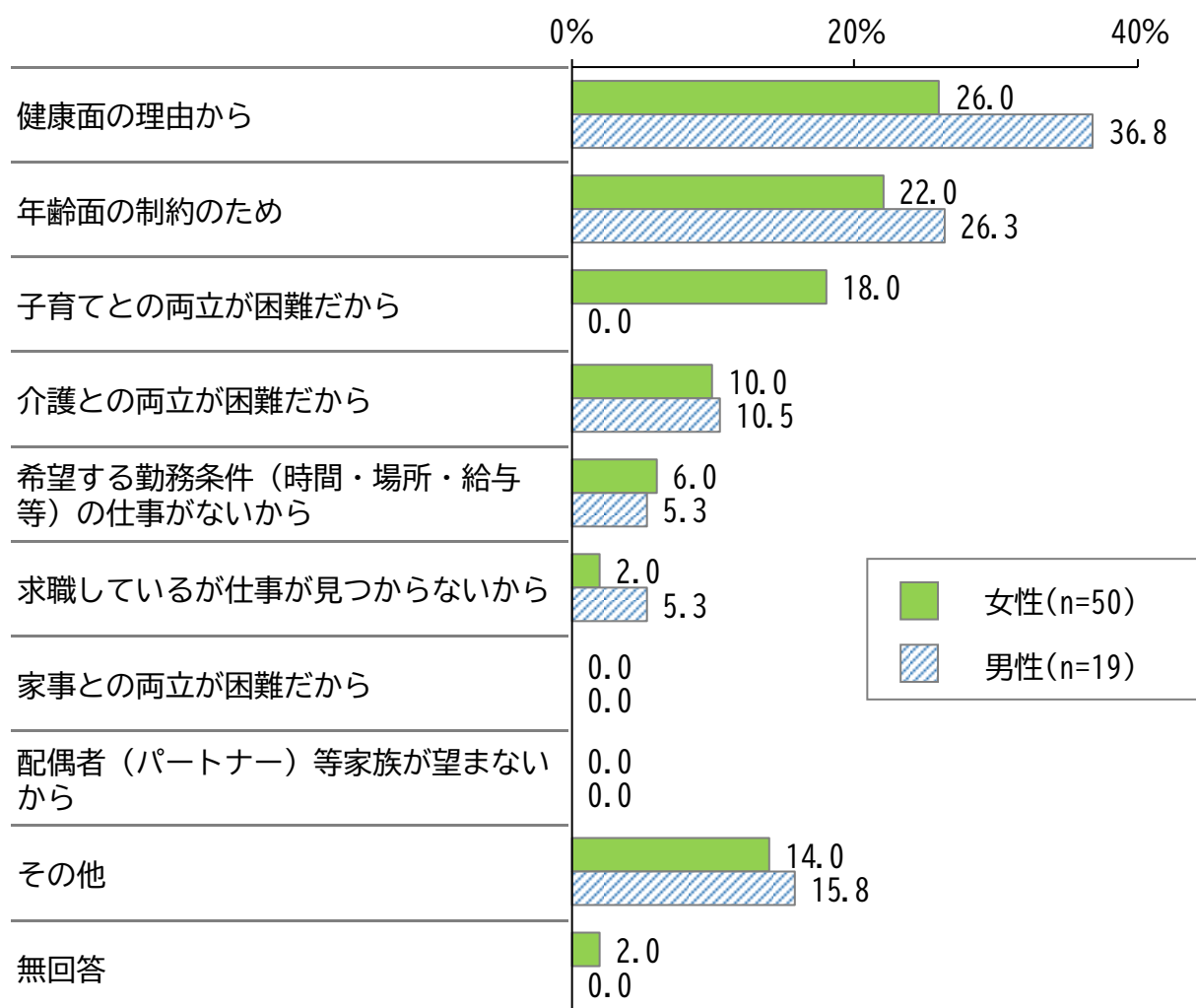


※ () 内は令和元年度調査の結果 (n=71)

【性別】

回答者数が少ないことから参考として図示するにとどめる。

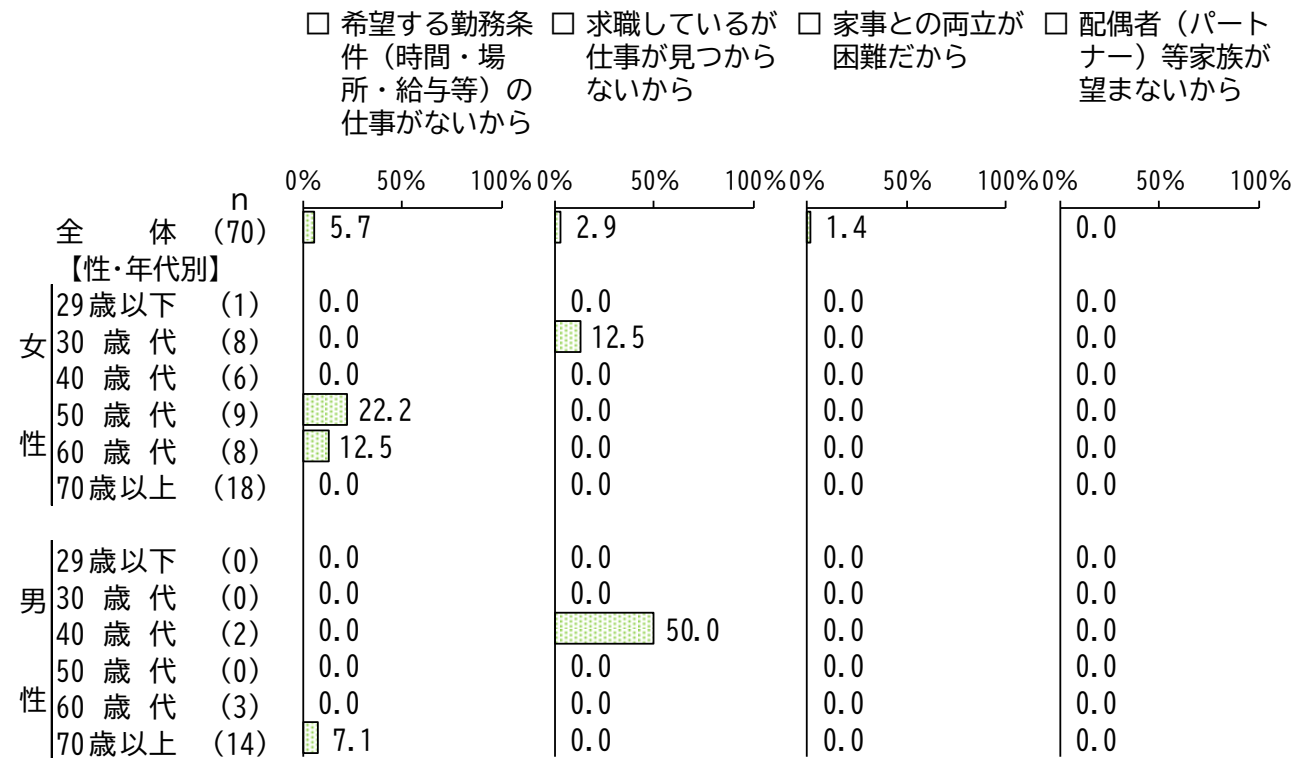
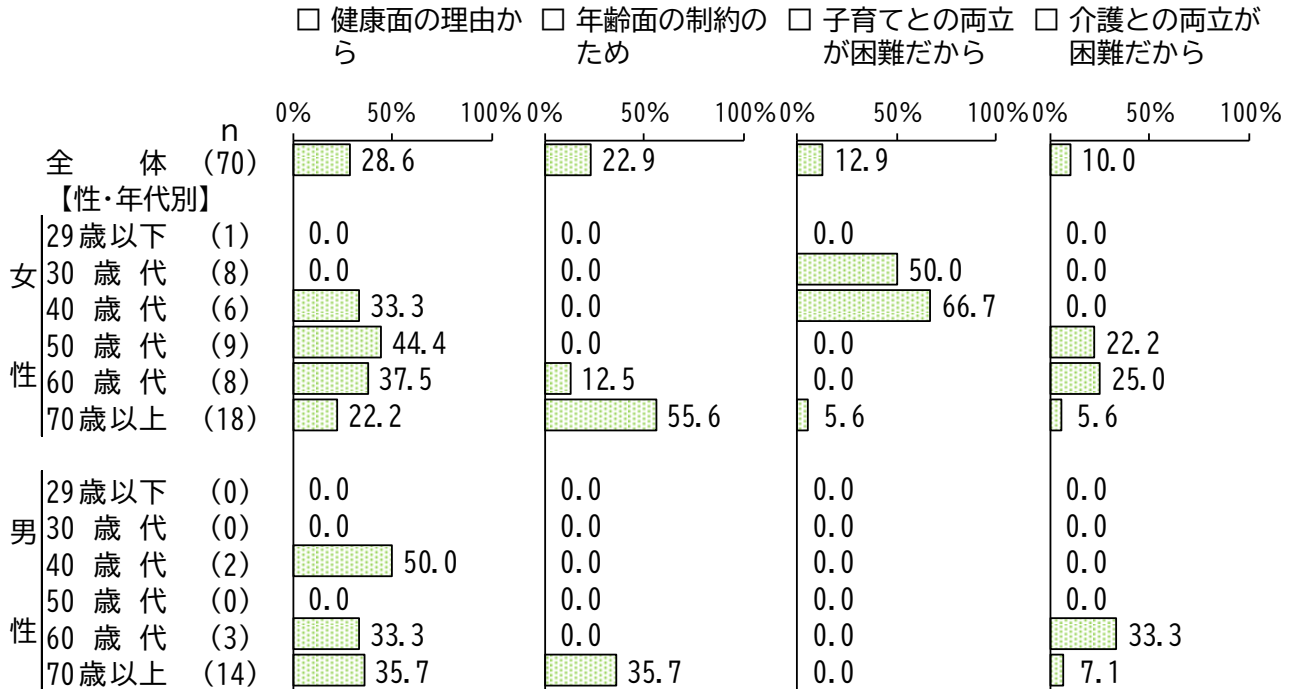
図表 「働きたいが働けない」と回答した理由（性別）

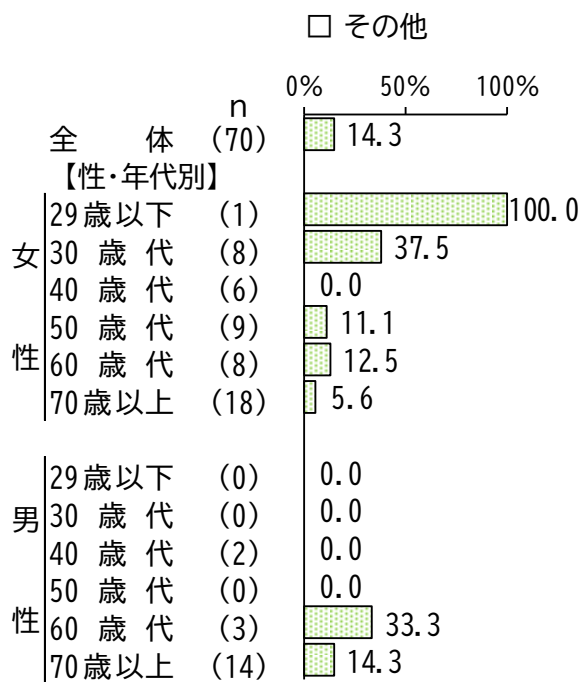


【性年代別】

回答者数が少ないことから参考として図示するにとどめる。

図表 「働きたいが働けない」と回答した理由（性年代別）





【「その他」の主な意見】

- 配偶者の意見は「お金は稼いでほしいけど、協力、配慮をするくらいなら働かなくていい」とのことでした。したくないというよりは、協力も配慮もできないそうです。（女性・30歳代）
- 保育園に入園できない（空きがない）から。（女性・30歳代）
- ボランティアを行なっているため。（男性・60歳代）
- 夫の仕事に転勤があるため。（女性・30歳代）

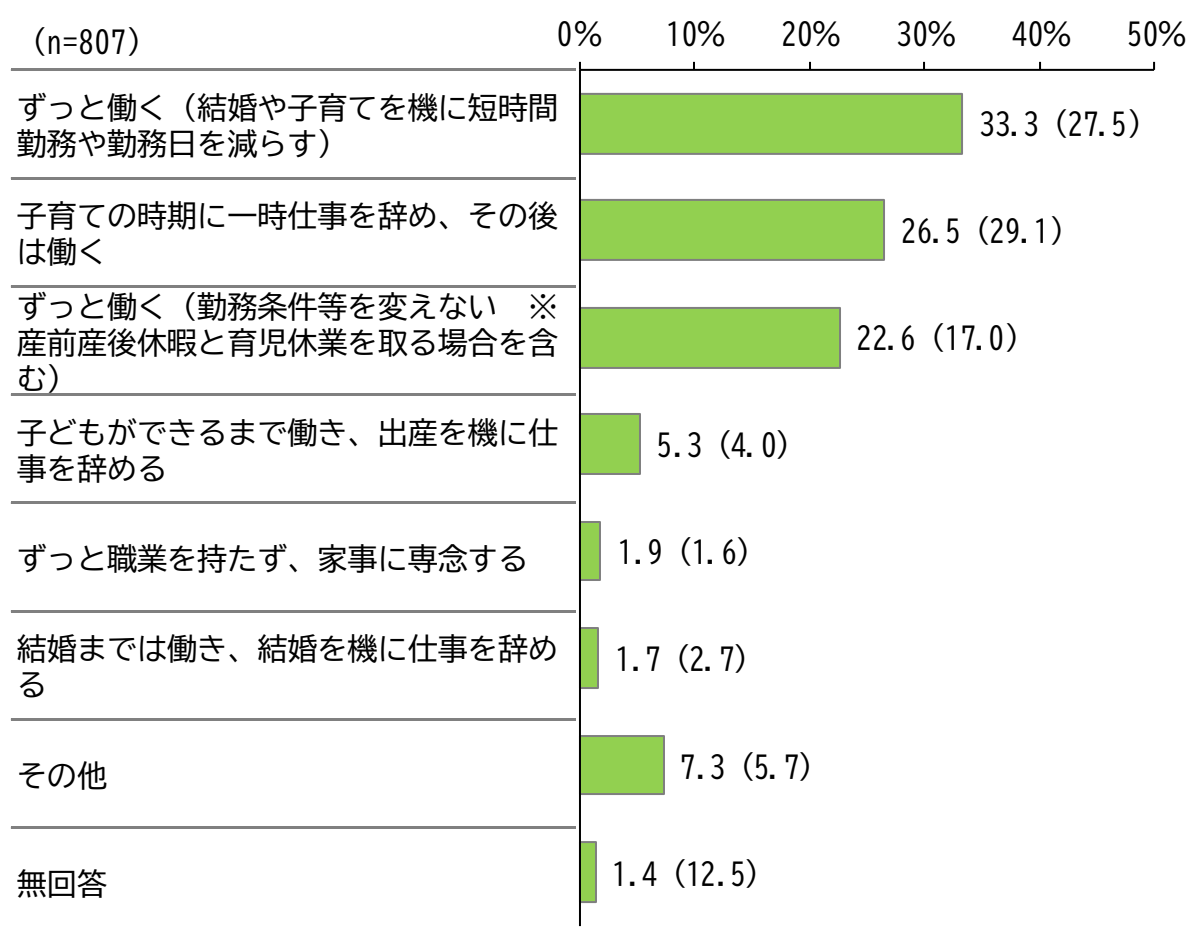
(3) 女性の理想の働き方 (問4)

問4 女性の理想の働き方を1つ選んで番号に○をつけてください。(○は1つだけ)

女性の理想の働き方については、「ずっと働く(結婚や子育てを機に短時間勤務や勤務日を減らす)」が3割台半ばで最も高く、以下「子育ての時期に一時仕事を辞め、その後は働く」が2割台半ば、「ずっと働く(勤務条件等を変えない ※産前産後休暇と育児休業を取る場合を含む)」が2割を超えて続いている。

前回調査との比較でみると、「ずっと働く(結婚や子育てを機に短時間勤務や勤務日を減らす)」「ずっと働く(勤務条件等を変えない ※産前産後休暇と育児休業を取る場合を含む)」がそれぞれ約6ポイント増加している。

図表 女性の理想の働き方(全体) / 前回調査との比較

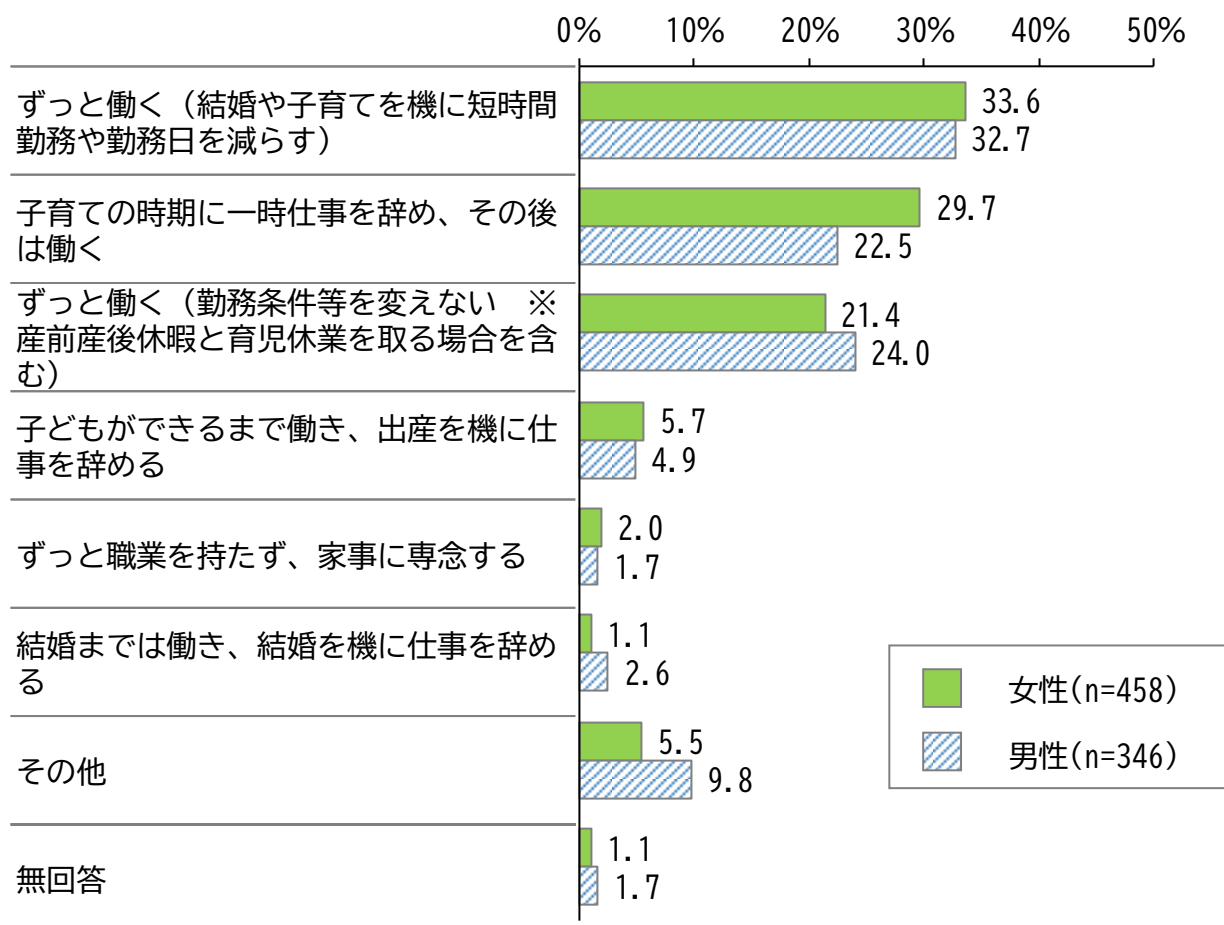


※ () 内は令和元年度調査の結果 (n=702)

【性別】

性別で見ると、「子育ての時期に一時仕事を辞め、その後は働く」は、女性が男性に比べ約7ポイント高くなっている。

図表 女性の理想の働き方（性別）

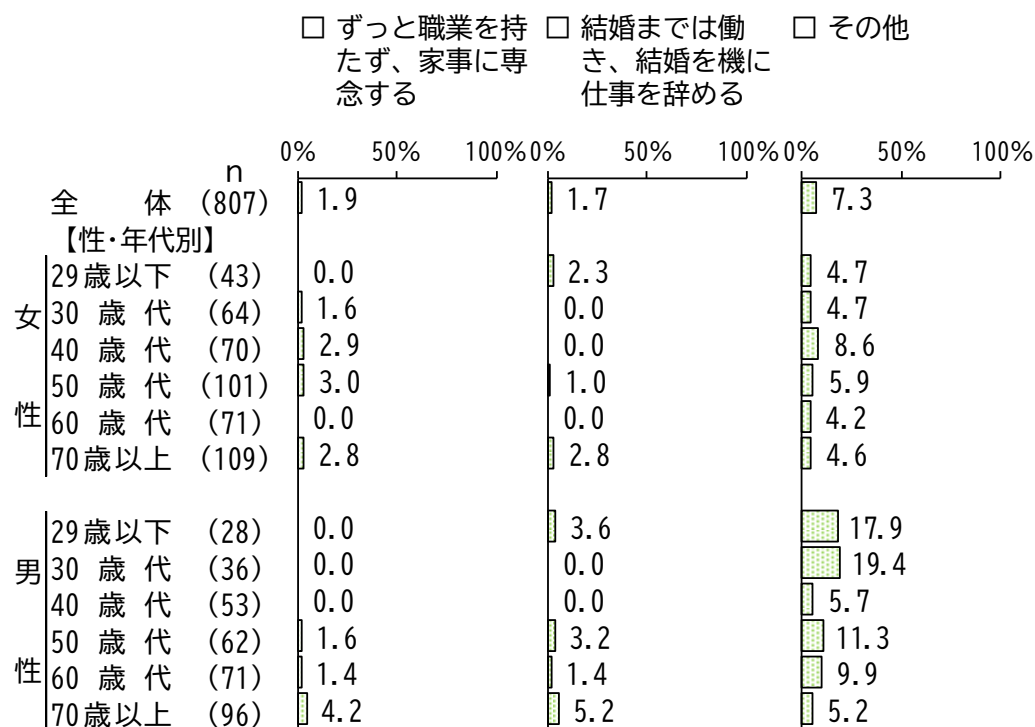
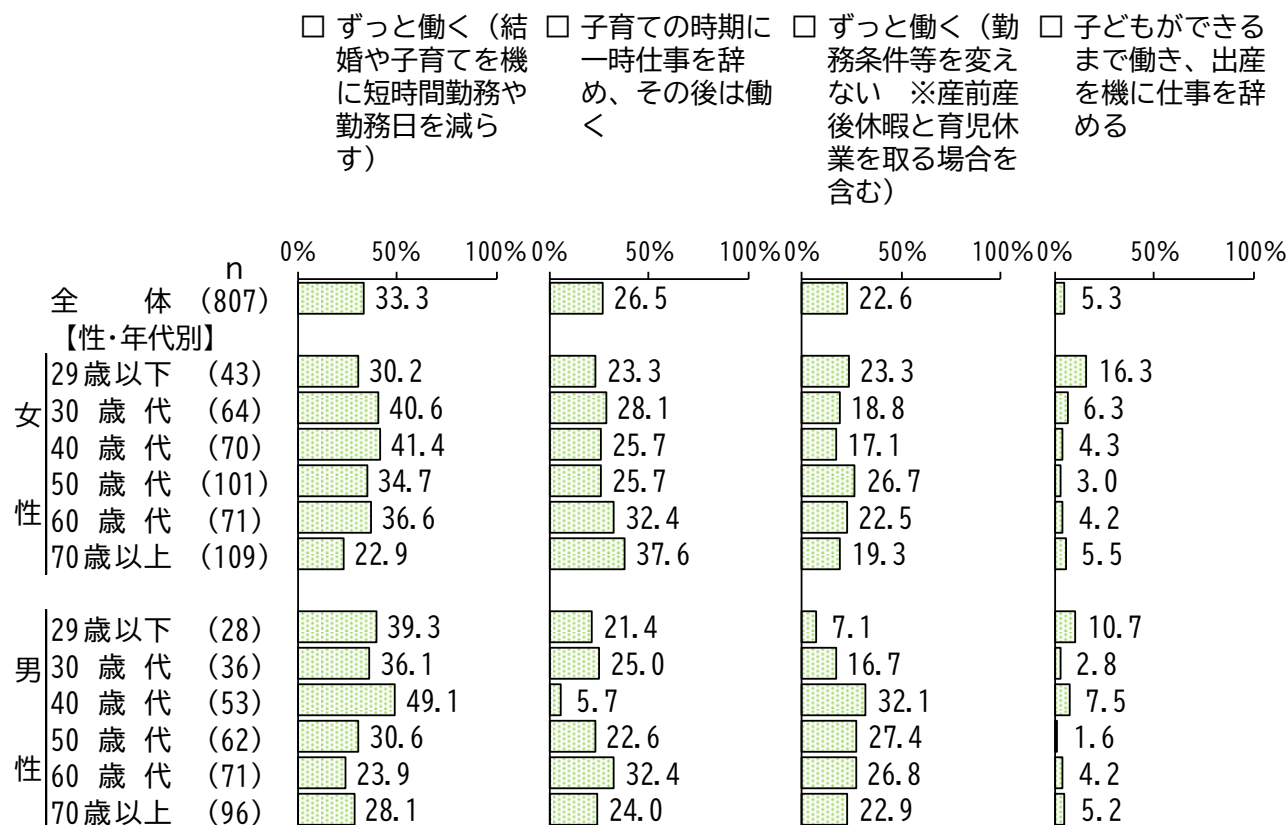


【性年代別】

性年代別でみると、「子育ての時期に一時仕事を辞め、その後は働く」は、女性の70歳以上で約4割と高くなっている。

また、「ずっと働く（結婚や子育てを機に短時間勤務や勤務日を減らす）」は男性の40歳代で約5割と高くなっている。

図表 女性の理想の働き方（性年代別）



【「その他」の主な意見】

- 働き方をその度決められることが理想です。（女性・30歳代）
- 子育ての時期に休業をし、その後辞めるか復業するかは女性に任せる。（男性・29歳以下）
- 男女問わず、また結婚、子育てに限らず、家族・家庭を大切にできる働き方がしたい。
（女性・60歳代）
- 個人のそのときの環境に合わせて個人の考えや思いによって働ける。（男性・60歳代）
- その時々家族やパートナーなどと話し合い、同居する全ての人が納得し一部の人に負担の偏りが無い方法を模索し、全員が納得できる形で決める。（女性・50歳代）
- それぞれが希望するものを選択できる働き方。（男性・30歳代）
- ずっと働きたい人はずっと働き、専業主婦や一時期退職なども含めて、それぞれがそれぞれの環境や考え方で選択できるような社会になってほしい。上位のずっと働くのみが正義となるのも疑問がある。（男性・50歳代）
- 会社員か自営か問わず、時間帯や勤務場所（単にテレワークというだけでなくオフィスからの遠隔地であってもリモートワークなど）をフレキシブルに運用して働けることがのぞましいと思います。（女性・40歳代）

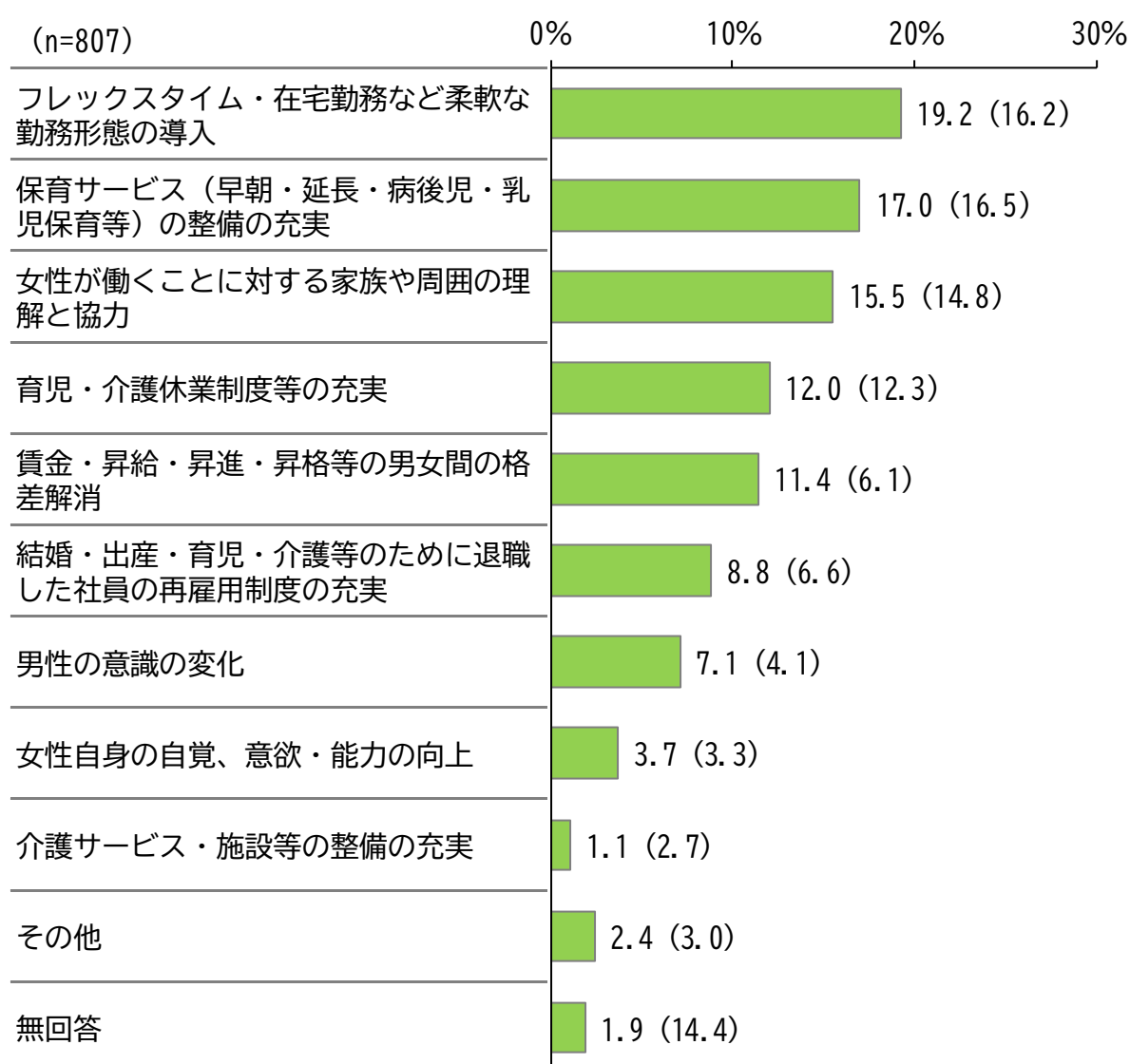
(4) 女性が長く働き続けるために特に重要なこと (問5)

問5 女性が長く働き続けるためにはどのようなことが特に重要だと思いますか。最も必要だと思うものを1つ選んで番号に○をつけてください。(○は1つだけ)

女性が長く働き続けるために特に重要なことについては、「フレックスタイム・在宅勤務など柔軟な勤務形態の導入」「保育サービス（早朝・延長・病後児・乳児保育等）の整備の充実」がともに約2割で高くなっており、「女性が働くことに対する家族や周囲の理解と協力」が1割台半ばで続いている。

前回調査との比較でみると、「賃金・昇給・昇進・昇格等の男女間の格差解消」が約5ポイント増加している。

図表 女性が長く働き続けるために特に重要なこと (全体/前回調査との比較)

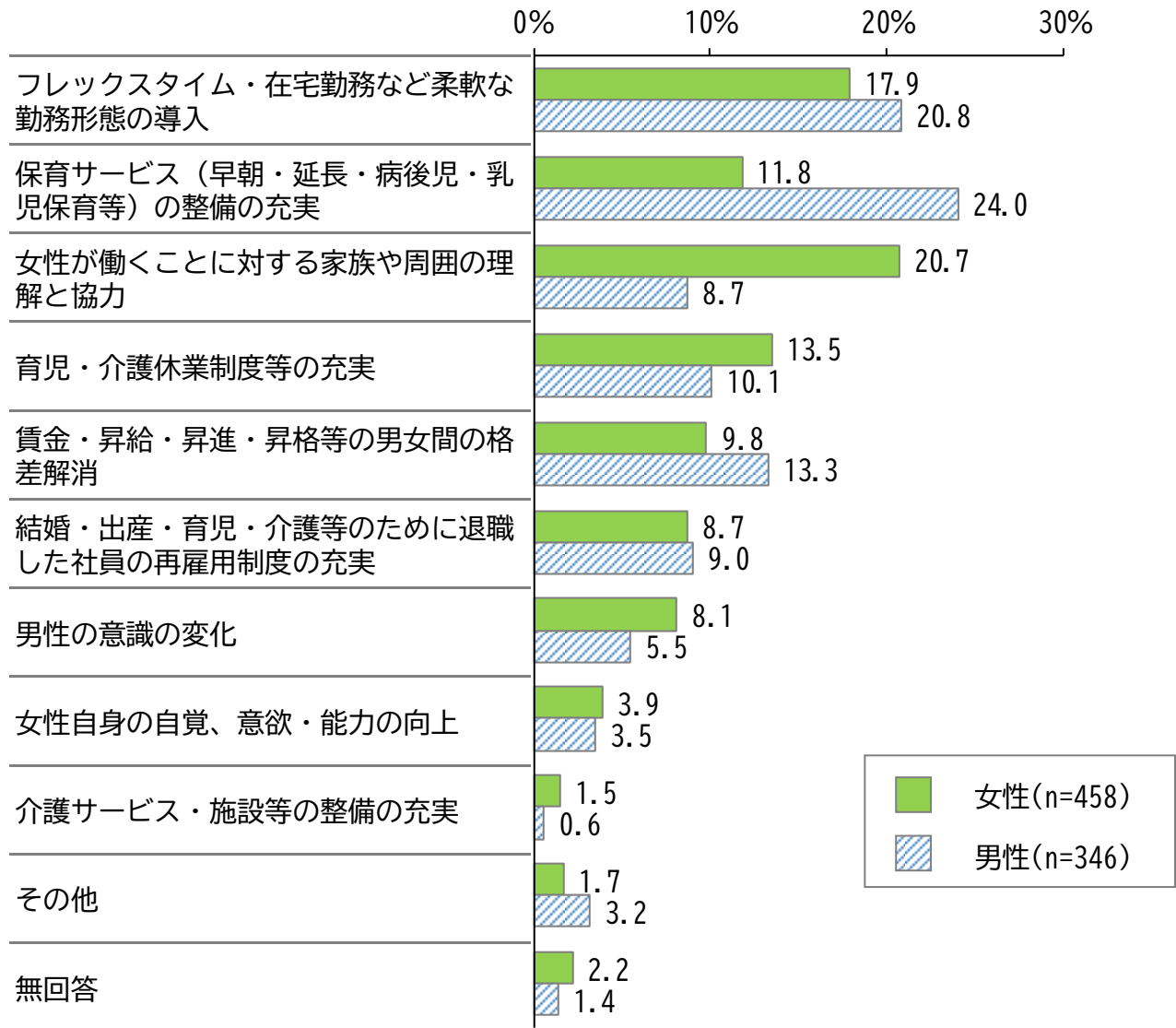


※ () 内は令和元年度調査の結果 (n=702)

【性別】

性別で見ると、「女性が働くことに対する家族や周囲の理解と協力」は女性が男性に比べ約12ポイント高く、「保育サービス（早朝・延長・病後児・乳児保育等）の整備の充実」は男性が女性に比べ約12ポイント高くなっている。

図表 女性が長く働き続けるために特に重要なこと（性別）

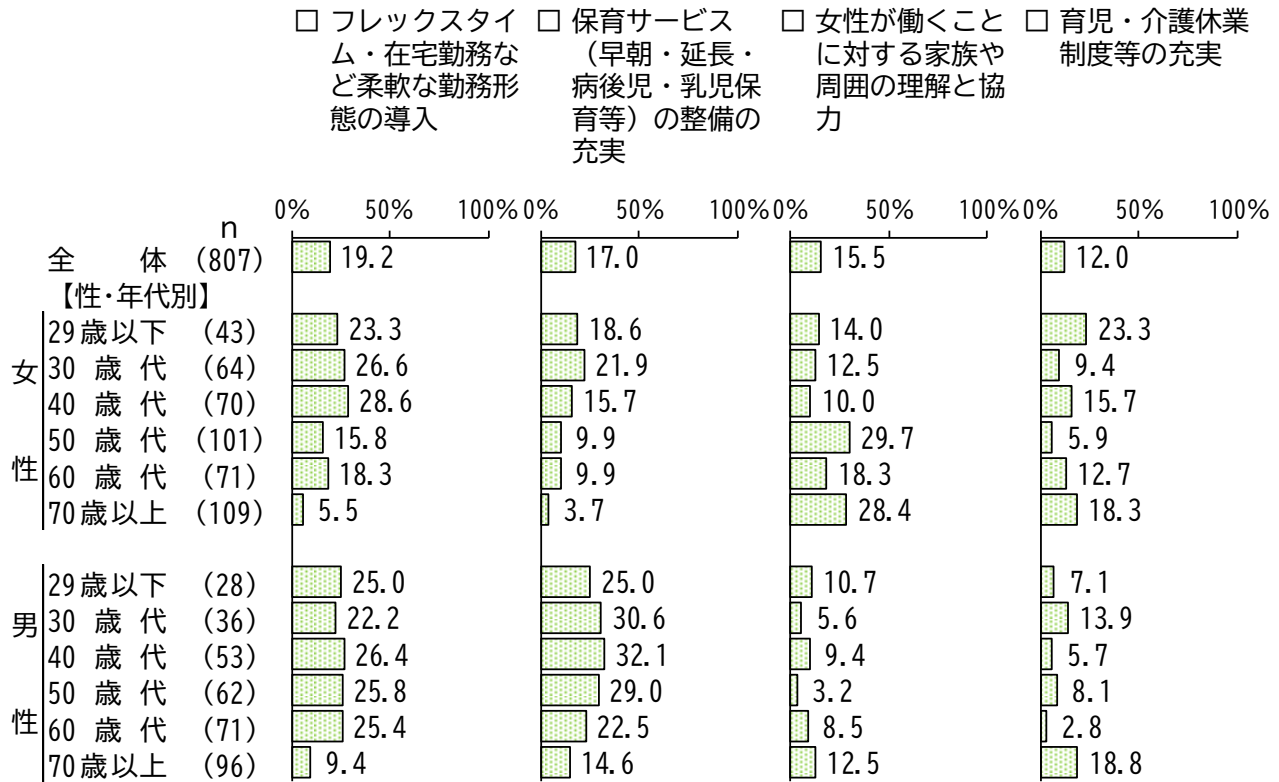


【性年代別】

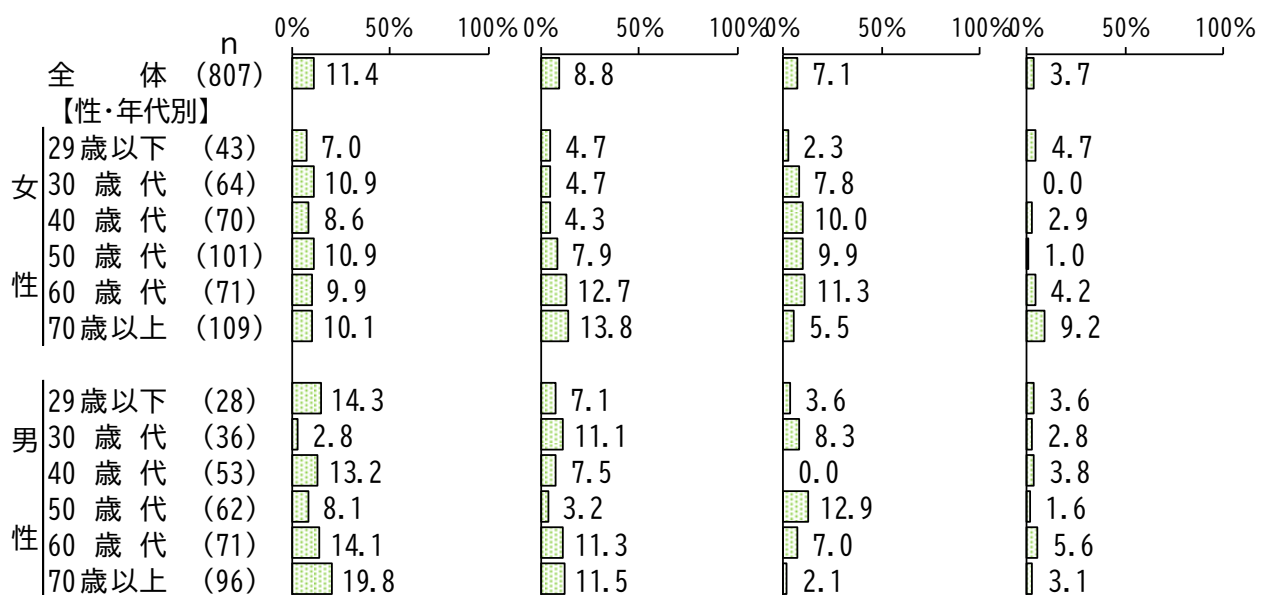
性年代別でみると、「女性が働くことに対する家族や周囲の理解と協力」は女性の50歳代と70歳以上で約3割と高くなっている。

また、「保育サービス（早朝・延長・病後児・乳児保育等）の整備の充実」は男性の30歳代、40歳代、50歳代で約3割と高くなっている。

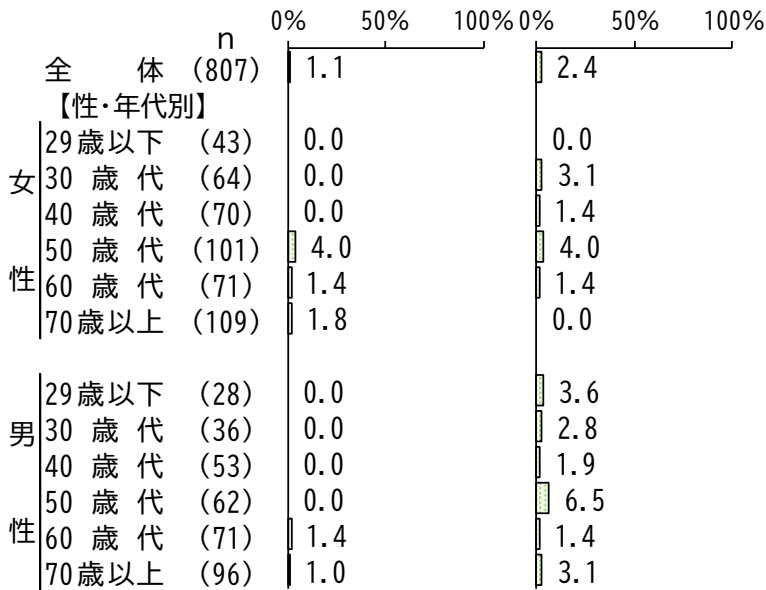
図表 女性が長く働き続けるために特に重要なこと（性年代別）



図表 女性が長く働き続けるために特に重要なこと（性年代別）



□ 介護サービス・ □ その他
施設等の整備の
充実



【「その他」の主な意見】

- 育児・介護などそれ以外の理由でも、勤務先での理解と協力が得られる環境づくり。独身でも一人暮らしでも職場の協力や理解を必要とすることは色々ある。（女性・50歳代）
- 女性は家事を主体となっていることが多いと思う。そのことを、社会（会社）が理解する。（女性・50歳代）
- 雇用形態の安定化(非正規を減らす)。（男性・29歳以下）
- 基本給与のアップ、安定。もう1人のパートナーが時短など選択可能な体制。
(女性・40歳代)
- 産休明けのキャリアを保証、促進する会社の制度が必要（男性・40歳代）

4 男性のワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

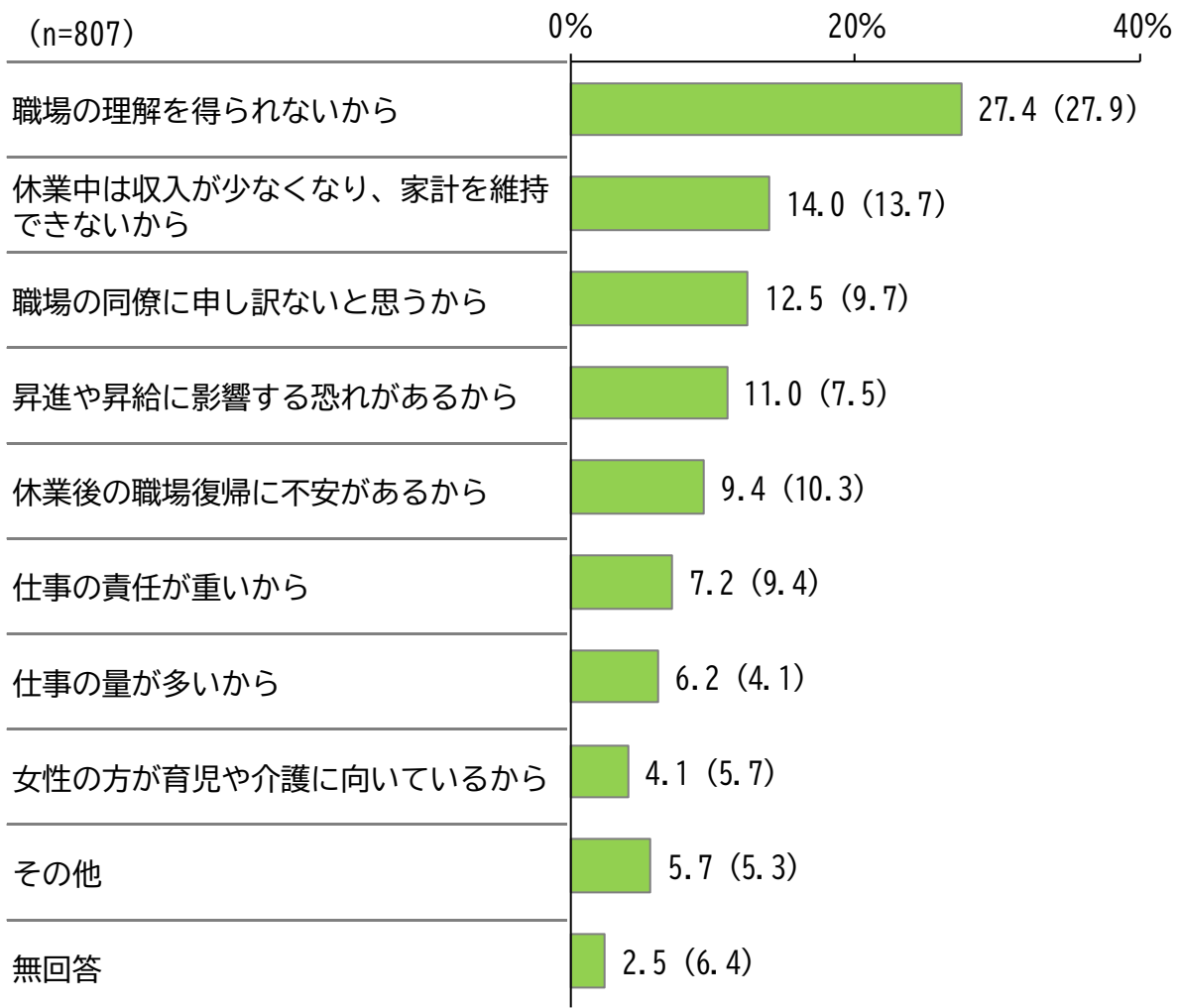
（1）育児休業や介護休業を取る男性が少ない理由（問6）

問6 育児休業や介護休業を取る男性は、女性に比べて少ないのが現状です。その理由について、あなたの考えに最も近いものを1つ選んで番号に○をつけてください。（○は1つだけ）

育児休業や介護休業を取る男性が少ない理由については、「職場の理解を得られないから」が約3割で最も高く、「休業中は収入が少なくなり、家計を維持できないから」が1割台半ばで続いている。

前回調査との比較で特に大きな変化はみられない。

図表 育児休業や介護休業を取る男性が少ない理由（全体／前回調査との比較）

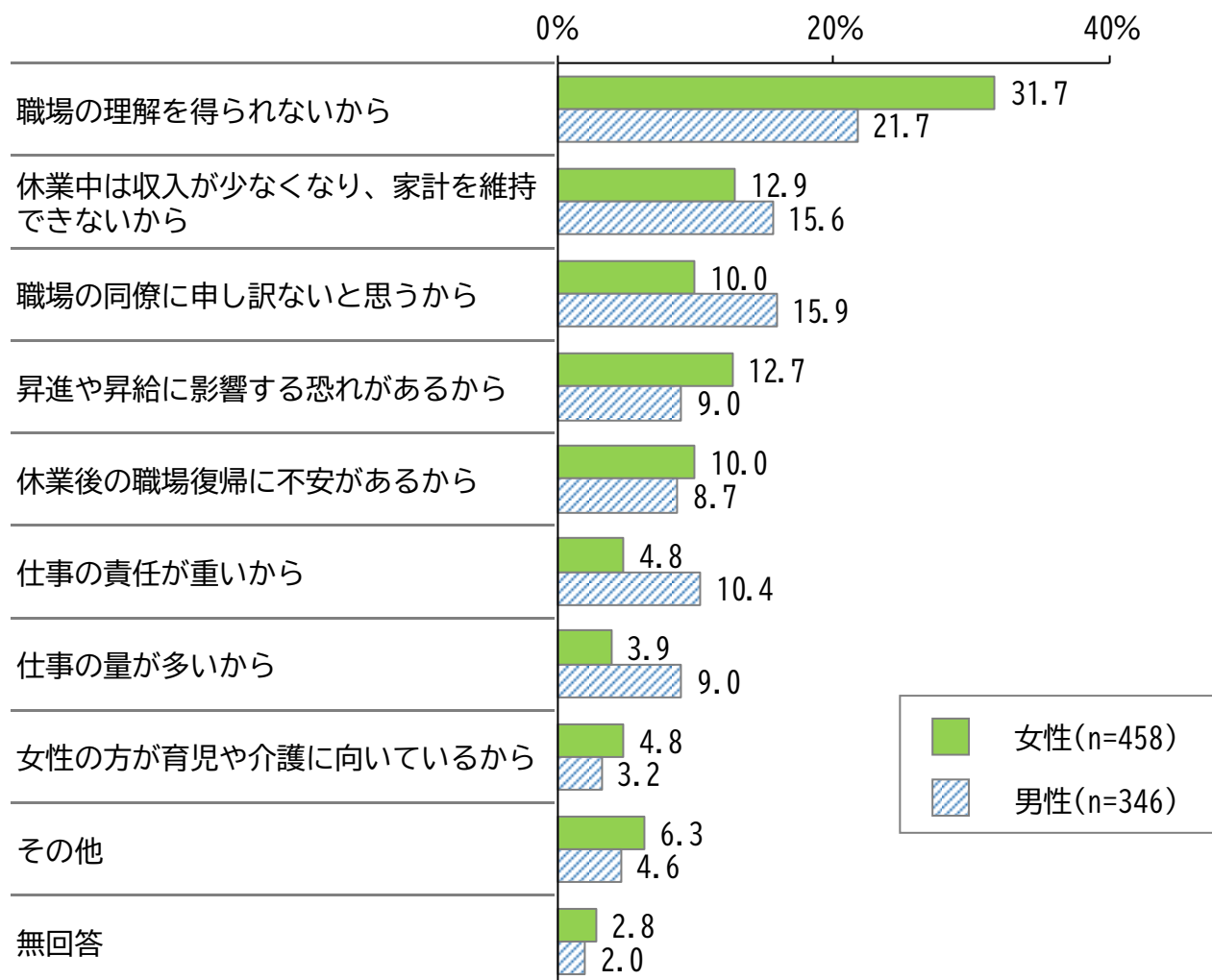


※（ ）内は令和元年度調査の結果（n=702）

【性別】

性別でみると、「職場の理解を得られないから」は女性が男性に比べ約10ポイント高く、「職場の同僚に申し訳ないと思うから」「仕事の責任が重いから」「仕事の量が多いから」は男性が女性に比べ約5～6ポイント高くなっている。

図表 育児休業や介護休業を取る男性が少ない理由（性別）

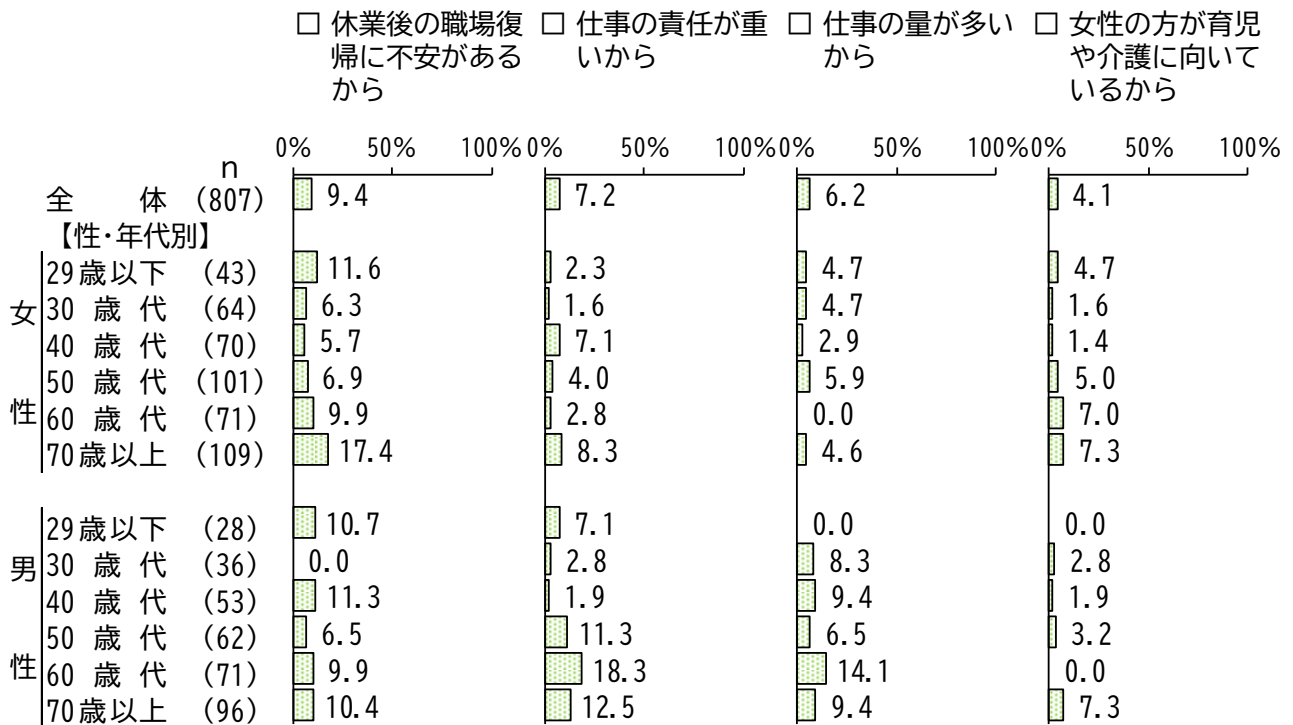
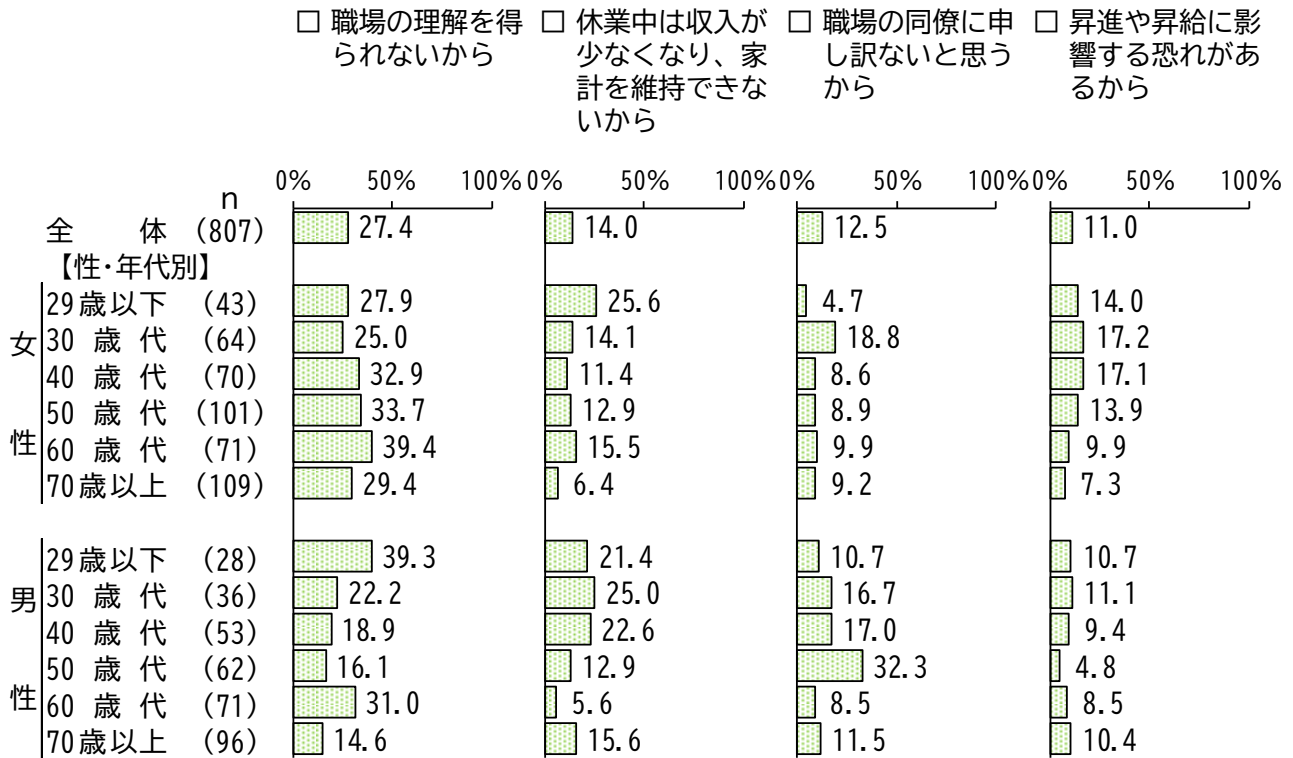


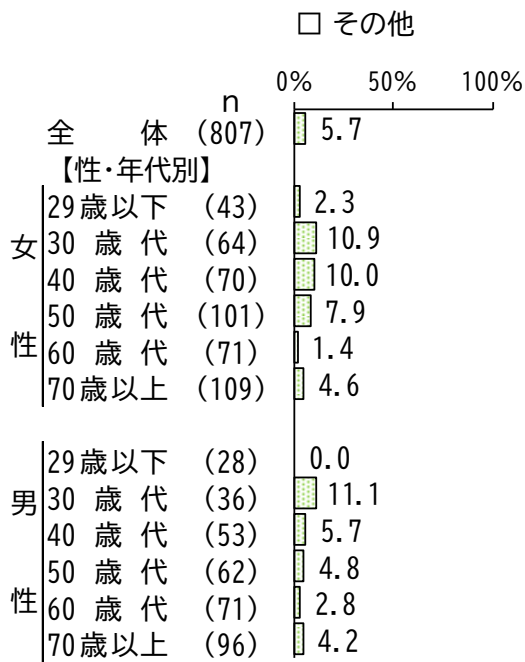
【性年代別】

性年代別でみると、「職場の理解を得られないから」は女性の60歳代と男性の29歳以下がともに約4割と高くなっている。

また、「職場の同僚に申し訳ないと思うから」は男性の50歳代で3割を超えて高くなっている。

図表 育児休業や介護休業を取る男性が少ない理由（性年代別）





【「その他」の主な意見】

- 我が家は自営業で、育児休業等の制度がない。自営業等の方に向けての制度（保障も）を少しでも考えてもらえたらと思います。（女性・30歳代）
- 男性が育児、介護について意識が低いから。（女性・50歳代）
- 雰囲気。上へ直訴すれば休業できると思うが、行動に出る人はいない。（男性・50歳代）
- パパ育休により給与が補填されても賞与は勤務してない分減ってしまい、収入が減ってしまうから。（男性・40歳代）
- 普段 家事等をしていないから戸惑いを感じる。（男性・50歳代）

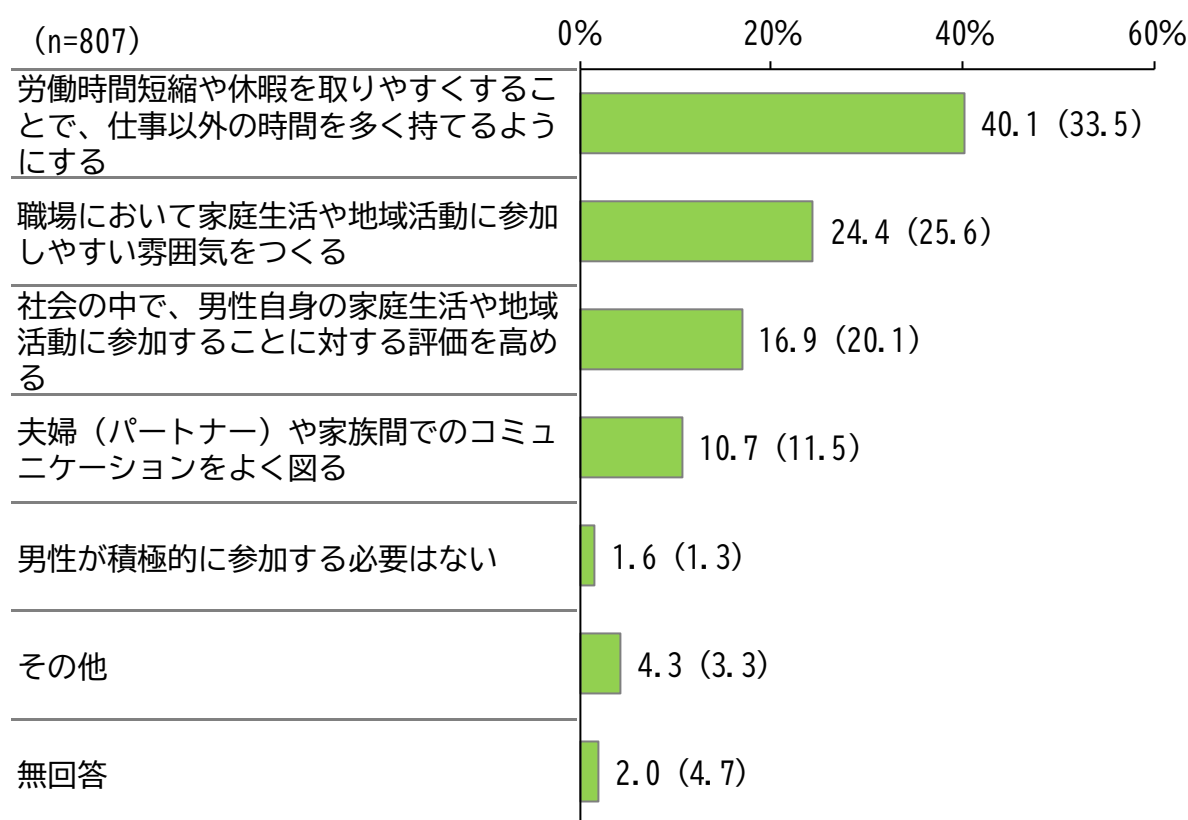
(2) 家事・子育て・介護・地域活動などに、男女がともに参加するために今後必要だと思うこと（問7）

問7 今後、男性が女性とともに、家事・子育て・介護・地域活動などに積極的に参加していくために、最も必要だと思うものを1つ選んで番号に○をつけてください。（○は1つだけ）

家事・子育て・介護・地域活動などに、男女がともに参加するために今後必要だと思うことについては、「労働時間短縮や休暇を取りやすくすることで、仕事以外の時間を多く持てるようにする」が4割で最も高く、以下「職場において家庭生活や地域活動に参加しやすい雰囲気をつくる」が2割台半ば、「社会の中で、男性自身の家庭生活や地域活動に参加することに対する評価を高める」が1割台半ばと続いている。

前回調査との比較で見ると、「労働時間短縮や休暇を取りやすくすることで、仕事以外の時間を多く持てるようにする」が約7ポイント増加している。

図表 家事・子育て・介護・地域活動などに、男女がともに参加するために今後必要だと思うこと（全体／前回調査との比較）

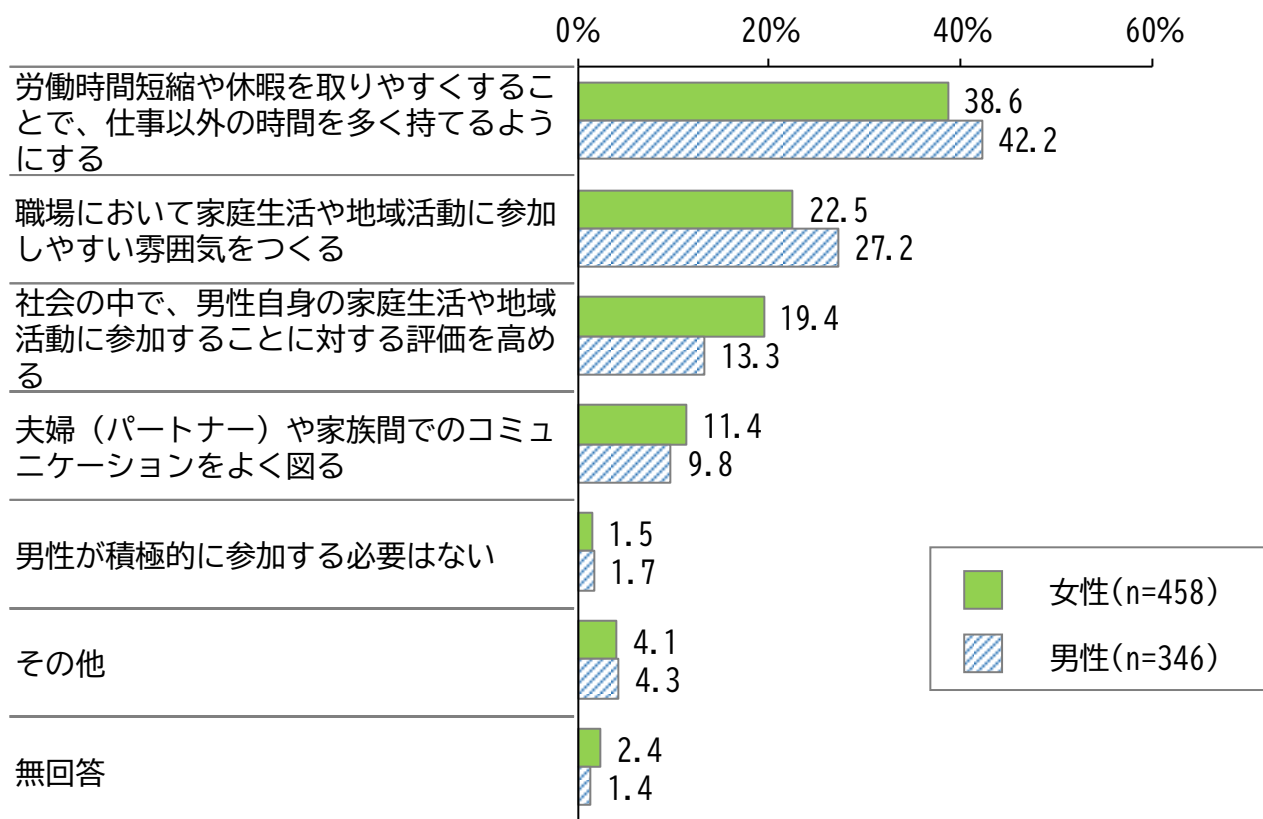


※（ ）内は令和元年度調査の結果（n=702）

【性別】

性別で見ると、「社会の中で、男性自身の家庭生活や地域活動に参加することに対する評価を高める」は女性が男性に比べ約6ポイント高く、「職場において家庭生活や地域活動に参加しやすい雰囲気をつくる」は男性が女性に比べ約5ポイント高くなっている。

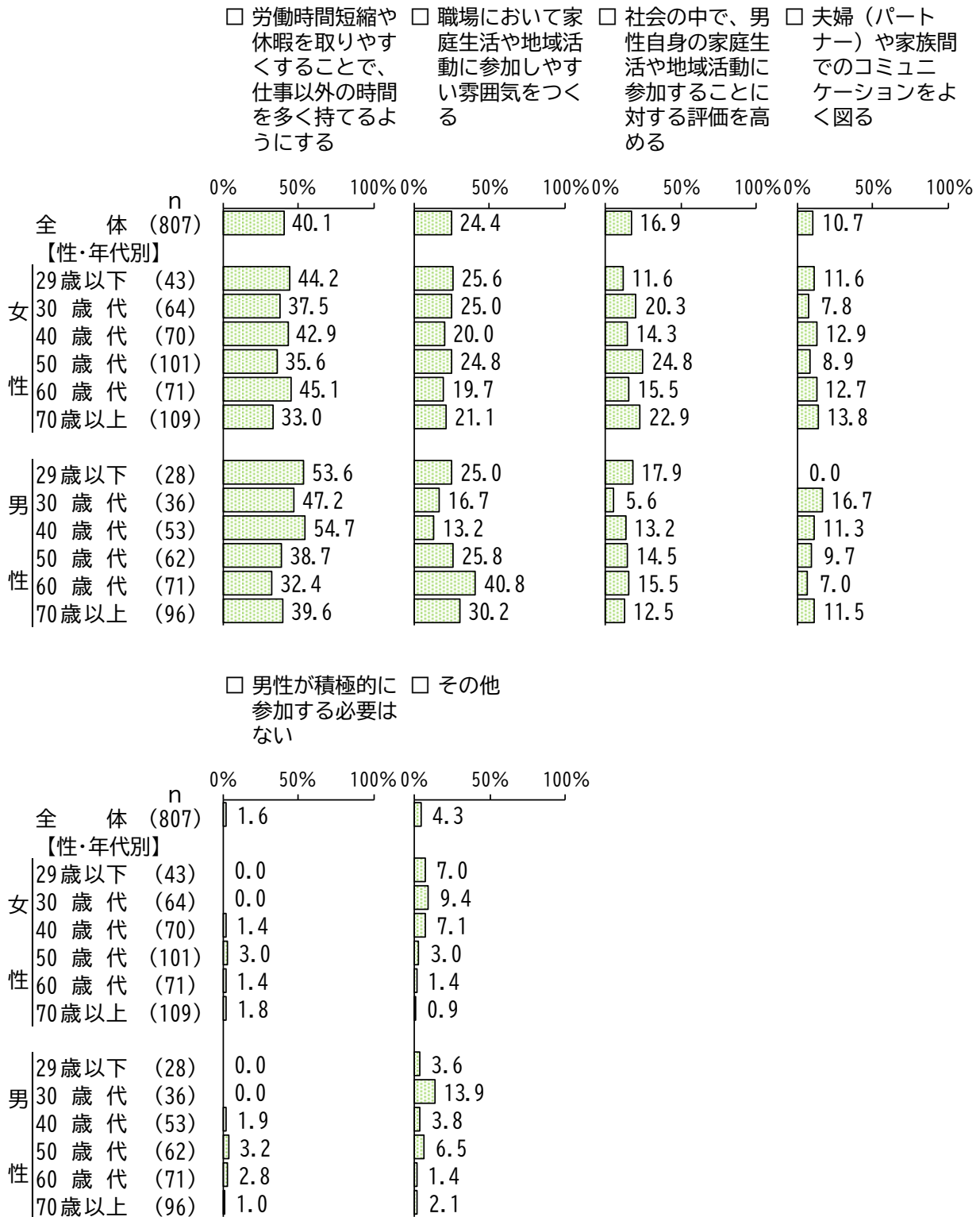
図表 家事・子育て・介護・地域活動などに、男女がともに参加するために今後必要だと思うこと
(性別)



【性年代別】

性年代別でみると、「労働時間短縮や休暇を取りやすくすることで、仕事以外の時間を多く持てるようにする」は男性の29歳以下と40歳代で5割台半ばと高く、「職場において家庭生活や地域活動に参加しやすい雰囲気をつくる」は男性の60歳代で4割と高くなっている。

図表 家事・子育て・介護・地域活動などに、男女がともに参加するために今後必要だと思うこと (性年代別)



【「その他」の主な意見】

- 仕事が短くなっても生活に支障が出ない収入源が必要。（男性・30歳代）
- 大手企業であれば、理解がある。中小は厳しい。（男性・50歳代）
- 時短や休暇取得を義務化する。（女性・50歳代）
- 子どもの頃から、「生活するとはどういうことか？」を学ぶ。経済活動（稼ぐためにどうすればいいか）だけでなく、生活を取りまくすべてのことを自分ごととしてとらえる力を身につける。
(回答しない・50歳代)
- 介護・育児の研修など、男性女性関係なく学べる場があるといい。（女性・60歳代）
- どちらも働けるようにするためには遅くまで子どもを預けられないと厳しい。また、学童も実質3年生までしか預けられず、学童のない4年生で手詰まりになってしまう。そのため、保育所や学童、学童に代わる施設が必要不可欠。（男性・40歳代）
- 男女の区別ではなく、それぞれの家庭や個人の特性で分担すべき問題。（男性・50歳代）
- 本人の考え方。環境変えて参加しやすくしても、やりたくない人には強要にしかならないと思う。それぞれ、当事者同士の問題だと思う。（男性・30歳代）

5 男女平等

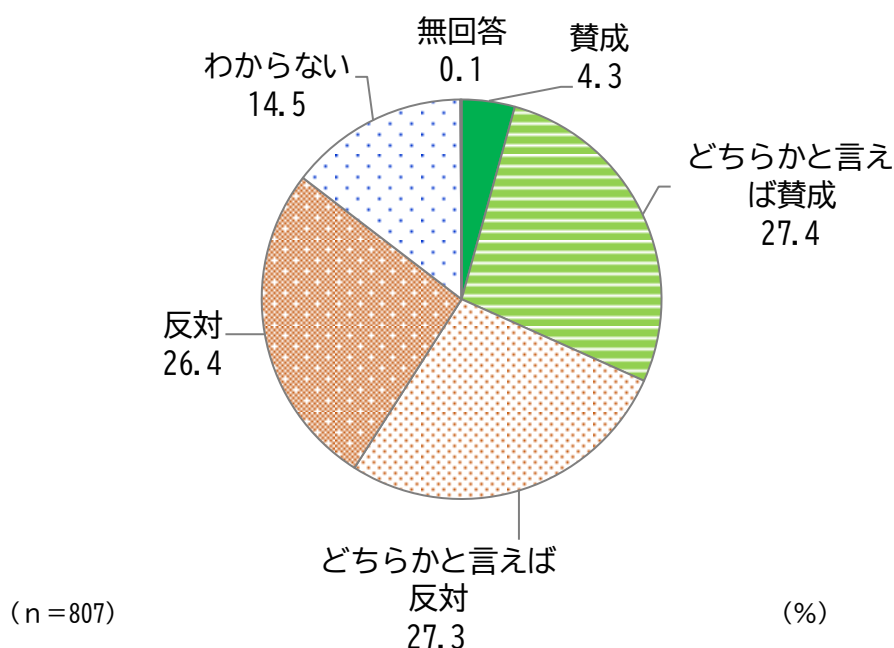
(1) 「夫は外で働き、妻は家庭を守る方がよい」という考え方について (問8)

問8 「夫は外で働き、妻は家庭を守る方がよい」という考え方について、どのように思いますか。あなたの考えに近いものを1つ選んで番号に○をつけてください。(○は1つだけ)

「夫は外で働き、妻は家庭を守る方がよい」という考え方について、「反対」と「どちらかと言えば反対」を合わせた『反対(計)』は5割台半ばとなっている。

一方、「賛成」と「どちらかと言えば賛成」を合わせた『賛成(計)』は3割を超えている。

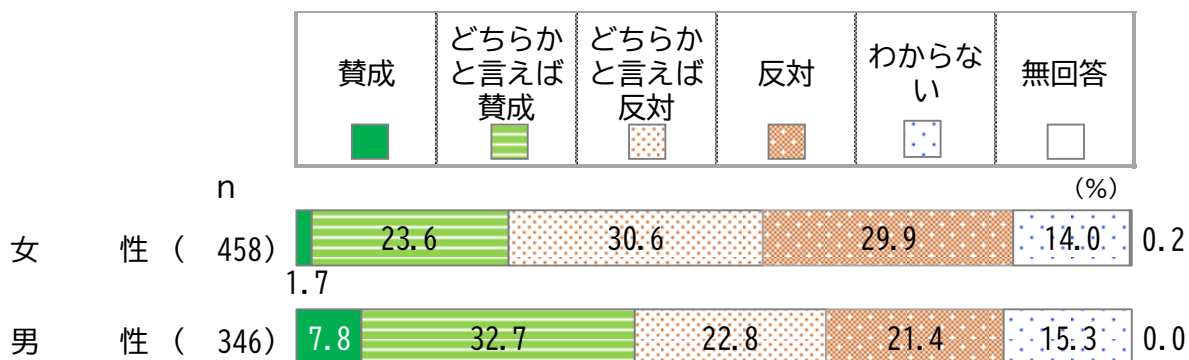
図表 「夫は外で働き、妻は家庭を守る方がよい」という考え方について (全体)



【性別】

性別でみると、『反対(計)』は女性が6割となっているのに対し、男性は4割台半ばと女性に比べ約15ポイント低くなっている。

図表 「夫は外で働き、妻は家庭を守る方がよい」という考え方について (性別)

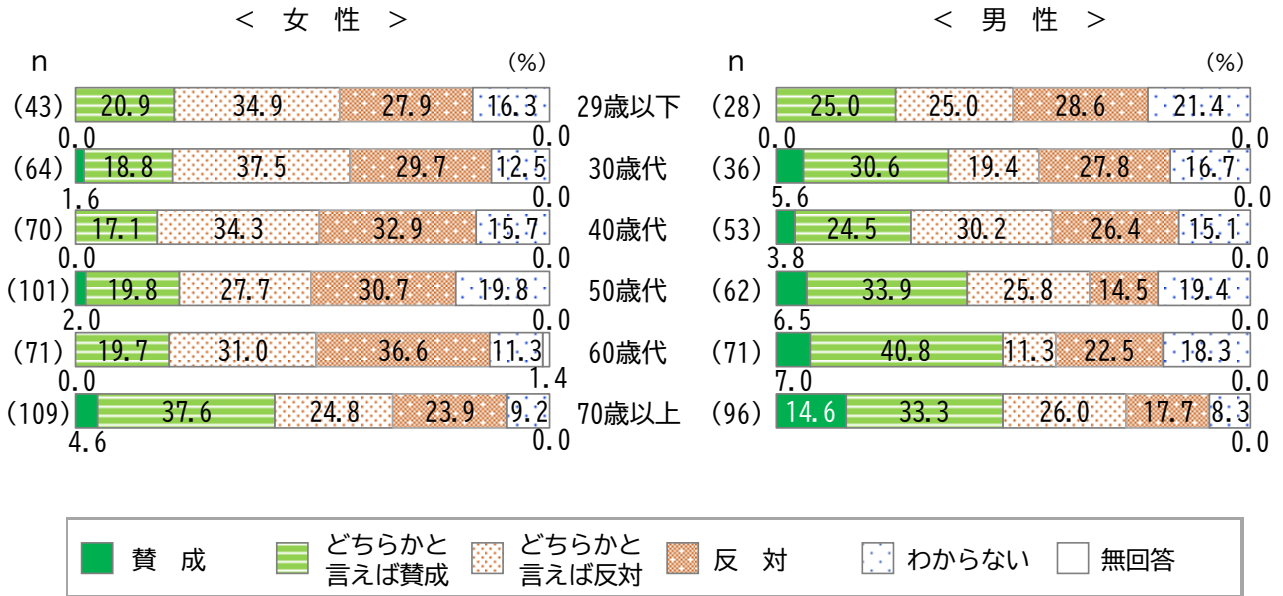


【性年代別】

性年代別でみると、女性では『反対（計）』がすべての年代で『賛成（計）』を上回っており、特に30歳代、40歳代、60歳代で『反対（計）』が約7割と高くなっている。

一方、男性では、29歳以下、30歳代、40歳代で『反対（計）』が『賛成（計）』を上回っており、50歳代で『反対（計）』と『賛成（計）』が同程度、60歳代と70歳以上で『賛成（計）』が『反対（計）』を上回っている。

図表 「夫は外で働き、妻は家庭を守る方がよい」という考え方について（性年代別）



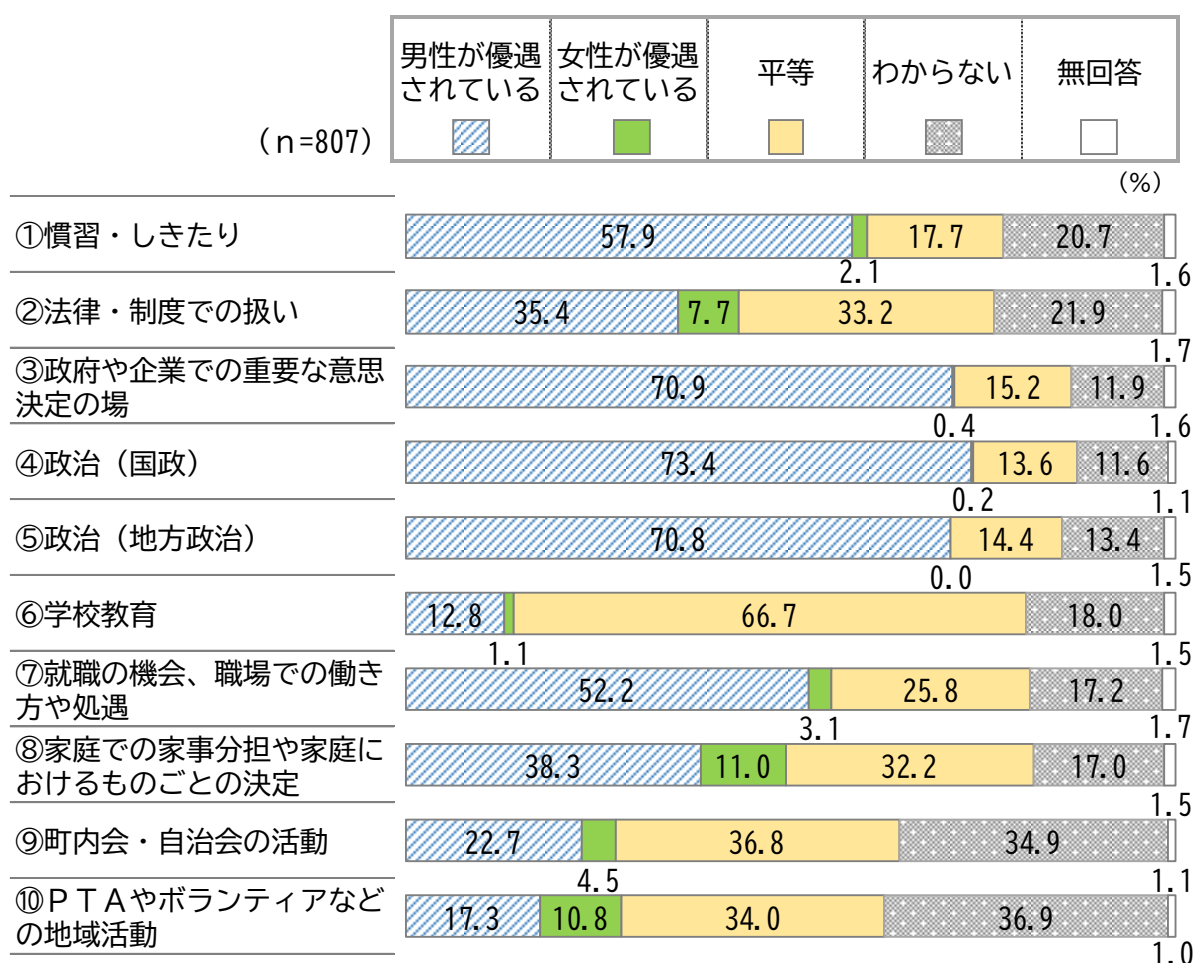
(2) 男女の地位の平等感 (問9)

問9 あなたは、次の分野で男女は平等になっていると思いますか。①から⑩の項目ごとに1つずつ選んで番号に○をつけてください。(それぞれ○は1つずつ)

男女の地位の平等感について、「平等」の割合は、「学校教育」が6割台半ばと最も高く、やや離れて「町内会・自治会の活動」「PTAやボランティアなどの地域活動」「法律・制度での扱い」「家庭での家事分担や家庭におけるものごとの決定」が3割台で続いている。

また、すべての項目で「男性が優遇されている」の割合が「女性が優遇されている」を上回っており、特に「政治(国政)」が7割台半ば、「政府や企業での重要な意思決定の場」「政治(地方政治)」がともに7割で高くなっている。

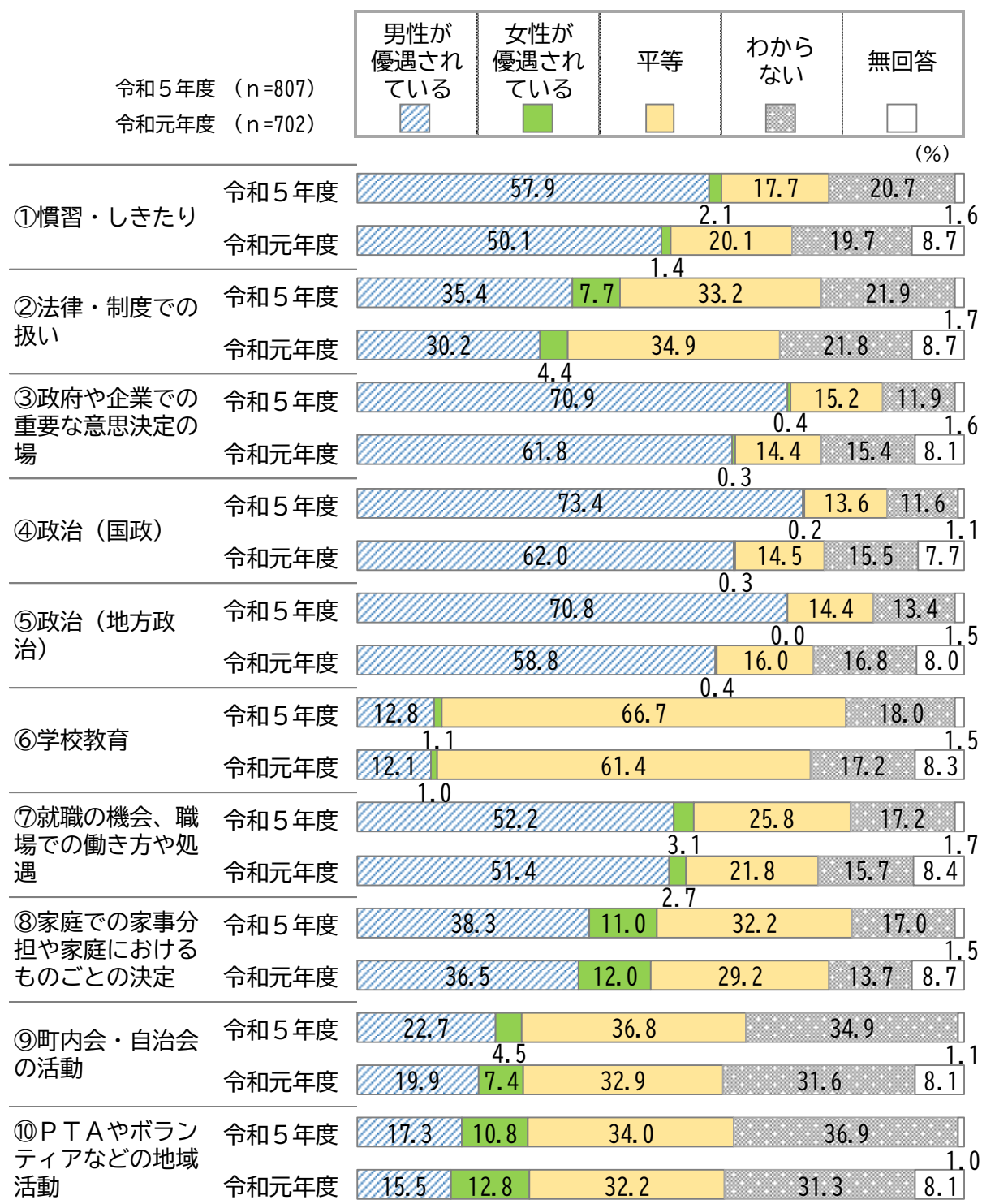
図表 男女の地位の平等感 (全体)



【前回調査との比較】

前回調査との比較でみると、すべての項目で「男性が優遇されている」の割合が増加しており、特に「政治（地方政治）」で約12ポイント、「政治（国政）」で約11ポイント、「政府や企業での重要な意思決定の場」で約9ポイントと、増加幅が大きくなっている。

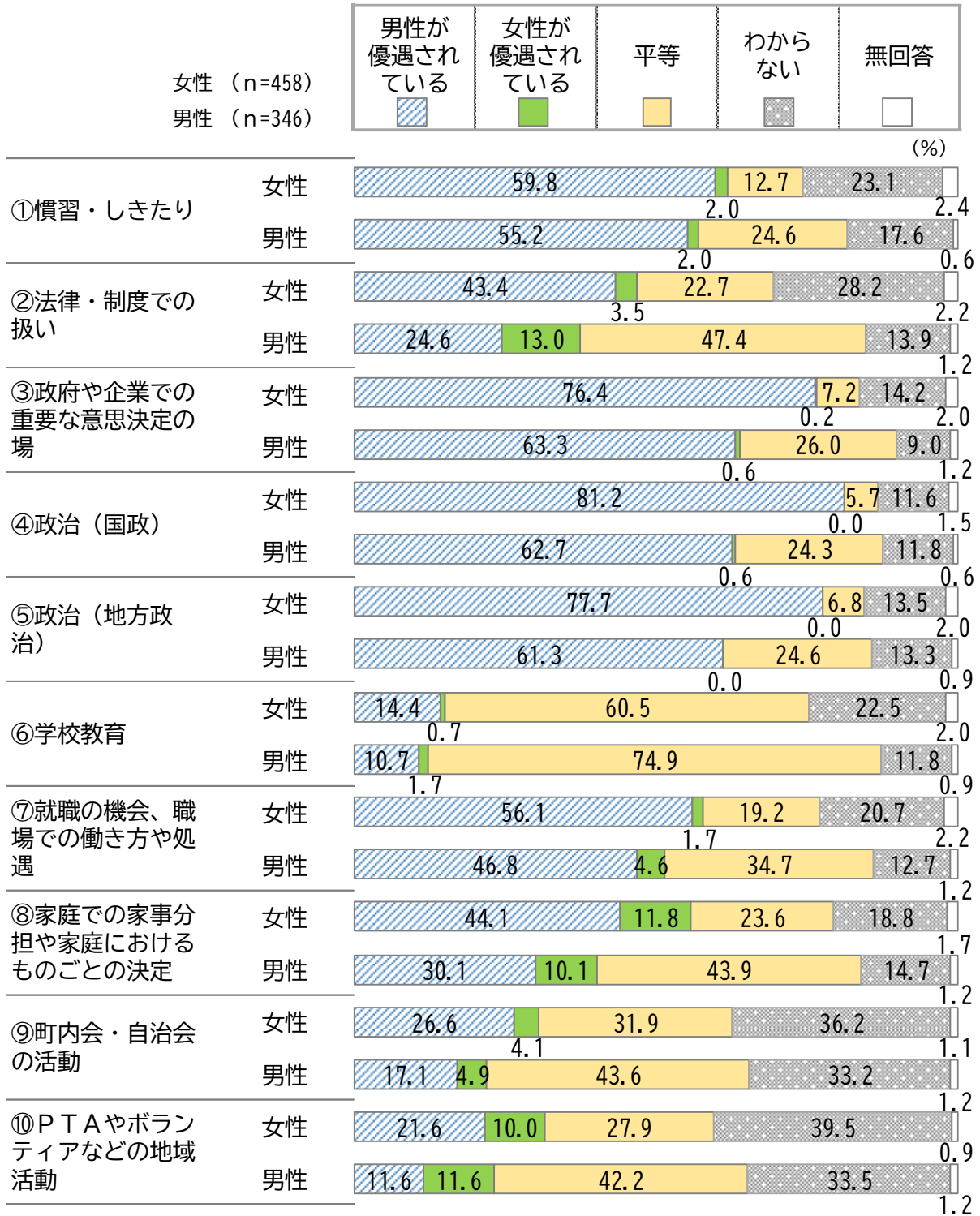
図表 男女の地位の平等感（前回調査との比較）



【性別】

性別でみると、すべての項目で女性の「平等」の割合が男性に比べ低くなっており、特に「法律・制度での扱い」「家庭での家事分担や家庭におけるものごとの決定」で男性に比べ20ポイント以上低くなっている。

図表 男女の地位の平等感（性別）



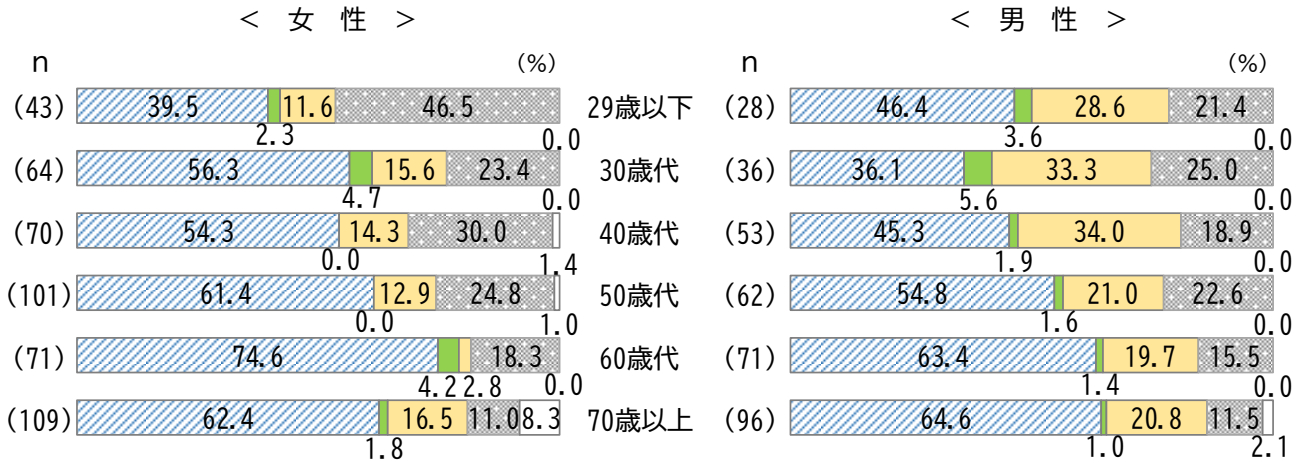
【性年代別】

性年代別でみると、「学校教育」では女性男性とも平等と感じている割合が高いが、「法律・制度での扱い」の「平等」の割合が50歳代と60歳代で、女性が男性に比べ30ポイント以上低くなっている。

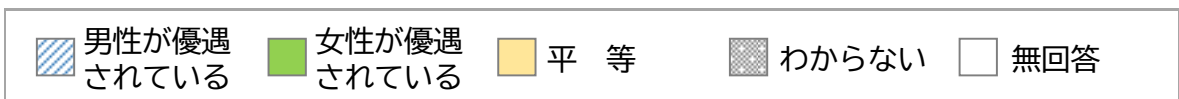
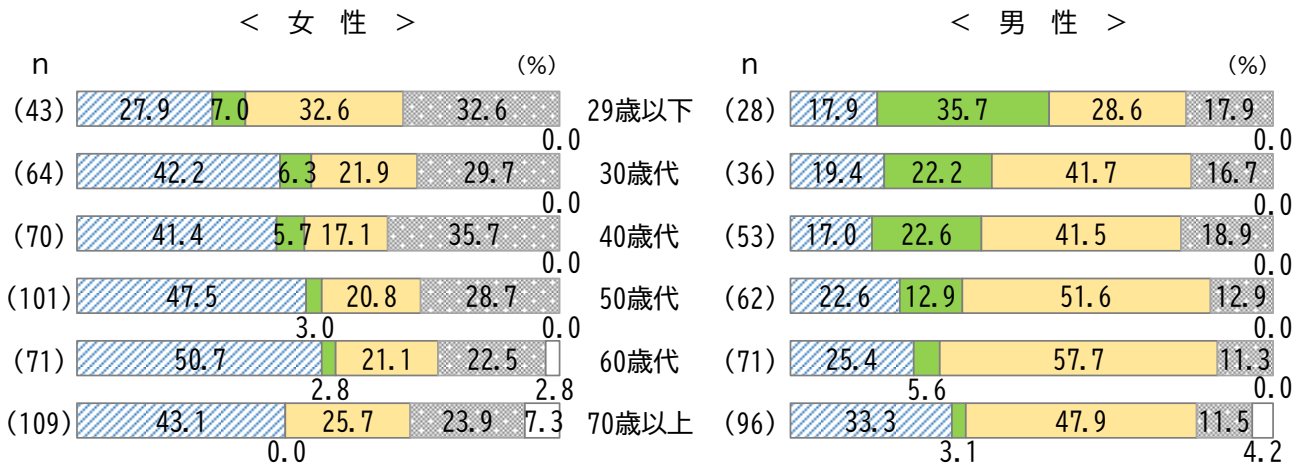
また、「家庭での家事分担や家庭におけるものごとの決定」の「平等」の割合は、すべての年代で女性が男性に比べ低く、特に40歳代で約40ポイント低くなっている。

図表 男女の地位の平等感（性年代別）

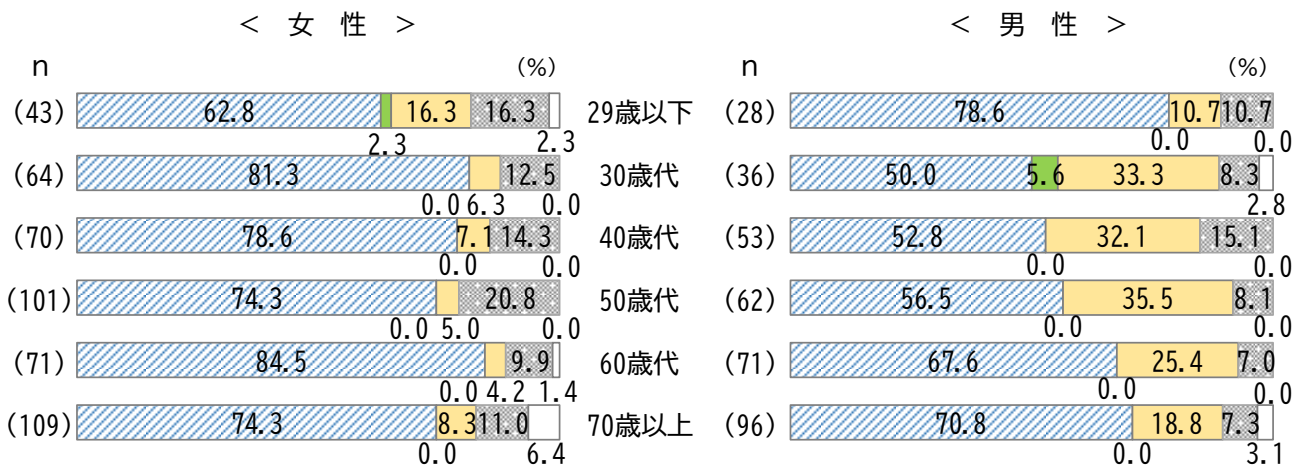
①慣習・しきたり



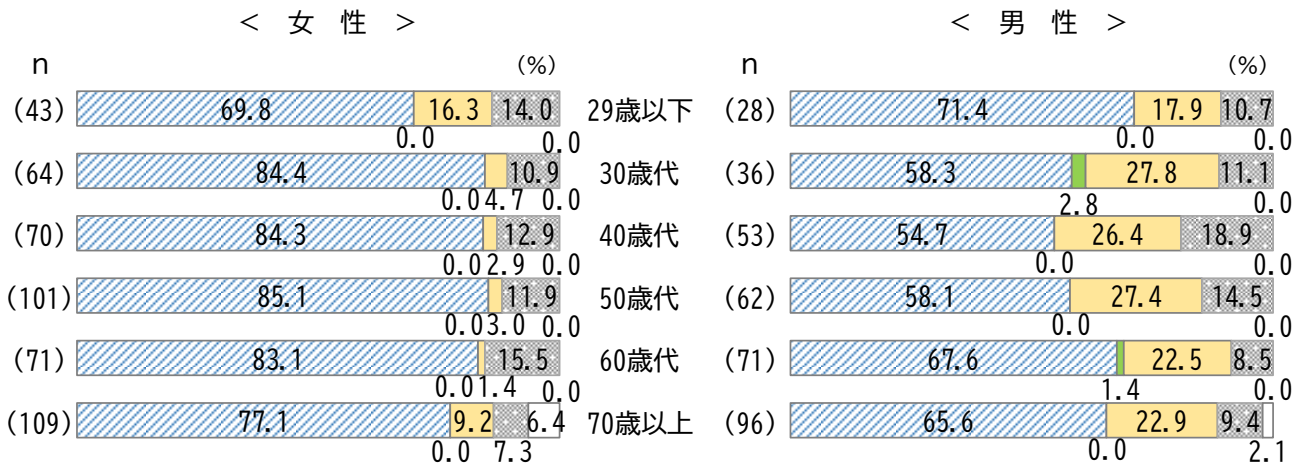
②法律・制度での扱い



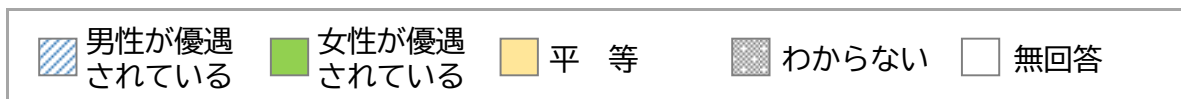
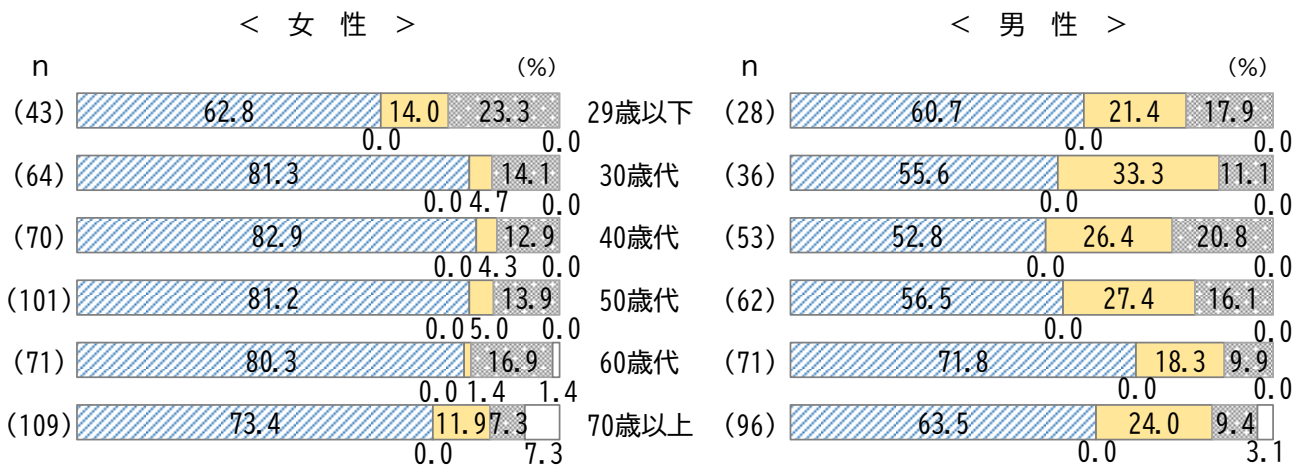
③政府や企業での重要な意思決定の場



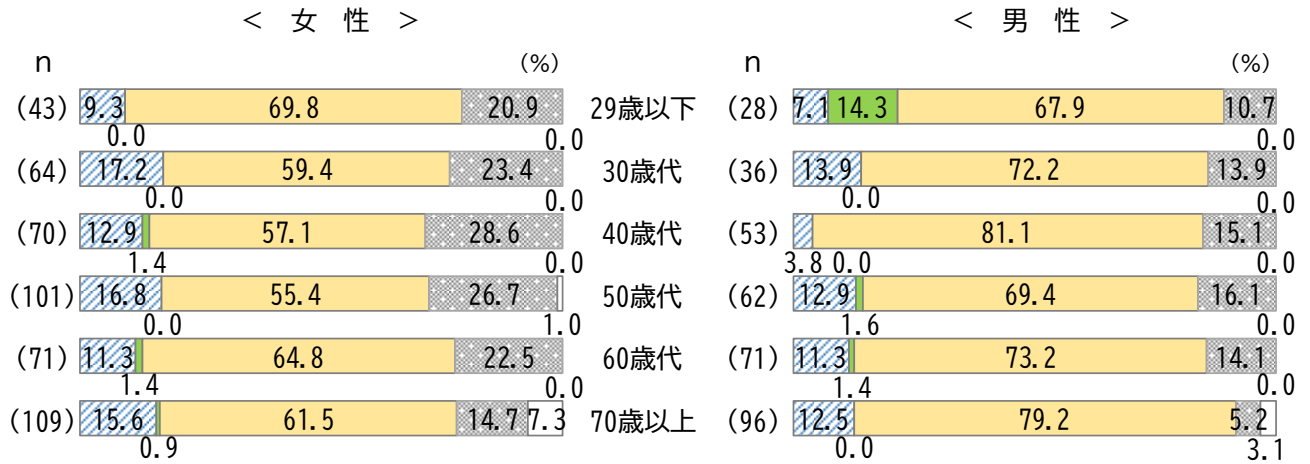
④政治（国政）



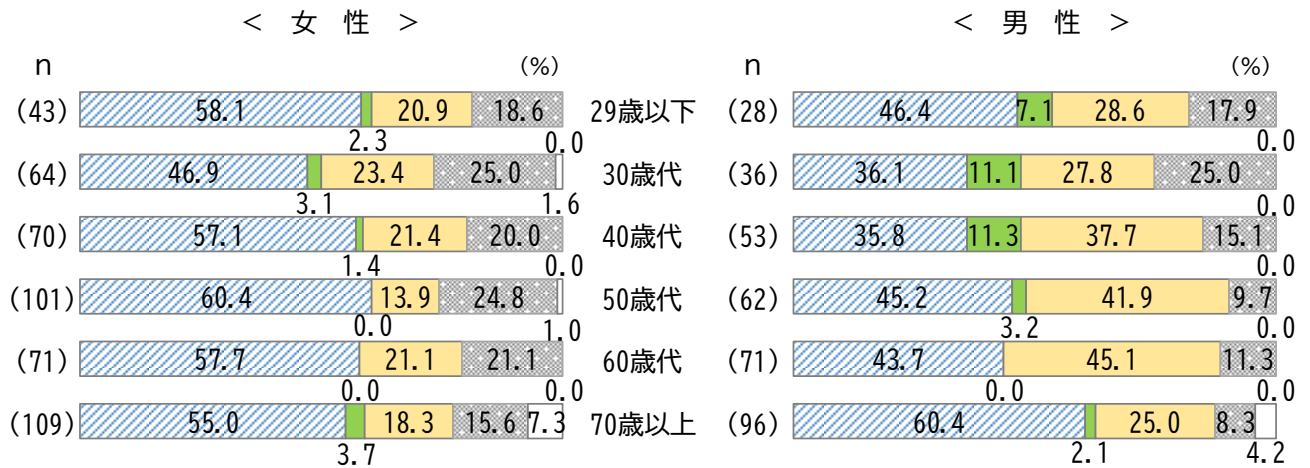
⑤政治（地方政治）



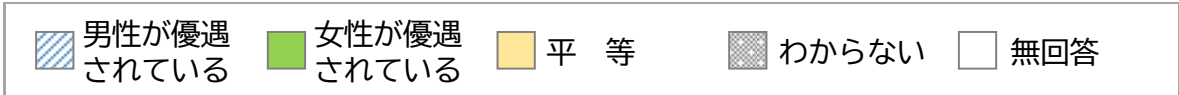
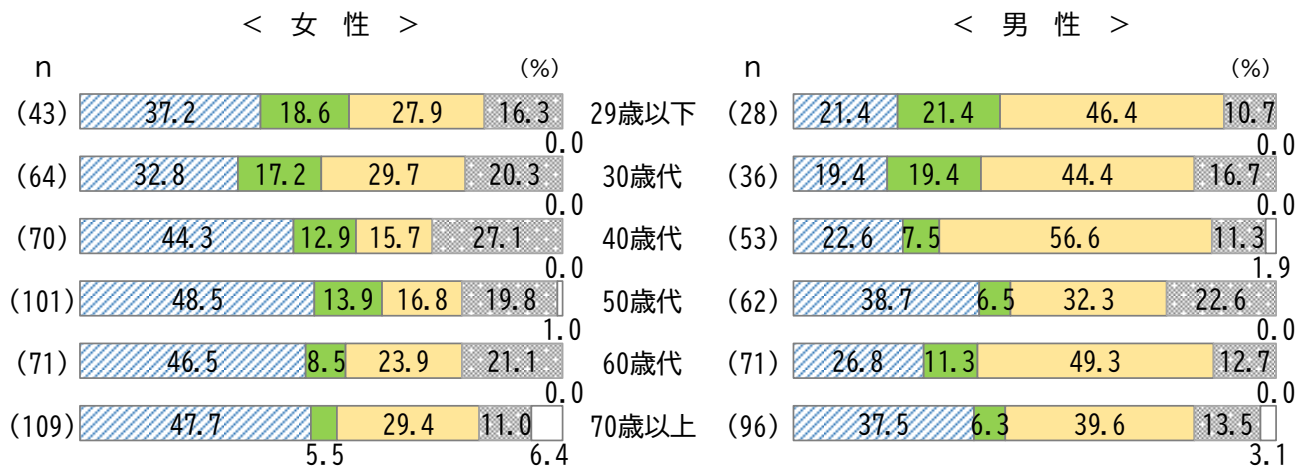
⑥学校教育



⑦就職の機会、職場での働き方や処遇

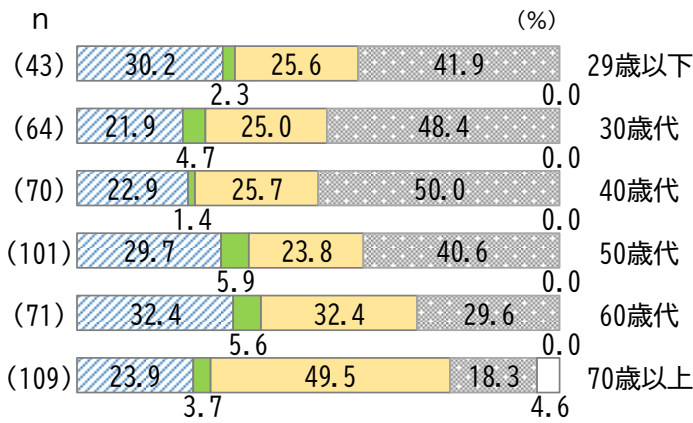


⑧家庭での家事分担や家庭におけるものごとの決定

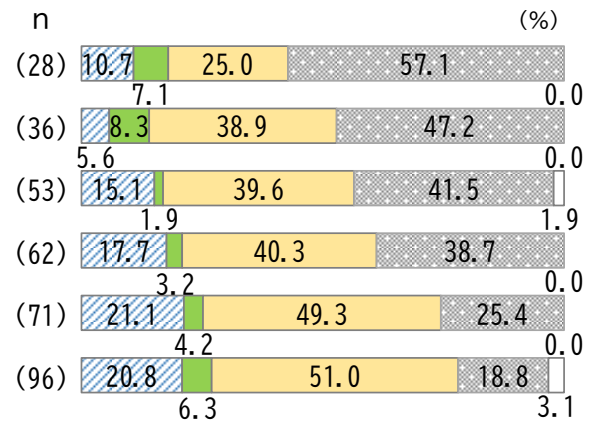


⑨町内会・自治会の活動

< 女性 >

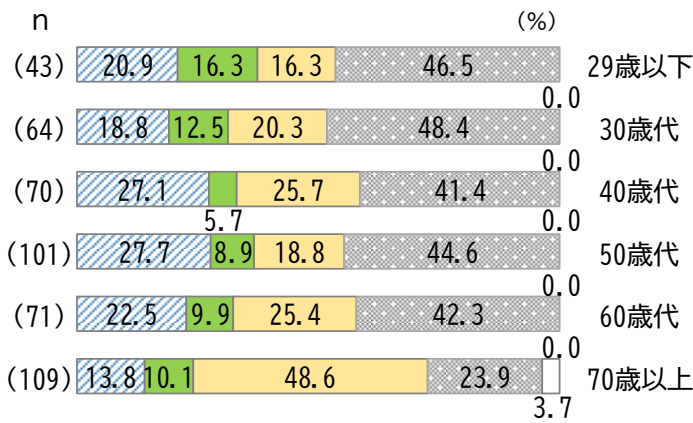


< 男性 >

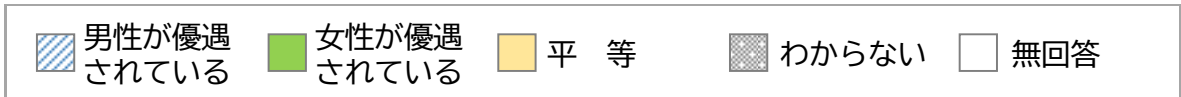
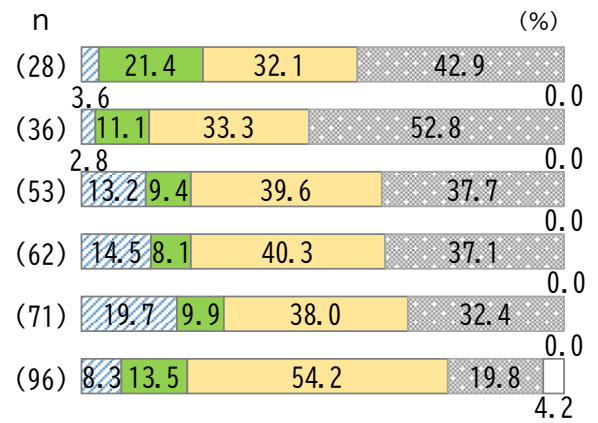


⑩PTAやボランティアなどの地域活動

< 女性 >



< 男性 >



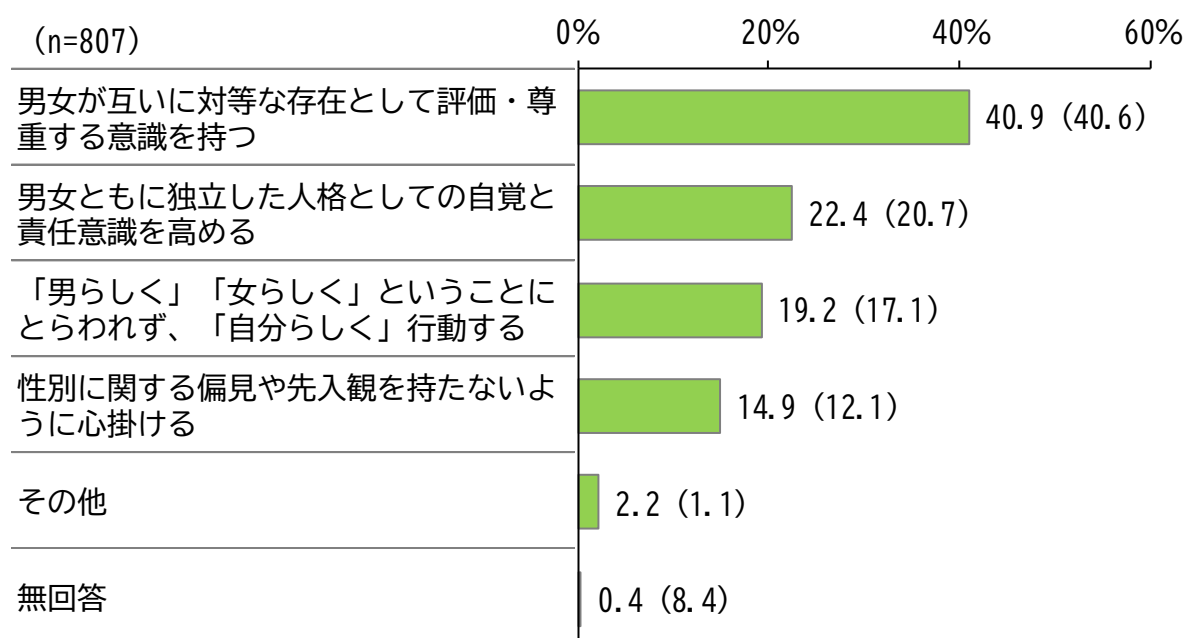
(3-1) 男女共同参画社会をつくるために個人の心掛けで必要だと思うこと (問10-1)

問10 男女共同参画社会をつくるために、あなたが最も必要だと思うことを(1)から(3)の項目ごとに選んで番号に○をつけてください。
 (1) 個人の心掛けで最も必要だと思うこと (○は1つだけ)

男女共同参画社会をつくるために個人の心掛けで最も必要だと思うことについては、「男女が互いに対等な存在として評価・尊重する意識を持つ」が4割で最も高く、以下「男女ともに独立した人格としての自覚と責任意識を高める」が2割を超え、『「男らしく」「女らしく」ということにとらわれず、「自分らしく」行動する』が約2割で続いている。

前回調査との比較で特に大きな変化はみられない。

図表 男女共同参画社会をつくるために個人の心掛けで必要だと思うこと
 (全体/前回調査との比較)

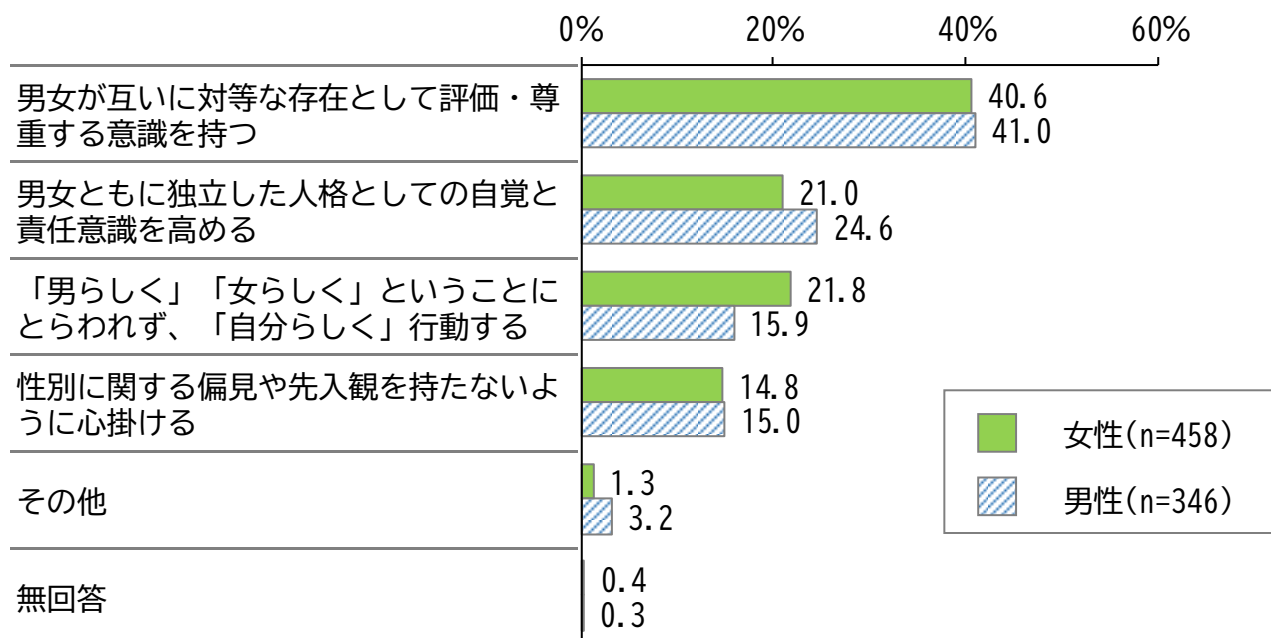


※ () 内は令和元年度調査の結果 (n=702)

【性別】

性別でみると、『「男らしく」「女らしく」ということにとらわれず、「自分らしく」行動する』は女性が男性に比べ約6ポイント高くなっている。

図表 男女共同参画社会をつくるために個人の心掛けで必要だと思うこと（性別）

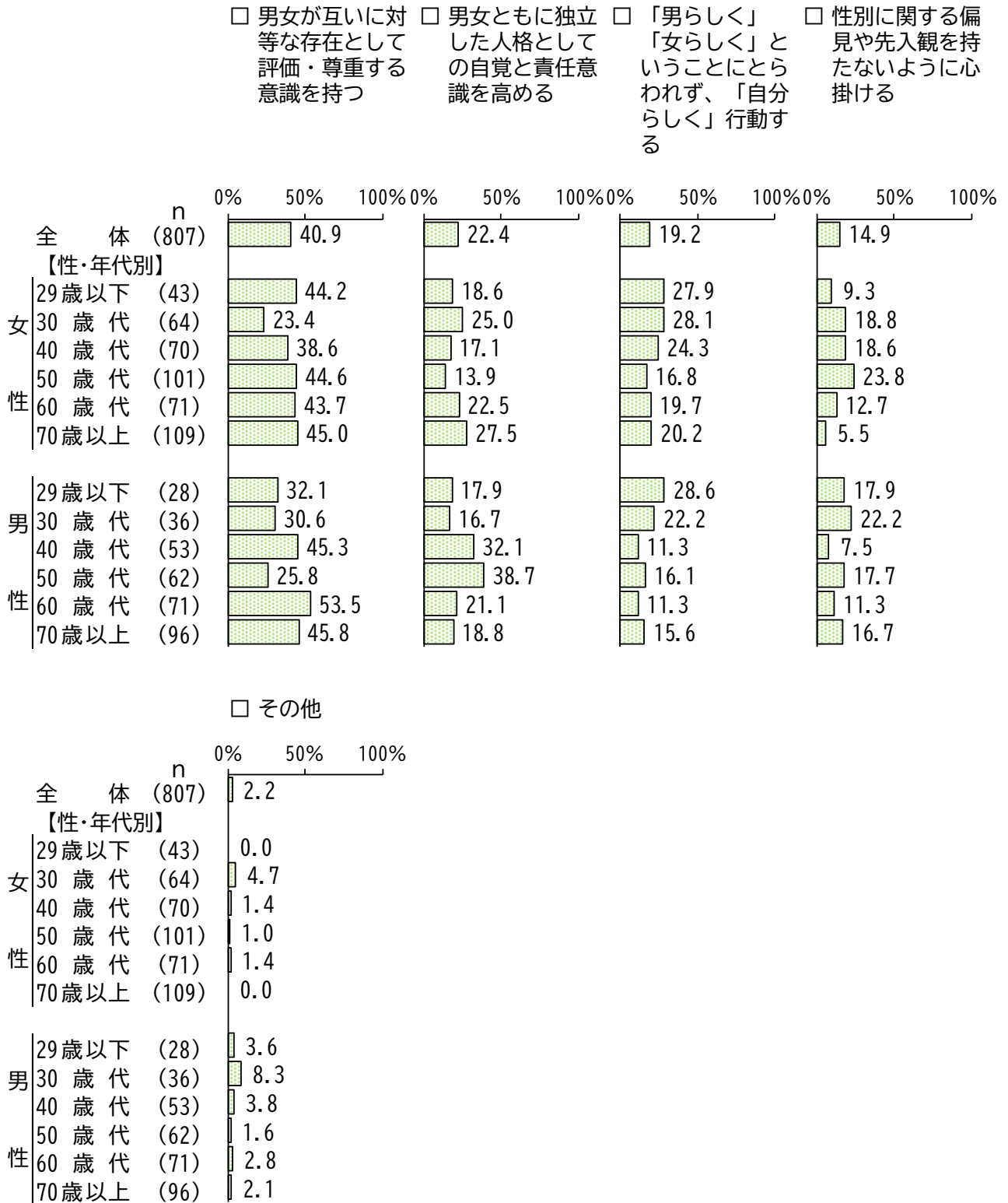


【性年代別】

性年代別でみると、「男女が互いに対等な存在として評価・尊重する意識を持つ」は男性の60歳代が5割台半ばと高くなっている。

また、「男女ともに独立した人格としての自覚と責任意識を高める」は男性の50歳代が約4割と高くなっている。

図表 男女共同参画社会をつくるために個人の心掛けで必要だと思うこと（性年代別）



【「その他」の主な意見】

- 性差は尊重する。個性を活かす。人格を重視する。（回答しない・50歳代）
- 男女がお互いの長所・短所を理解し、思いやる。（女性・30歳代）
- 男女という枠組みを必要以上に意識せず、“平等”ではなく公平に扱う必要がある。
(男性・29歳以下)
- 男女がその性別や、性別による違いを尊重し合うこと。（男性・40歳代）

(3-2) 男女共同参画社会をつくるために家庭に必要な取組 (問10-2)

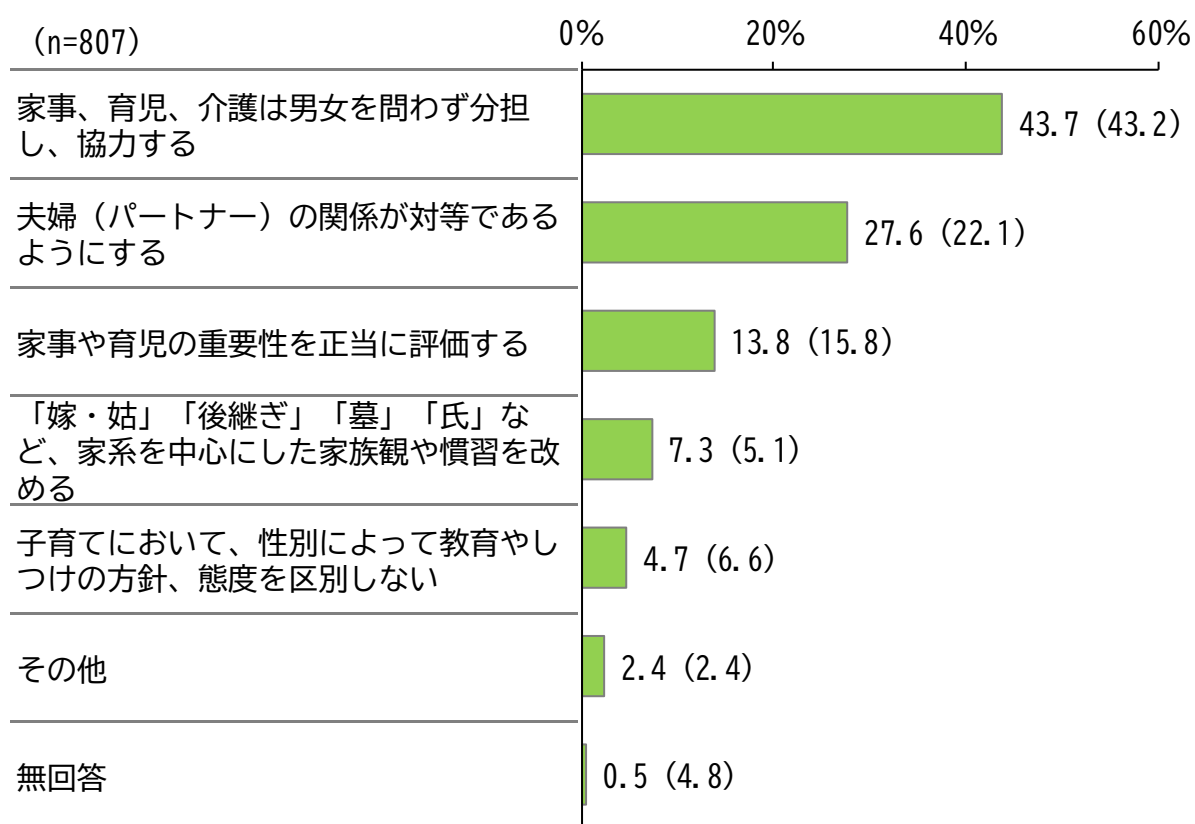
問10 男女共同参画社会をつくるために、あなたが最も必要だと思うことを(1)から(3)の項目ごとに選んで番号に○をつけてください。

(2) 家庭で最も必要だと思う取組 (○は1つだけ)

男女共同参画社会をつくるために家庭に必要な取組としては、「家事、育児、介護は男女を問わず分担し、協力する」が4割台半ばと最も高く、以下「夫婦(パートナー)の関係が対等であるようにする」が約3割、「家事や育児の重要性を正當に評価する」が1割台半ばで続いている。

前回調査との比較でみると、「夫婦(パートナー)の関係が対等であるようにする」が約6ポイント増加している。

図表 男女共同参画社会をつくるために家庭に必要な取組 (全体/前回調査との比較)

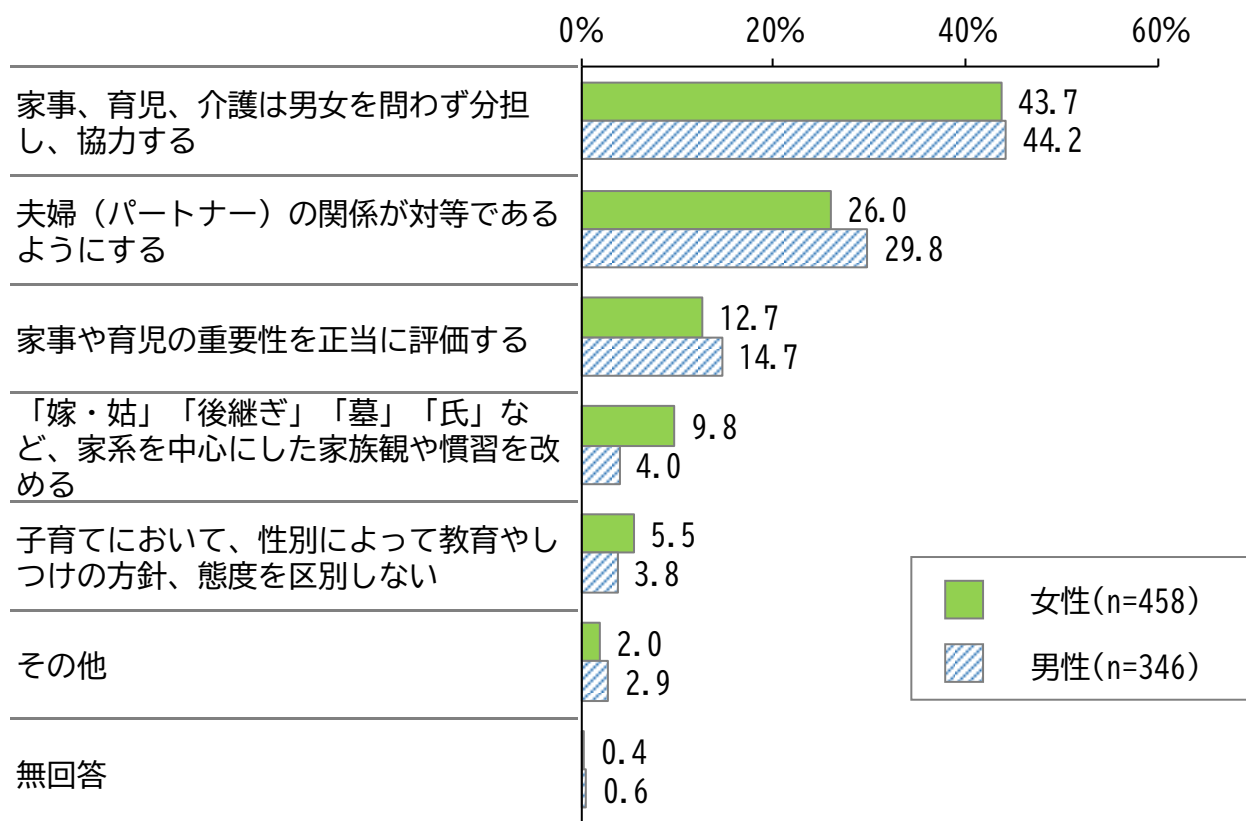


※ () 内は令和元年度調査の結果 (n=702)

【性別】

性別で見ると、『「嫁・姑」「後継ぎ」「墓」「氏」など、家系を中心にした家族観や慣習を改める』は女性が男性に比べ約6ポイント高くなっている。

図表 男女共同参画社会をつくるために家庭に必要な取組（性別）

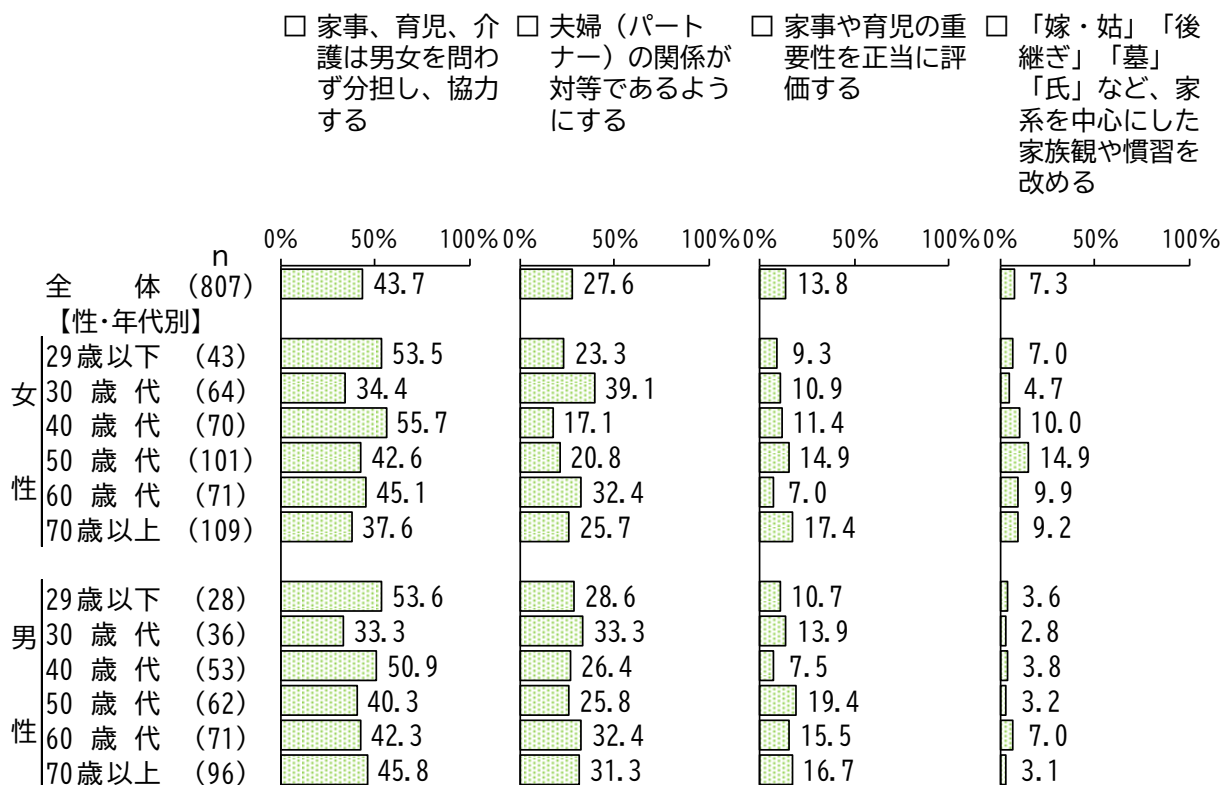


【性年代別】

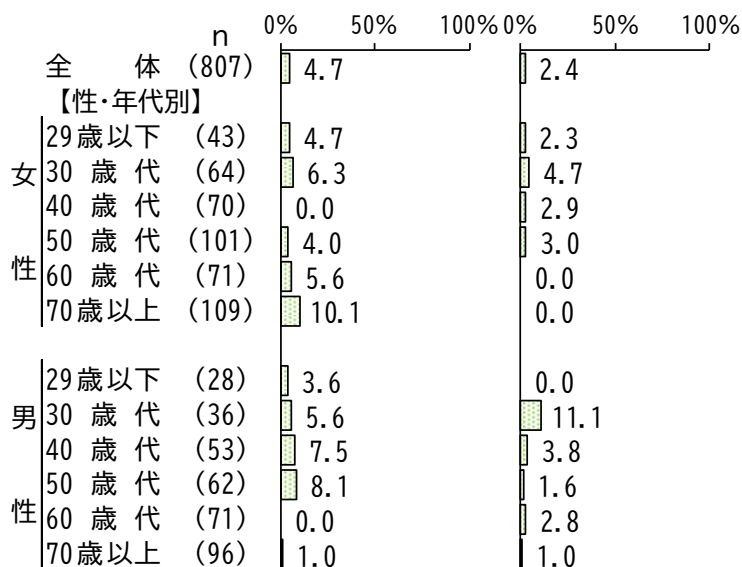
性年代別でみると、「家事、育児、介護は男女を問わず分担し、協力する」は女性の40歳代と29歳以下の男女でいずれも5割台半ばと高くなっている。

また、「夫婦（パートナー）の関係が対等であるようにする」は女性の30歳代で約4割と高くなっている。

図表 男女共同参画社会をつくるために家庭に必要な取組（性年代別）



子育てにおいて、性別によって教育やしつけの方針、態度を区別しない
 その他



【「その他」の主な意見】

- 男が外で働き、女は家庭を守る。（男性・60歳代）
- 外部からの「こうあるべき」のような意見に振り回されない。（男性・30歳代）
- 尊敬と感謝。男、女関係なくできる方がやればよいと思う。（女性・40歳代）
- お互いに何が得意・不得意かをしっかり話し合いフォローし合う姿勢。（女性・29歳以下）
- 家事や育児の重要性評価も大事だが、外で働く人の評価もすべて重要。（男性・40歳代）

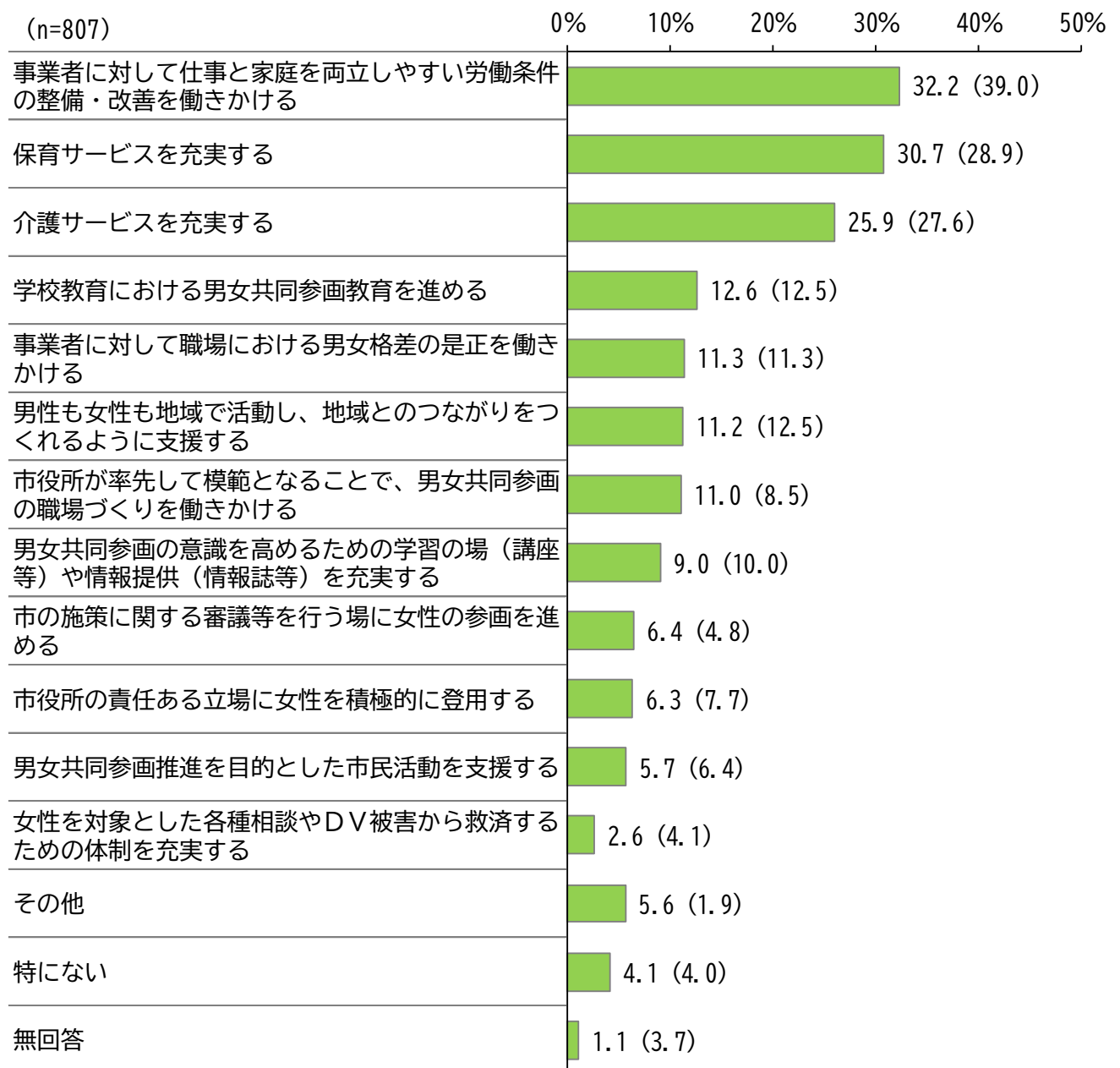
(3-3) 男女共同参画社会をつくるために八千代市で必要だと思う取組 (問10-3)

問10 男女共同参画社会をつくるために、あなたが最も必要だと思うことを(1)から(3)の項目ごとに選んで番号に○をつけてください。
 (3) 八千代市で特に必要だと思う取組 (○は2つまで)

男女共同参画社会をつくるために八千代市で必要だと思う取組については、「事業者に対して仕事と家庭を両立しやすい労働条件の整備・改善を働きかける」が3割を超えて最も高く、以下「保育サービスを充実する」が3割、「介護サービスを充実する」が2割台半ばで続いている。

前回調査との比較でみると、「事業者に対して仕事と家庭を両立しやすい労働条件の整備・改善を働きかける」が約7ポイント減少している。

図表 男女共同参画社会をつくるために八千代市で必要だと思う取組 (全体/前回調査との比較)

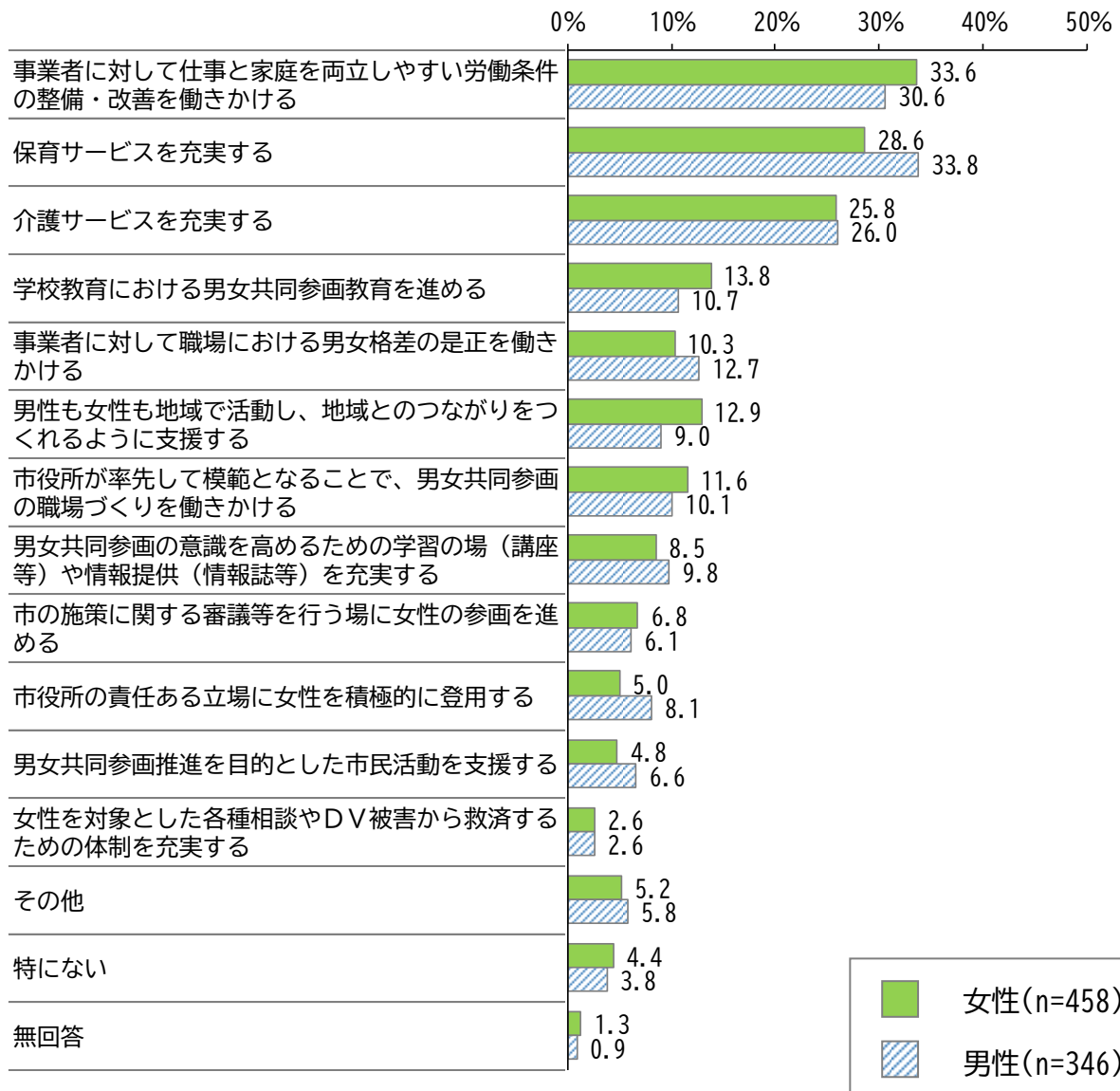


※ () 内は令和元年度調査の結果 (n=702)

【性別】

性別でみると、「保育サービスを充実する」は男性が女性に比べ約5ポイント高くなっている。

図表 男女共同参画社会をつくるために八千代市で必要だと思う取組（性別）

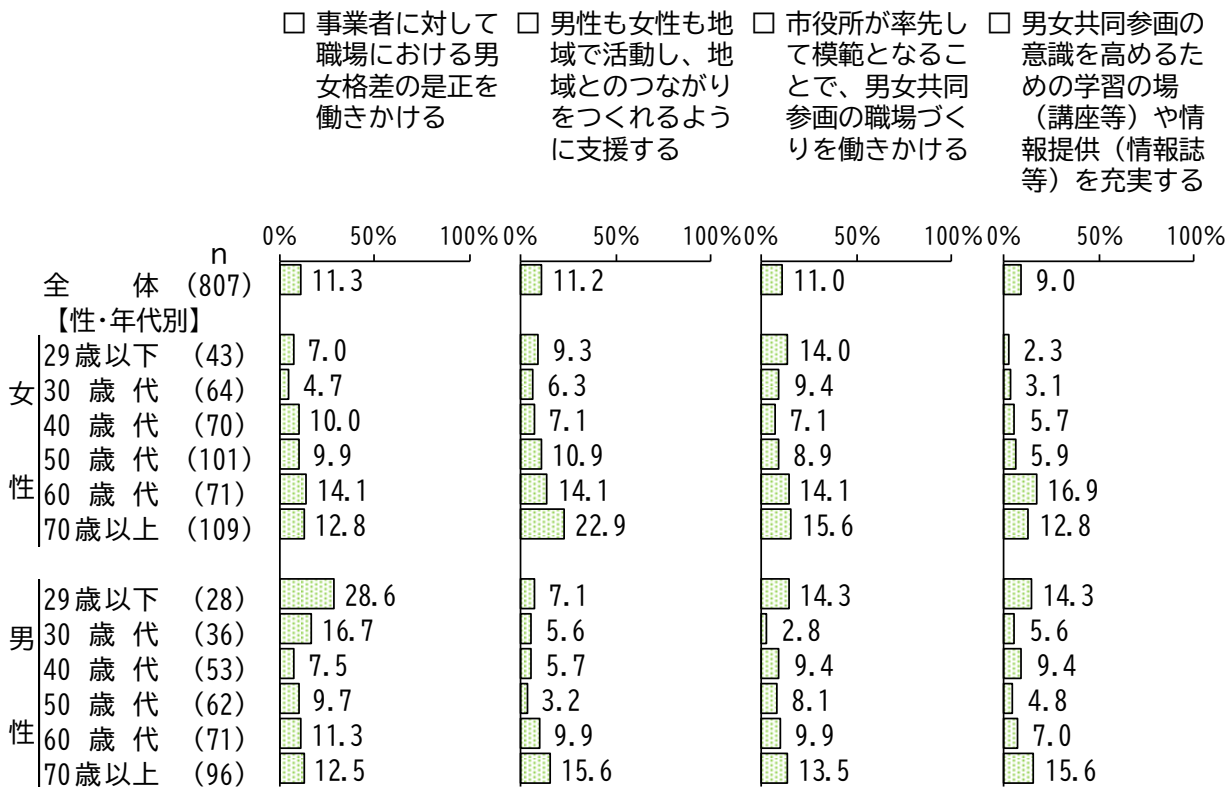
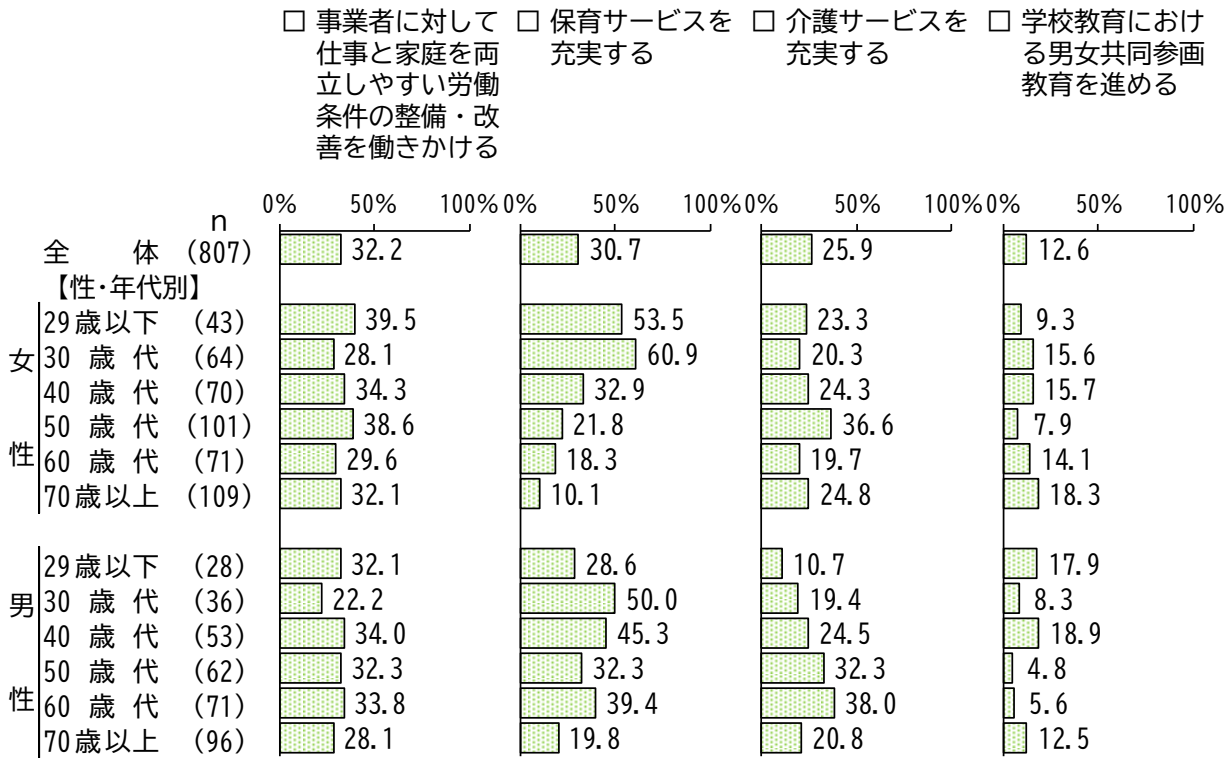


【性年代別】

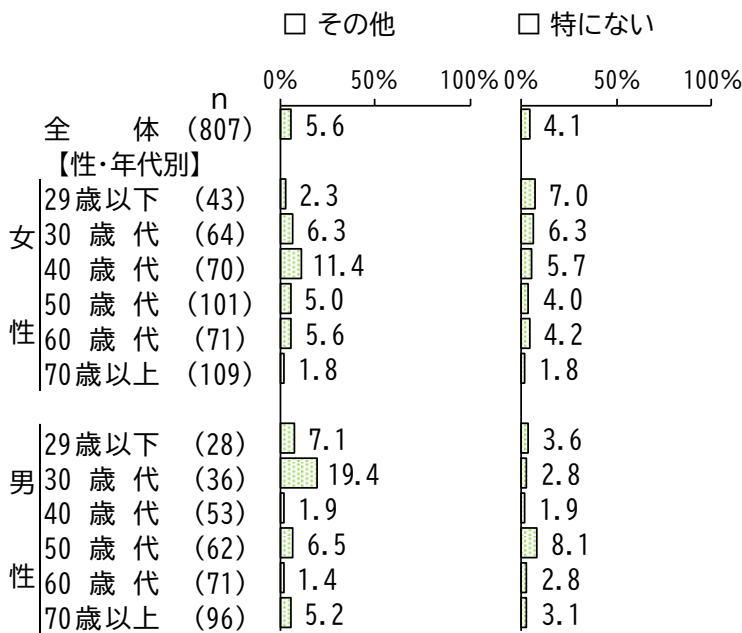
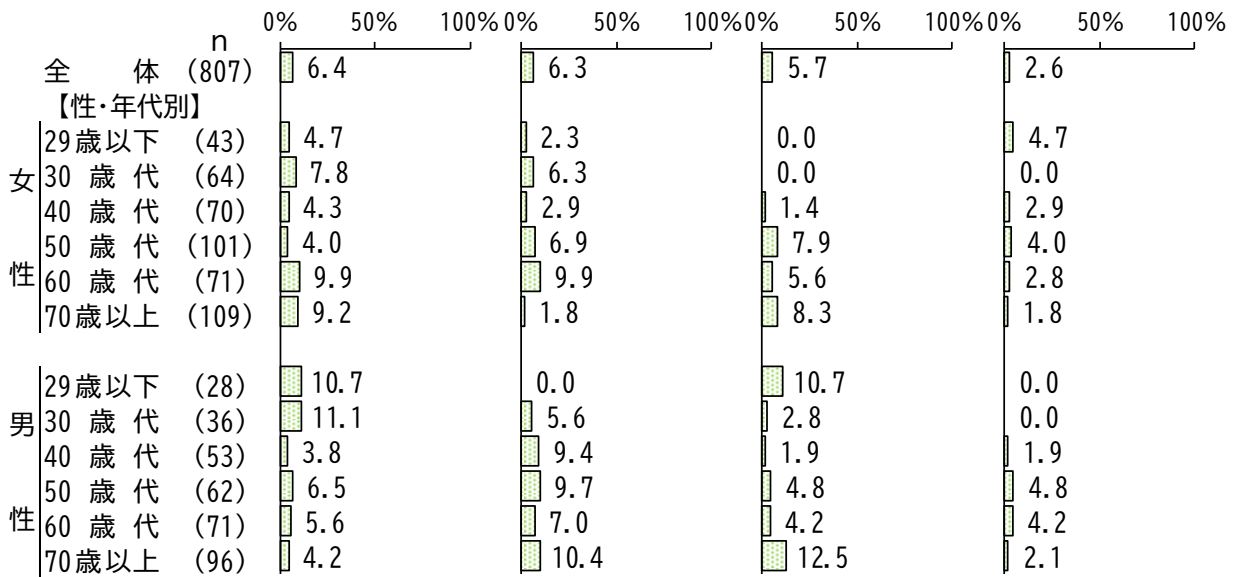
性年代別でみると、「保育サービスを充実する」は女性の30歳代が6割、女性の29歳以下が5割台半ば、男性の30歳代が5割、男性の40歳代が4割台半ばで高くなっている。

また、「介護サービスを充実する」は男性の60歳代が約4割、女性の50歳代が3割台半ばと高くなっている。

図表 男女共同参画社会をつくるために八千代市で必要だと思う取組（性年代別）



市の施策に関する審議等を行う場に女性の参画を進める
 市役所の責任ある立場に女性を積極的に登用する
 男女共同参画推進を目的とした市民活動を支援する
 女性を対象とした各種相談やDV被害から救済するための体制を充実する



【「その他」の主な意見】

- イベント等を行いながら、男女共同参画をまず知ってもらおう。（女性・30歳代）
- 幅広い市民の意見を聞く場を設け実行していく。（男性・70歳以上）
- 自分の周りには、女性で会社役員もいるし、重労働している人もいる。男女共同参画とは言うが、昔から問題なかったと思う。結局本人の意思次第の話で、政治でルールを作るのは違う。
（男性・30歳代）
- 意識改革や制度改革はぜひ推し進めていただきたいですが、その手前の段階で、男性優位の社会になってしまっていることへの無自覚さを自覚し反省するところから始めるべきかと思います。
（女性・40歳代）

6 性の多様性

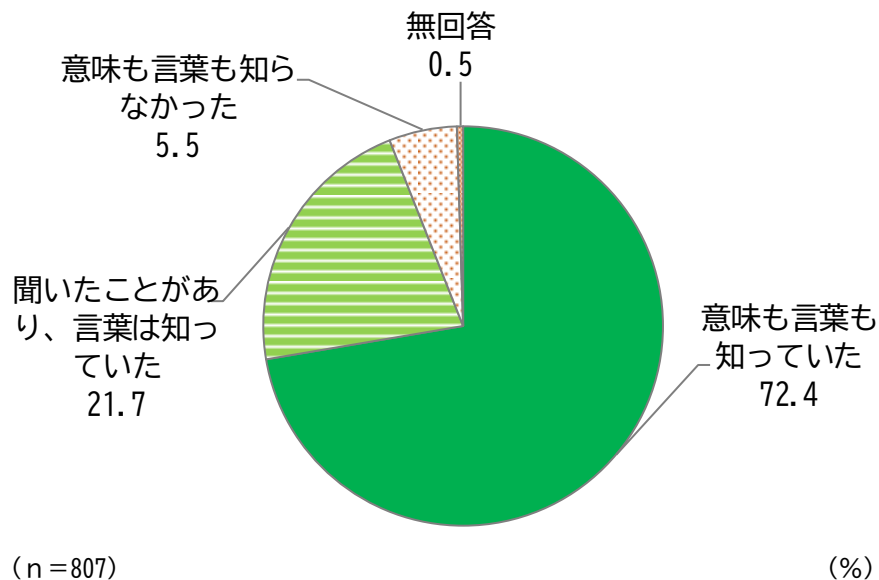
(1) 「LGBT」の認知 (問11)

問11 「LGBT (※)」という言葉を知っていましたか。1つ選んで番号に○をつけてください。(○は1つ)

(※) LGBT とは、〔L〕レズビアン(女性同性愛者)、〔G〕ゲイ(男性同性愛者)、〔B〕バイセクシュアル(両性愛者)、〔T〕トランスジェンダー(出生時に割り当てられた性別と自認する性別が一致しない人)の頭文字をとった言葉です。

「LGBT」について、「意味も言葉も知っていた」は7割を超え高い。また、「聞いたことがあり、言葉は知っていた」は2割を超えている。一方、「意味も言葉も知らなかった」は1割以下となっている。

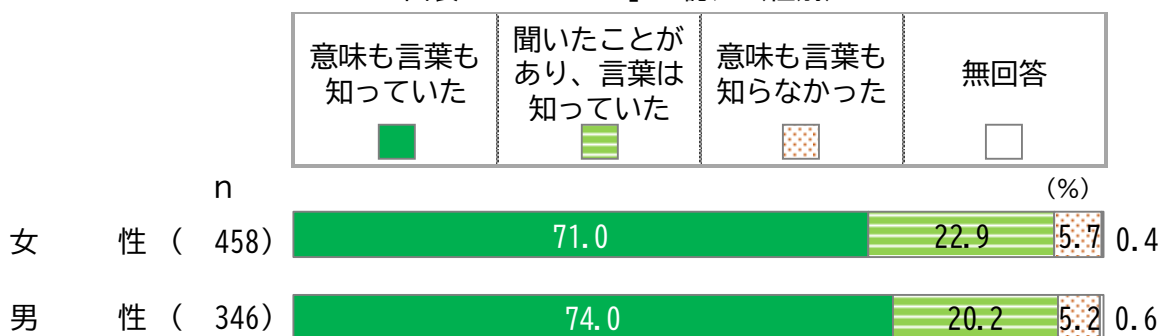
図表 「LGBT」の認知 (全体)



【性別】

性別で大きな傾向の違いはみられない。

図表 「LGBT」の認知 (性別)

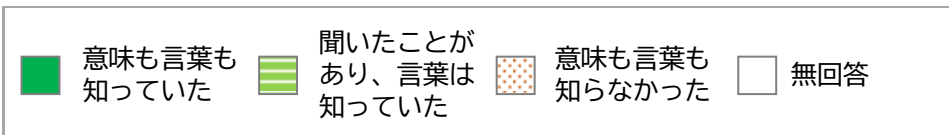
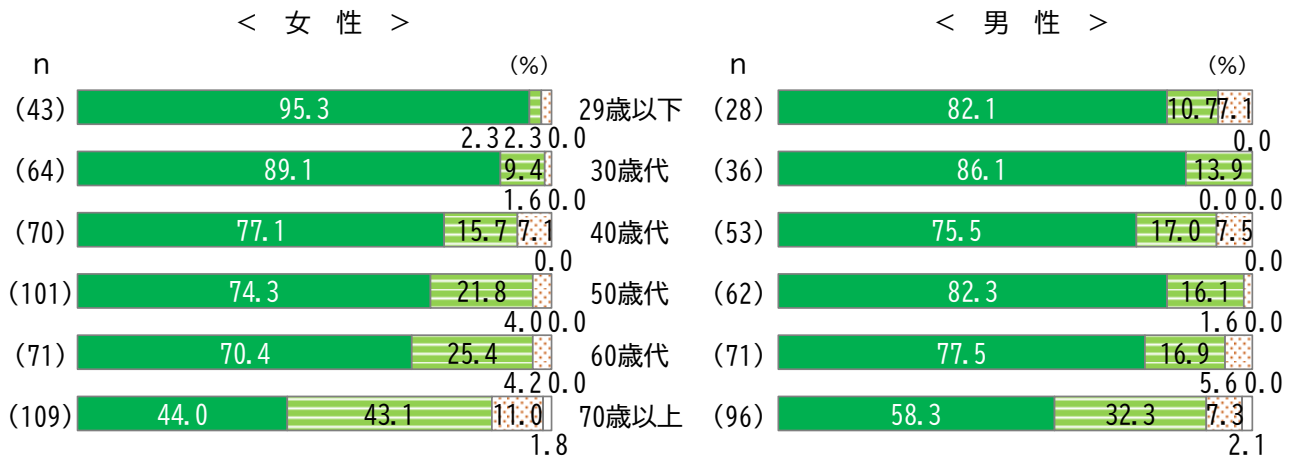


【性年代別】

性年代別でみると、「意味も言葉も知っていた」は女性の29歳以下が9割台半ば、女性の30歳代が約9割で高くなっている。

また、男女ともに70歳以上の「意味も言葉も知っていた」が他の年代に比べ低くなっている。

図表 「LGBT」の認知（性年代別）



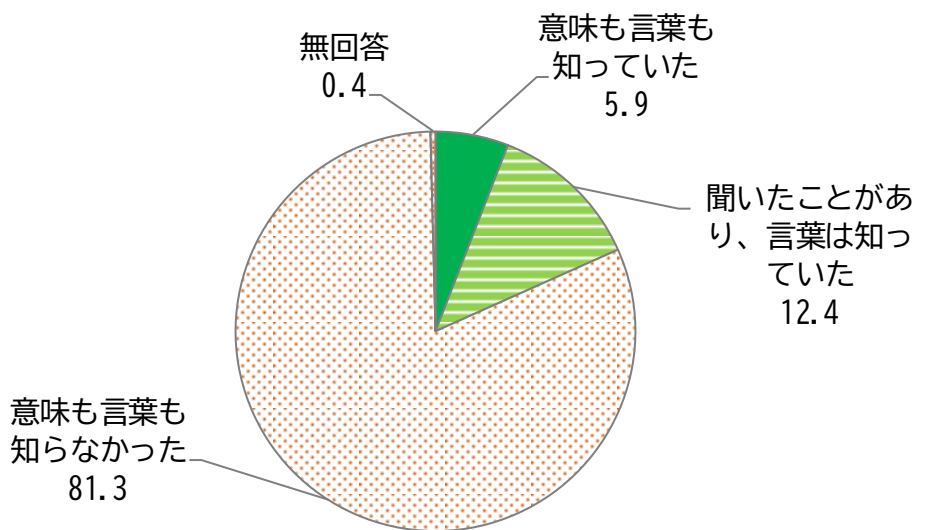
(2) 「SOGI」の認知 (問12)

問12 「SOGI (ソギまたはソジ) (※)」という言葉を知っていましたか。1つ選んで番号に○をつけてください。(○は1つ)

(※) SOGIとは、「Sexual Orientation (セクシュアル・オリエンテーション：性的指向)」と「Gender Identity (ジェンダー・アイデンティティ：性自認)」の頭文字をとった言葉です。

「SOGI」について、「意味も言葉も知っていた」は1割以下になっている。また、「聞いたことがあり、言葉は知っていた」は1割を超えている。一方、「意味も言葉も知らなかった」は8割を超えている。

図表 「SOGI」の認知 (全体)



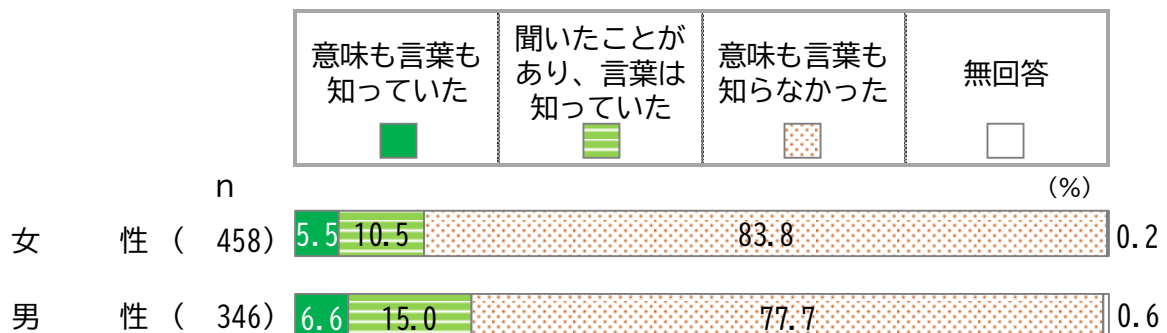
(n=807)

(%)

【性別】

性別でみると、女性の「意味も言葉も知らなかった」が男性に比べ、約6ポイント高くなっている。

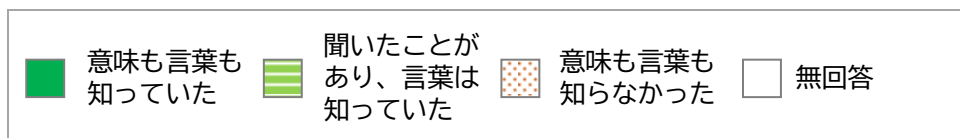
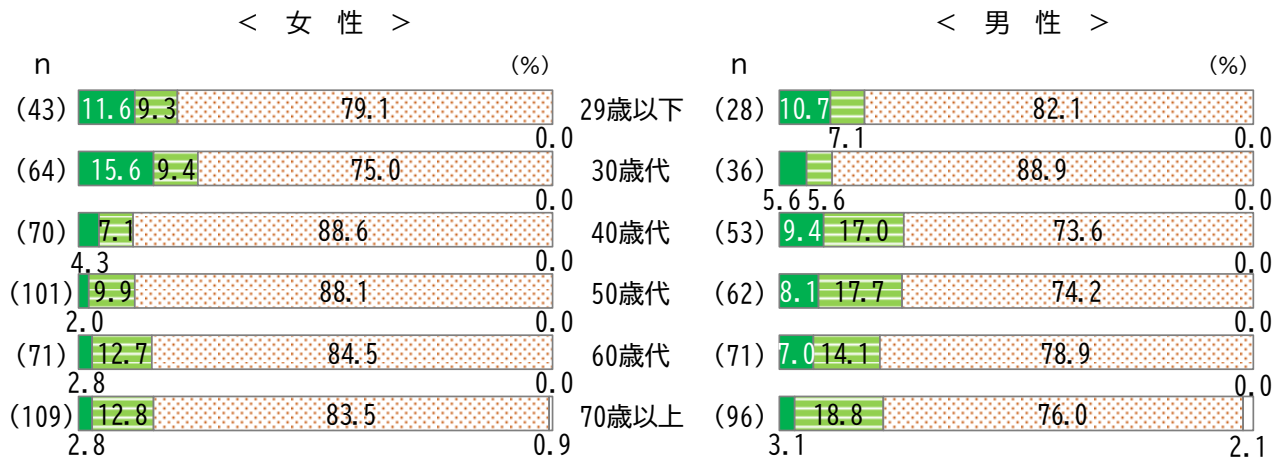
図表 「SOGI」の認知 (性別)



【性年代別】

性年代別でみると、「意味も言葉も知っていた」は30歳代において、女性が男性に比べ約10ポイント高くなっている。一方、「意味も言葉も知らなかった」は、40歳代と50歳代において、女性が男性に比べそれぞれ10ポイント以上高くなっている。

図表 「SOGI」の認知（性年代別）



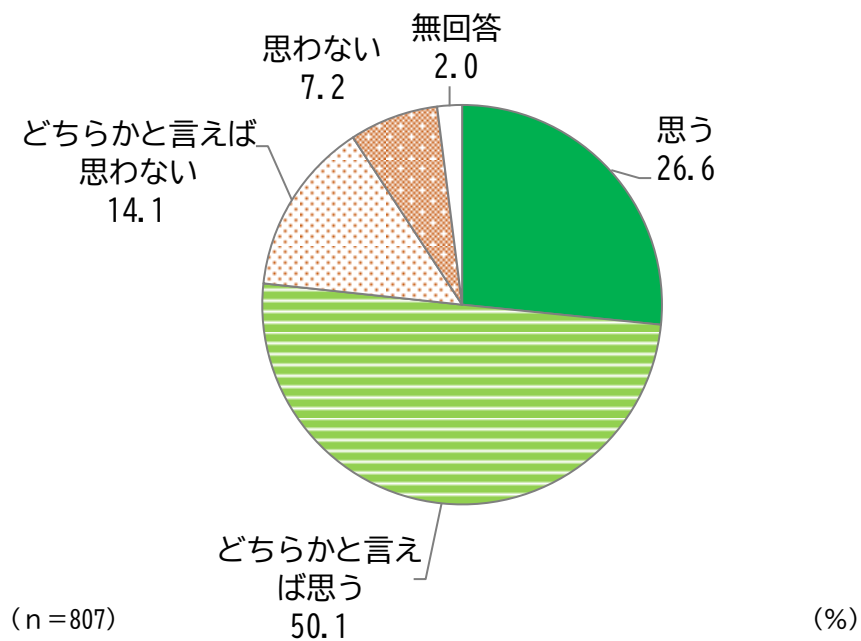
(3) 性的マイノリティの方々にとって生活しづらい社会だと思うか (問13)

問13 現在、LGBT等性的マイノリティ（少数者）の方々にとって、偏見や不当な差別などにより、生活しづらい社会だと思いますか。あなたの考えに最も近いものを1つ選んで番号に○をつけてください。（○は1つ）

性的マイノリティの方々にとって生活しづらい社会だと思うかについて聞いたところ、「思う」と「どちらかと言えば思う」を合わせた『思う（計）』が7割台半ばとなっている。

一方、「思わない」と「どちらかと言えば思わない」を合わせた『思わない（計）』が2割を超えている。

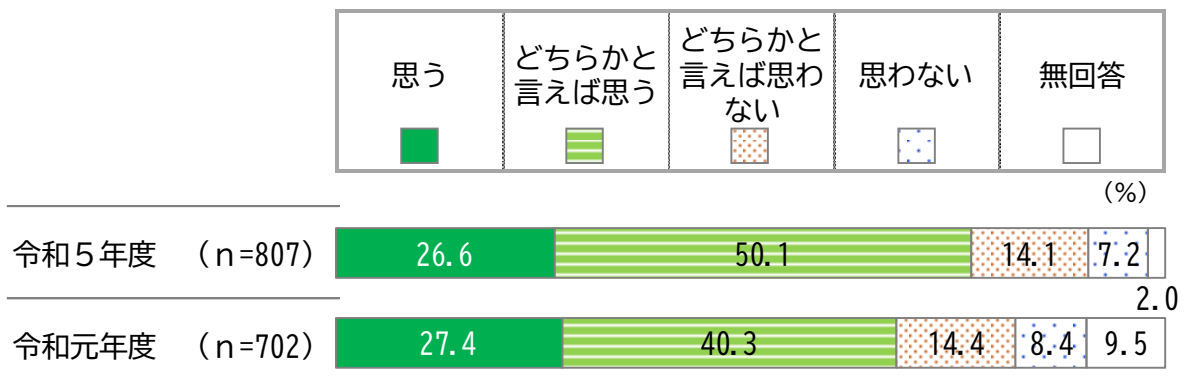
図表 性的マイノリティの方々にとって生活しづらい社会だと思うか（全体）



【前回調査との比較】

前回調査との比較でみると、『思う（計）』が約9ポイント増加している。

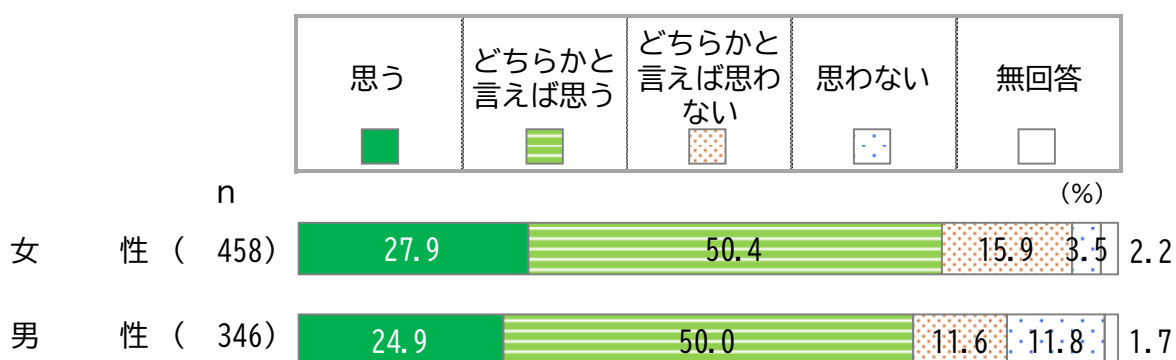
図表 性的マイノリティの方々にとって生活しづらい社会だと思うか（前回調査との比較）



【性別】

性別で大きな傾向の違いはみられない。

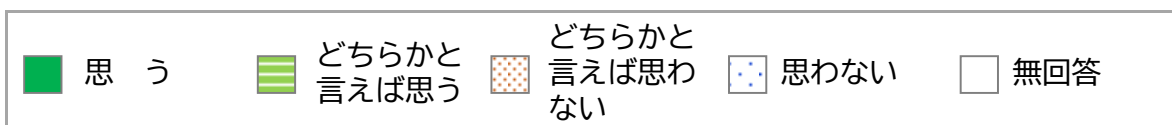
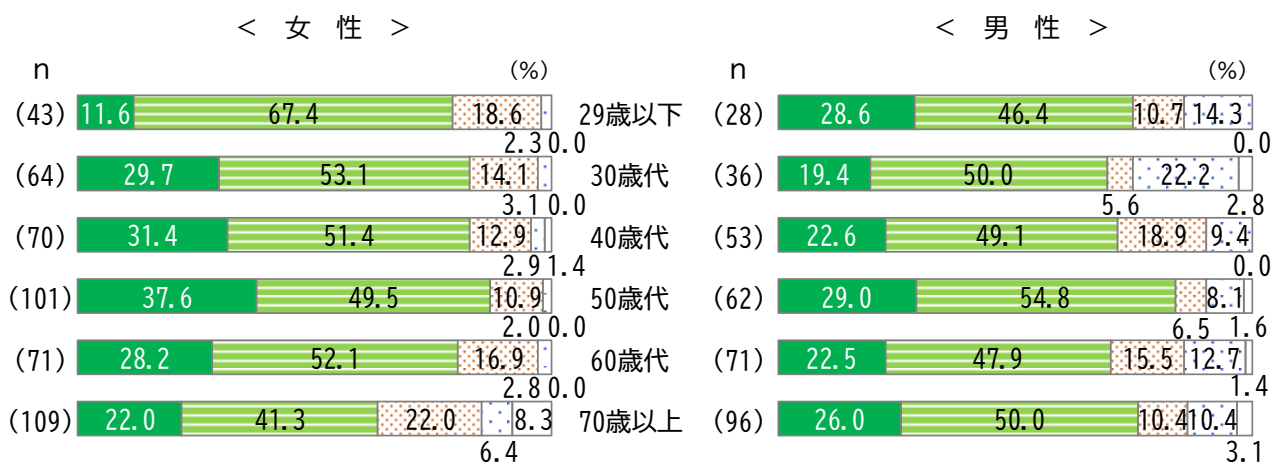
図表 性的マイノリティの方々にとって生活しづらい社会だと思うか（性別）



【性年代別】

性年代別でみると、女性の50歳代の『思う（計）』が約9割で最も高くなっている。

図表 性的マイノリティの方々にとって生活しづらい社会だと思うか（性年代別）



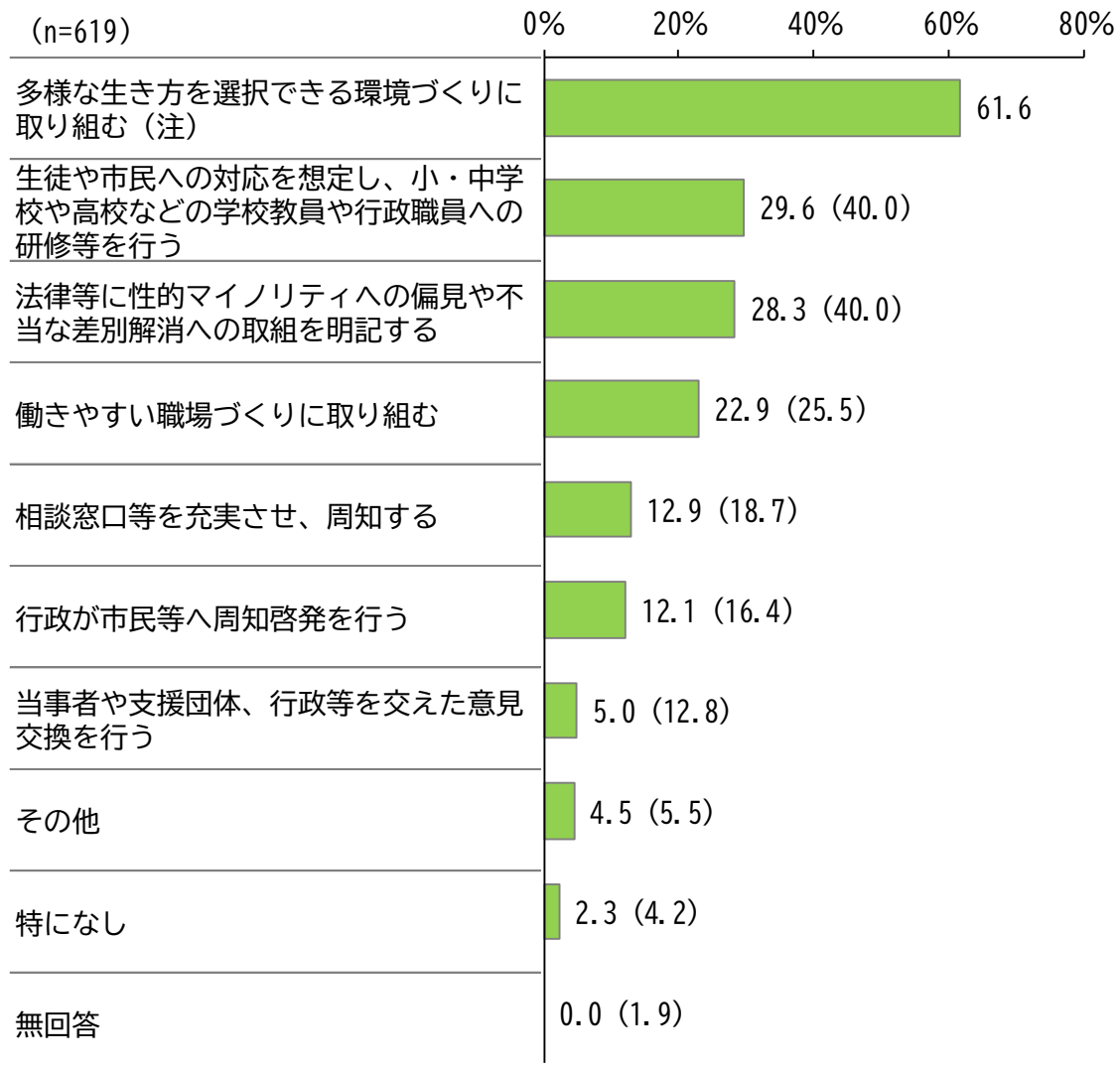
(3-1) 性的マイノリティの方々が生活しやすくなるために必要な対策 (問13-1)

(問13で「1 思う」「2 どちらかと言えば思う」とお答えの方にお聞きします。)
 問13-1 LGBT等性的マイノリティの方々に対する偏見や不当な差別をなくし、LGBT等性的マイノリティの方々が生活しやすくなるためにどのような対策が必要だと思いますか。特にあてはまるものを2つまで選んでください。(〇は2つまで)

性的マイノリティの方々が生活しやすくなるために必要な対策としては、「多様な生き方を選択できる環境づくりに取り組む」が6割を超えて最も多く、以下「生徒や市民への対応を想定し、小・中学校や高校などの学校教員や行政職員への研修等を行う」と「法律等に性的マイノリティへの偏見や不当な差別解消への取組を明記する」がともに約3割、「働きやすい職場づくりに取り組む」が2割を超えて続いている。

前回調査との比較については、選択肢の追加があったため、参考として図示するにとどめる。

図表 性的マイノリティの方々が生活しやすくなるために必要な対策 (全体/前回調査との比較)



※ () 内は令和元年度調査の結果 (n=475)

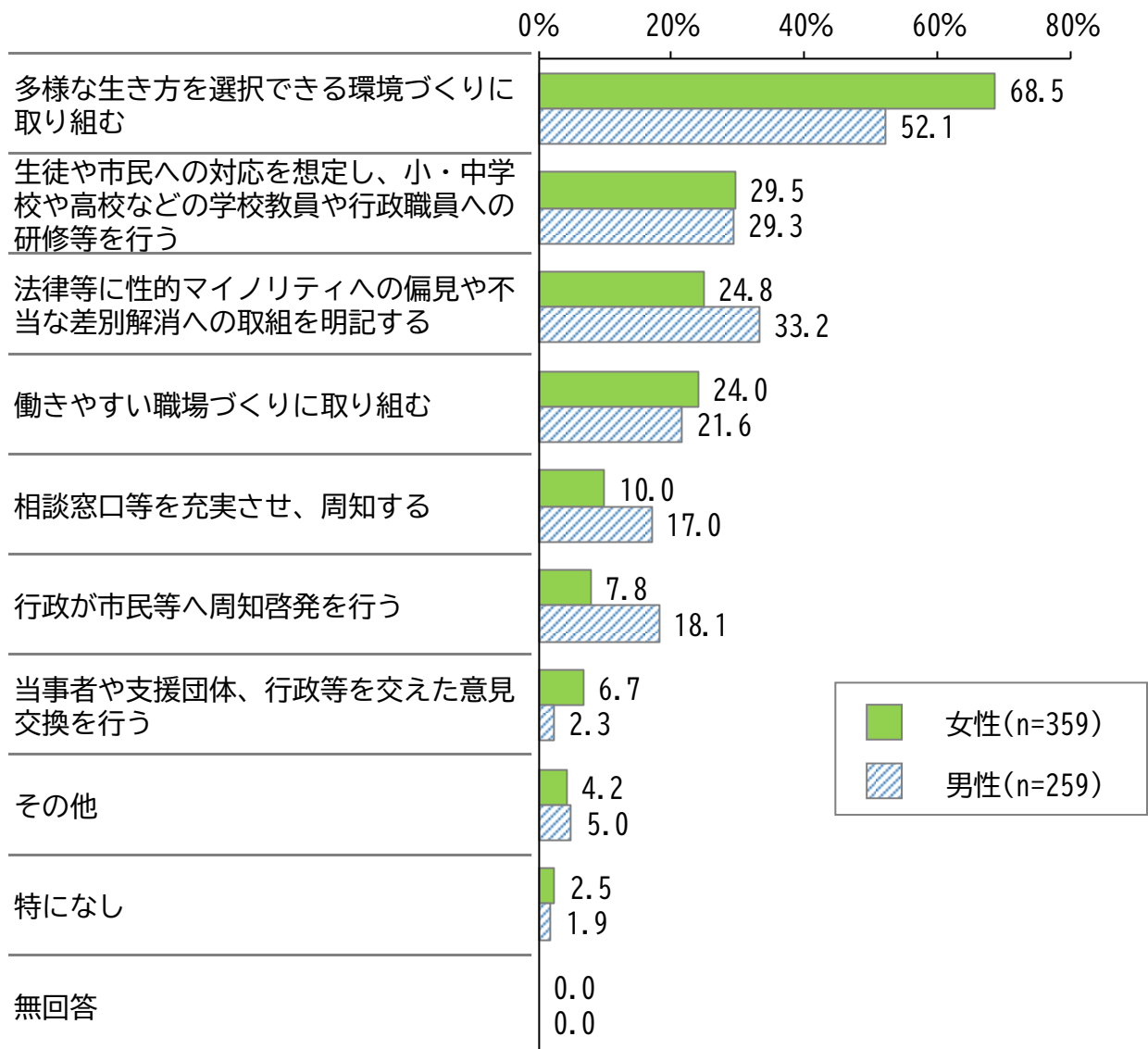
(注) 「多様な生き方を選択できる環境づくりに取り組む」は今回調査から選択肢に追加された。

【性別】

性別でみると、「多様な生き方を選択できる環境づくりに取り組む」は女性が男性に比べ約16ポイント高くなっている。

また、男性は女性に比べ「行政が市民等へ周知啓発を行う」が約10ポイント、「法律等に性的マイノリティへの偏見や不当な差別解消への取組を明記する」が約8ポイント、「相談窓口等を充実させ、周知する」が約7ポイント、それぞれ高くなっている。

図表 性的マイノリティの方々が生活しやすくなるために必要な対策（性別）

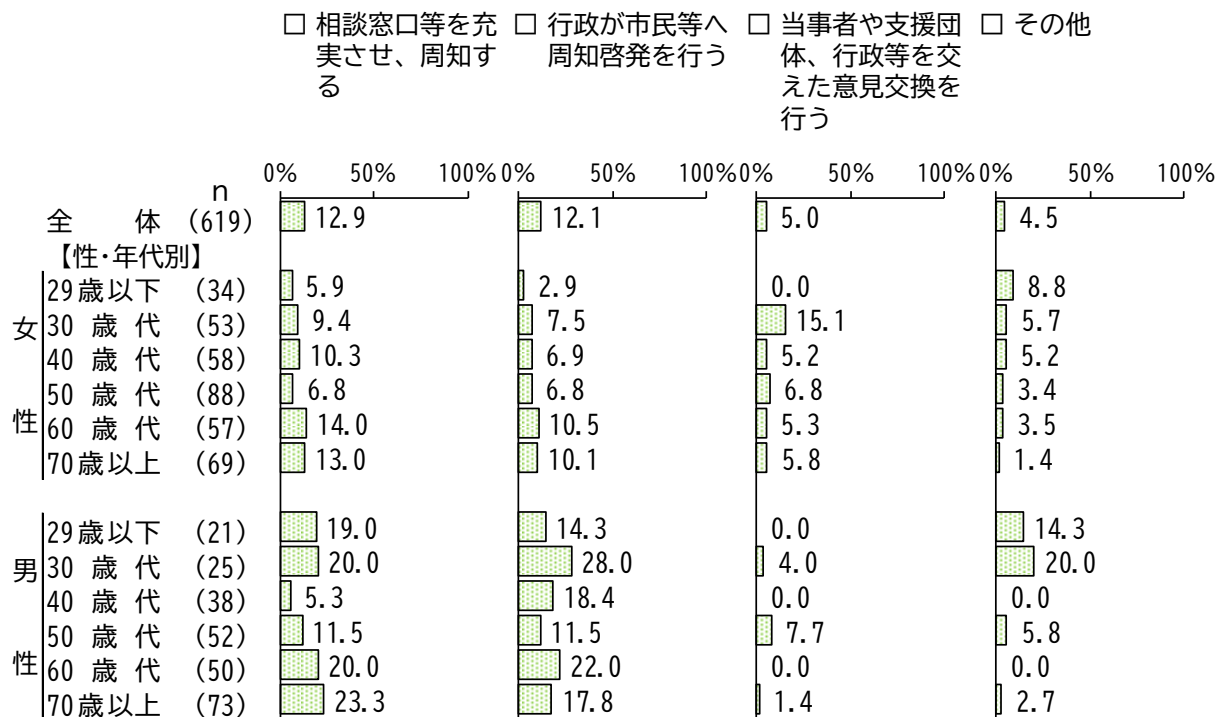
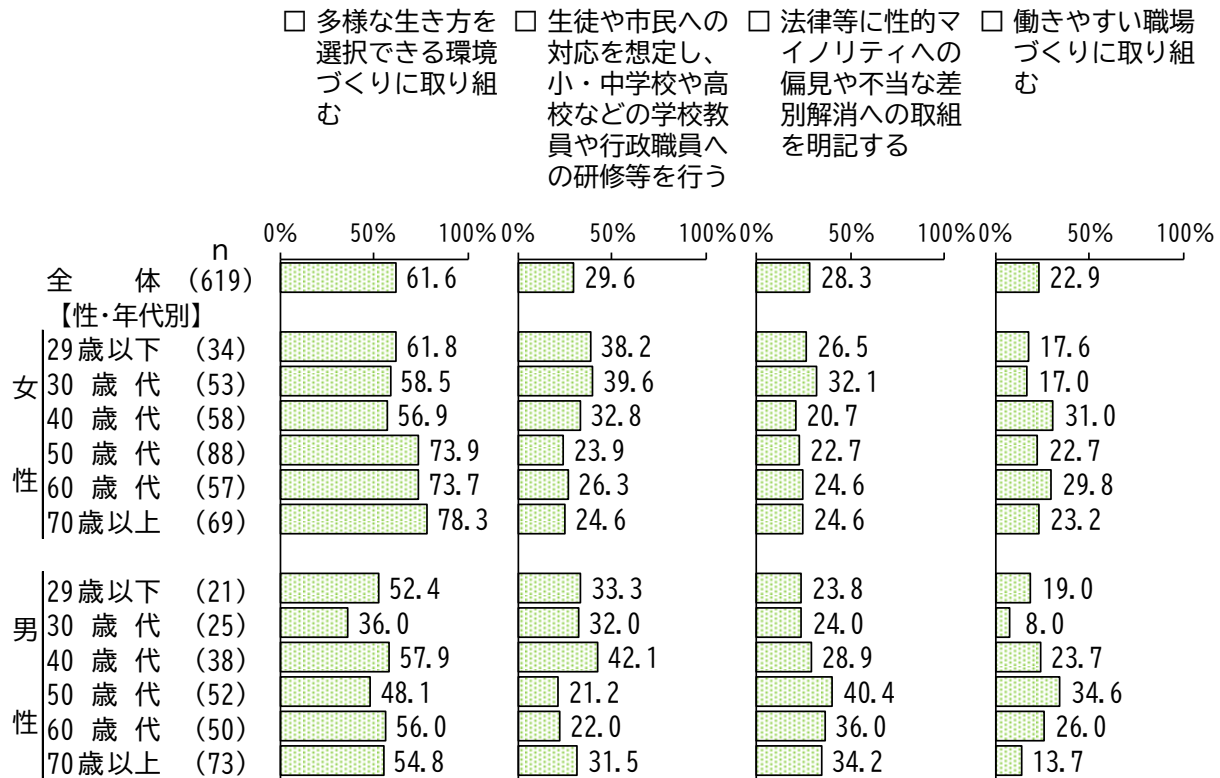


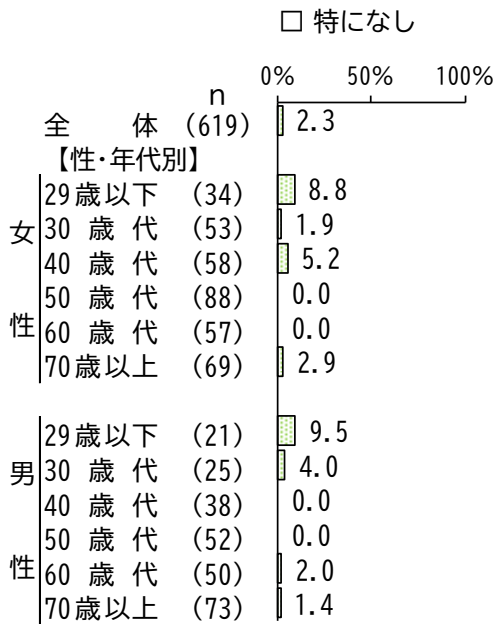
【性年代別】

性年代別でみると、「多様な生き方を選択できる環境づくりに取り組む」は女性の70歳以上が約8割、女性の50歳代と60歳代がともに7割台半ばで高くなっている。

また、「法律等に性的マイノリティへの偏見や不当な差別解消への取組を明記する」は男性の50歳代が4割、「働きやすい職場づくりに取り組む」は男性の50歳代が3割台半ばでそれぞれ高くなっている。

図表 性的マイノリティの方々が生活しやすくなるために必要な対策（性年代別）





【「その他」の主な意見】

- よくわからないけれど、誰とでも偏見を持たず普通に接してあげられるような社会づくり、本人達が望むことのお手伝い。（女性・50歳代）
- 性的マイノリティに対する支援制度を充実させる。（女性・29歳以下）
- アンケートや書類などは、必ず、男、女を選ばなければいけない。遅れているのではないか。（男性・70歳以上）
- LGBT対策を講じるのは逆差別に繋がりがねないので反対。（男性・50歳代）
- 学校で多様な価値観を認められるような教育を行う。（男性・30歳代）
- 有用な（形だけではない）パートナーシップ制度の早期制定。社会が認めていることの明確なメッセージになる。（女性・40歳代）

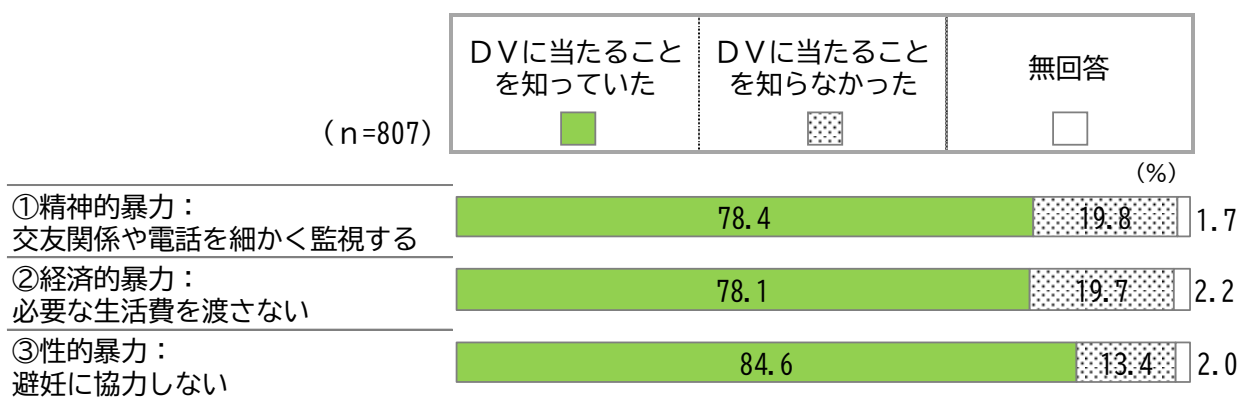
7 DV（ドメスティック・バイオレンス）

（1）身体的な暴力以外のDVの認知（問14）

問14 配偶者や恋人などから振るわれる暴力のことをDV（ドメスティック・バイオレンス）と言います。あなたは、身体的な暴力以外にも、①～③の行為がDVに当たることを知っていましたか。（それぞれ○は1つ）

身体的な暴力以外のDVの認知について、「性的暴力」が「DVに当たることを知っていた」が8割台半ば、「精神的暴力」「経済的暴力」が「DVに当たることを知っていた」がともに約8割となっている。

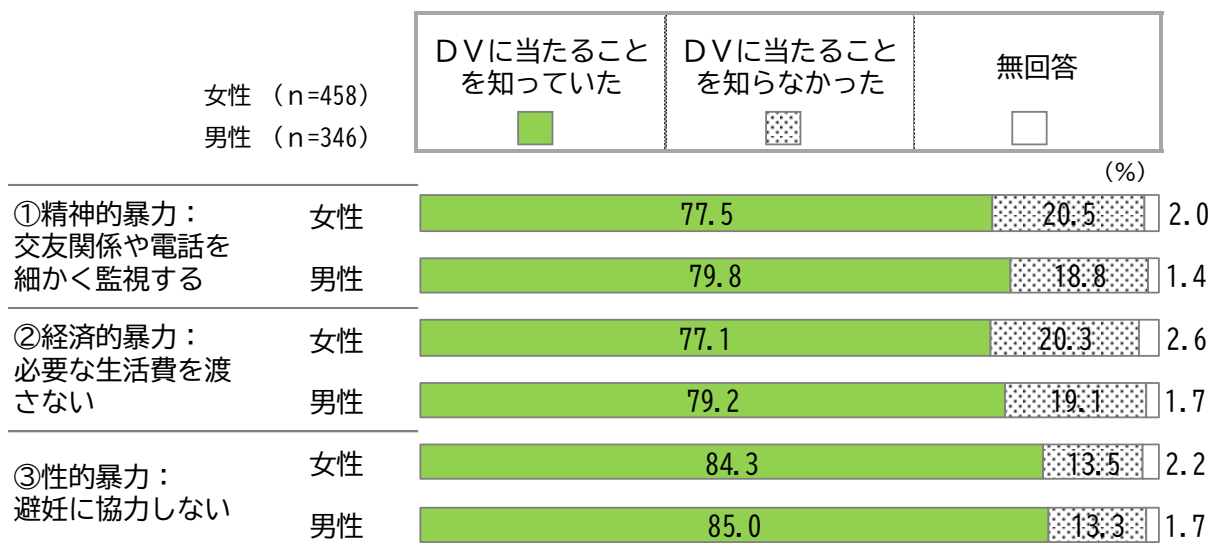
図表 身体的な暴力以外のDVの認知（全体）



【性別】

性別でみて大きな傾向の違いはみられない。

図表 身体的な暴力以外のDVの認知（性別）



【性年代別】

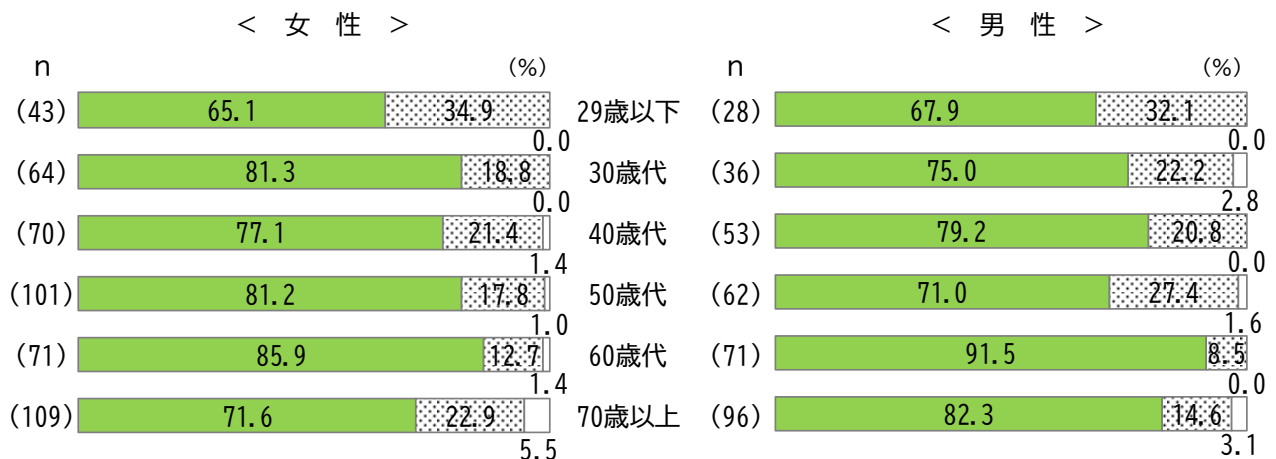
性年代別で見ると、「精神的暴力」では「DVに当たっていることを知っていた」の割合が男性の60歳代で9割を超えて高くなっている。

「経済的暴力」では「DVに当たっていることを知っていた」の割合が男性の40歳代で9割を超え、女性の30歳代で9割と高くなっている。

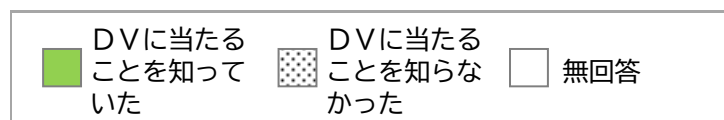
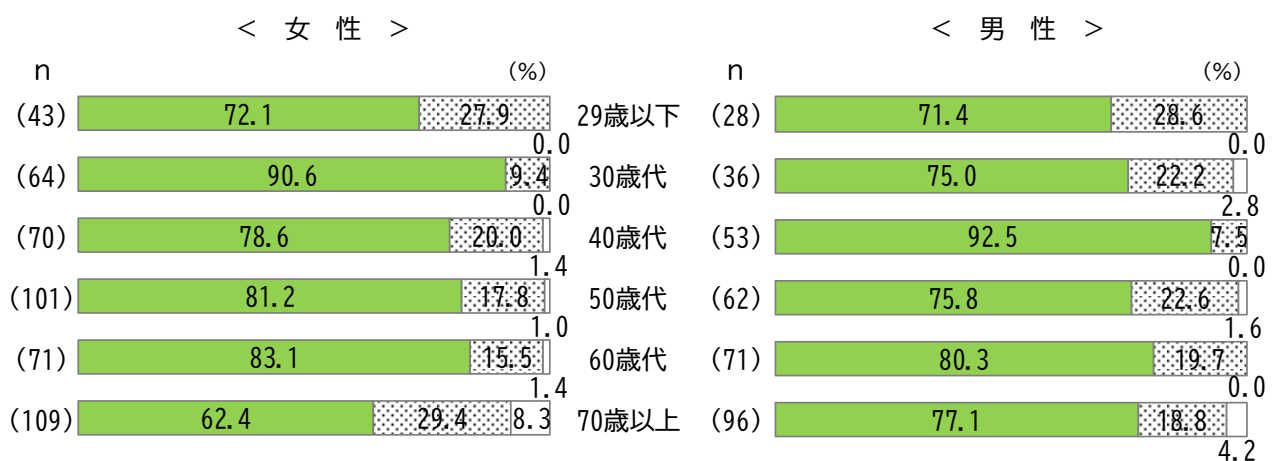
「性的暴力」では「DVに当たっていることを知っていた」の割合が女性の29歳以下と30歳代、男性の40歳代で9割台半ばと高くなっている。

図表 身体的な暴力以外のDVの認知（性年代別）

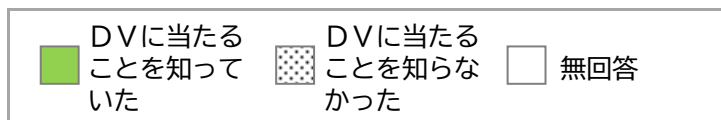
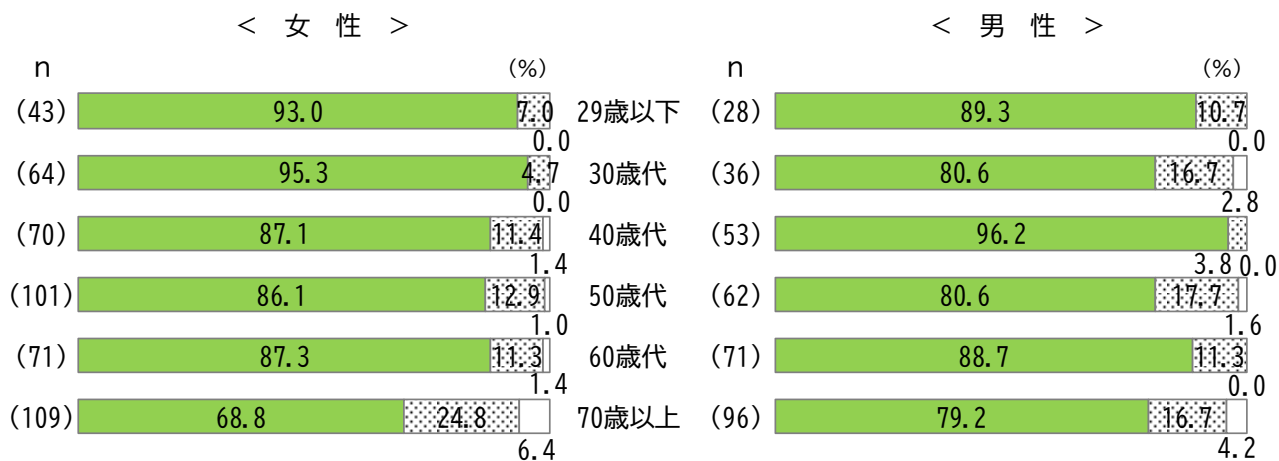
①精神的暴力：交友関係や電話を細かく監視する



②経済的暴力：必要な生活費を渡さない



③性的暴力：避妊に協力しない

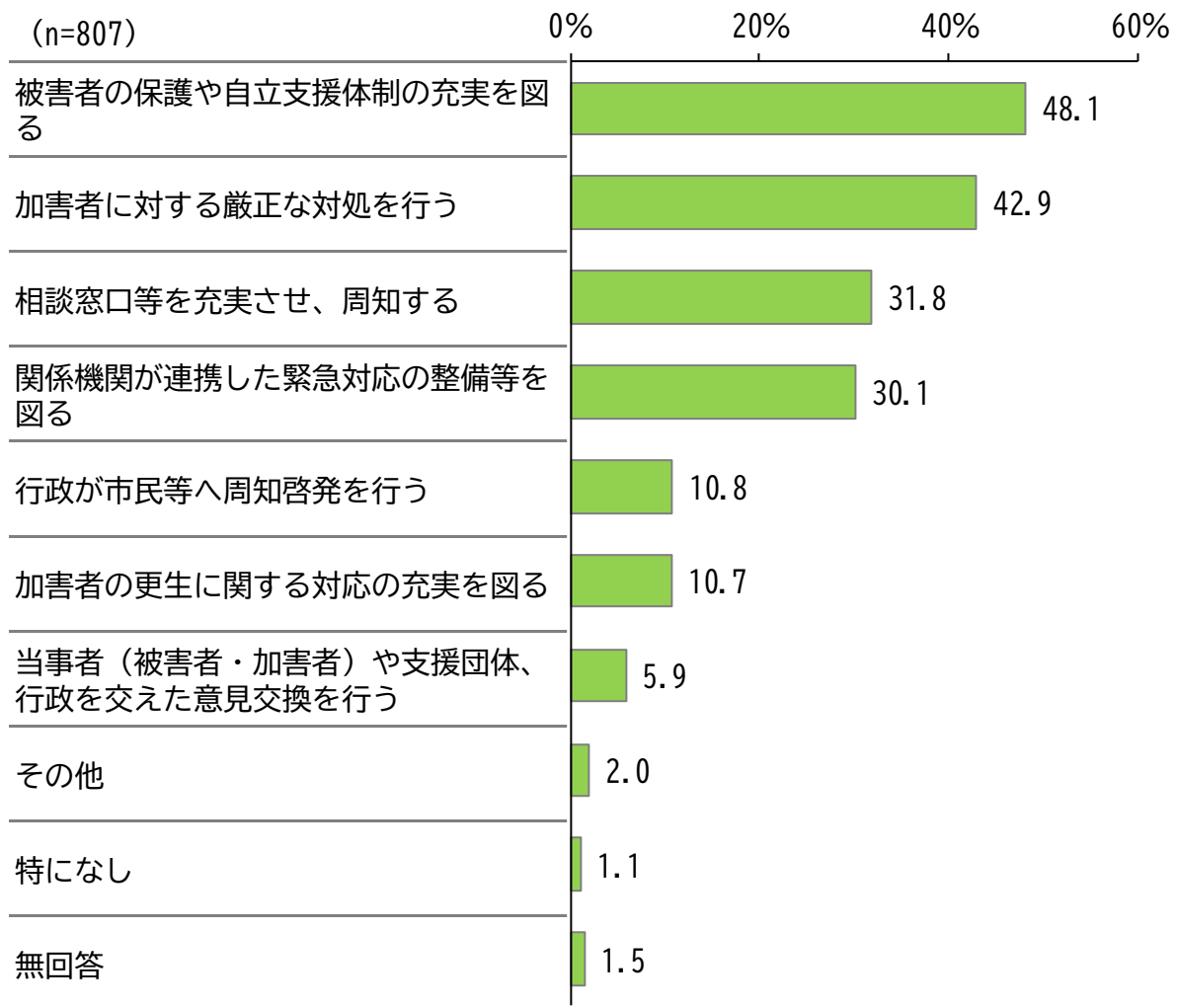


(2) DVの防止に必要な対策（問15）

問15 DVを防止するため、どのような対策が必要だと思いますか。特にあてはまるものを2つまで選んでください。（〇は2つまで）

DVの防止に必要な対策としては、「被害者の保護や自立支援体制の充実を図る」が約5割で最も高く、以下「加害者に対する厳正な対処を行う」が4割を超え、「相談窓口等を充実させ、周知する」「関係機関が連携した緊急対応の整備等を図る」が3割台で続いている。

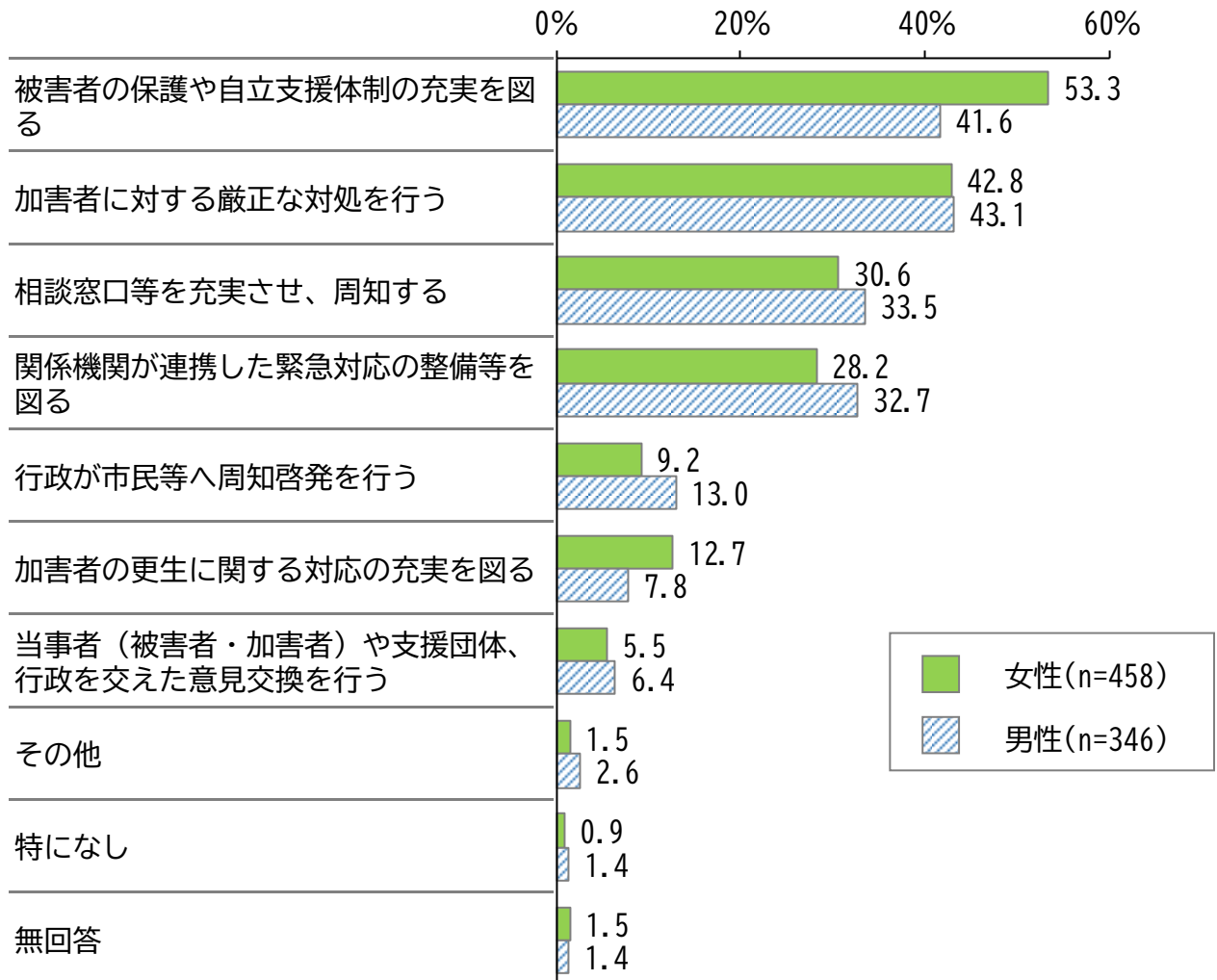
図表 DVの防止に必要な対策（全体）



【性別】

性別でみると、「被害者の保護や自立支援体制の充実を図る」は女性が男性に比べ約12ポイント高くなっている。

図表 DVの防止に必要な対策（性別）

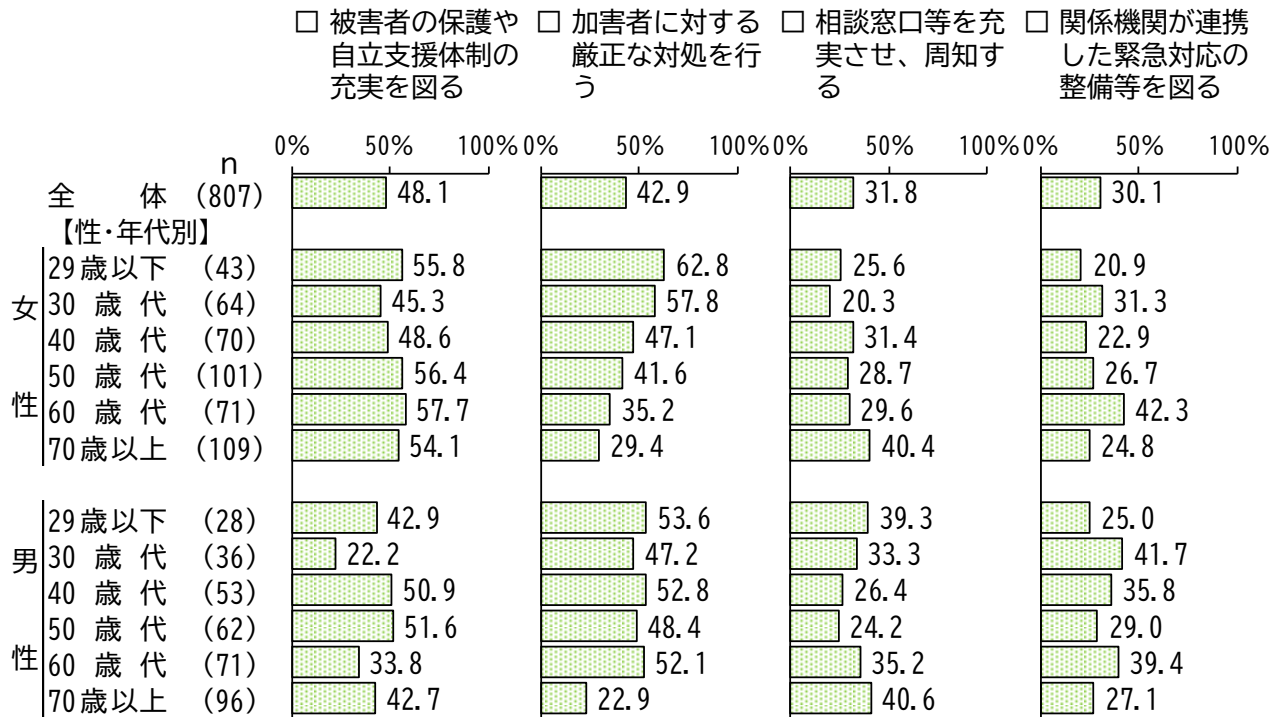


【性年代別】

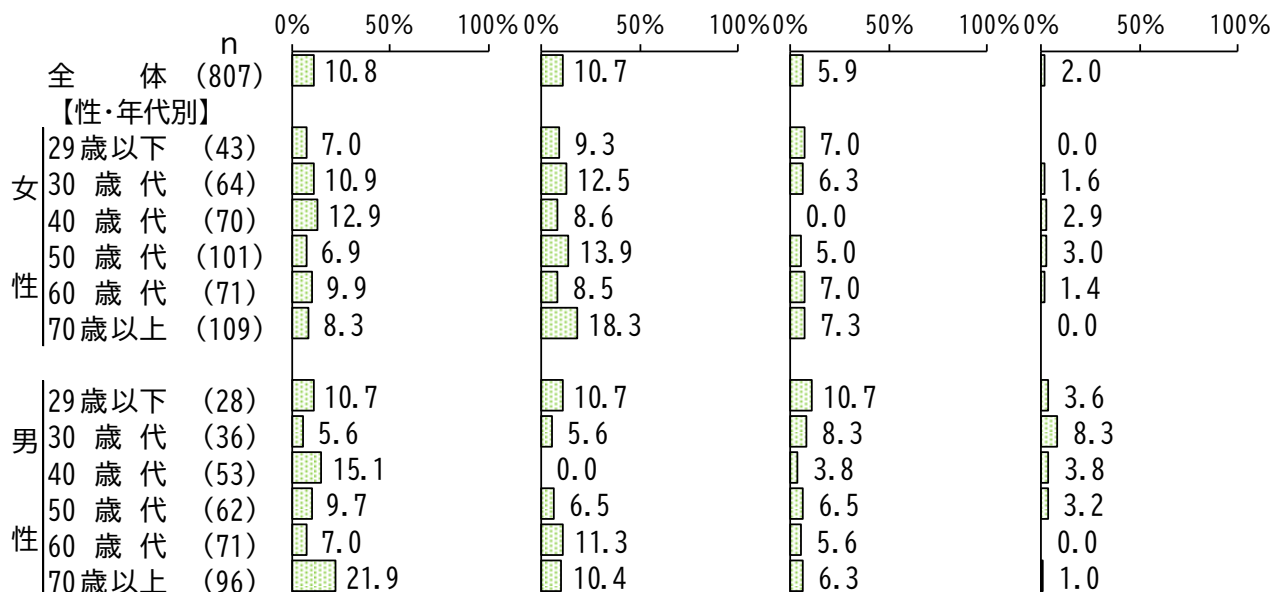
性年代別でみると、「加害者に対する厳正な対処を行う」は女性の29歳以下が6割を超え、女性の30歳代が約6割で高くなっている。

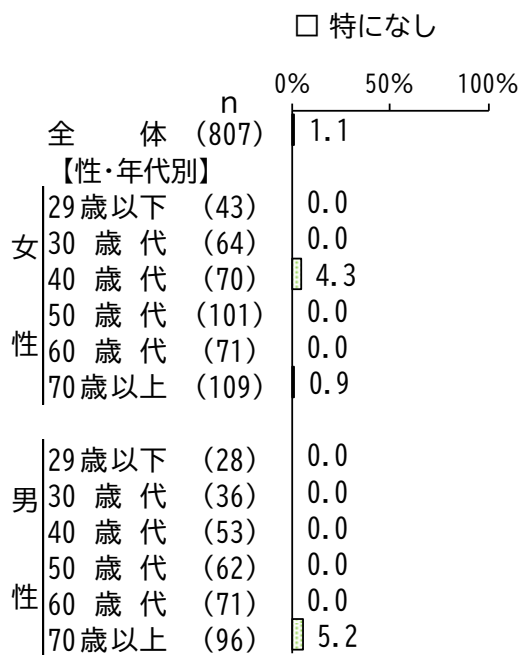
また、「相談窓口等を充実させ、周知する」は男女とも70歳以上が4割でそれぞれ高くなっており、「関係機関が連携した緊急対応の整備等を図る」は女性の60歳代と男性の30歳代で4割を超えてそれぞれ高くなっている。

図表 DVの防止に必要な対策（性年代別）



行政が市民等へ周知啓発を行う
 加害者の更生に関する対応の充実を図る
 当事者（被害者・加害者）や支援団体、行政を交えた意見交換を行う
 その他





【「その他」の主な意見】

- 小学生、中学生、高校生への学校での教育が必要。特に子どもへの周知、啓発をすることで、負のサイクルを止められるのではないかと思う（暴力を受けた者が、暴力をふるうようになってしまうことを止められるのではないか）。（女性・50歳代）
- 子どもが小さいときからの教育。親だけでなく（親も何らかの差別やDVをしている可能性もあるので）、保育園や幼稚園のときから、周りの大人が、自分の周りの人を大切にして、尊重する姿を見せていかなければと思う。子どもは一番近くにいる大人をまねすると思う。（女性・40歳代）
- 何がDVとなるのかを、義務教育から年齢にあったカリキュラムで学ぶ場を作っていく。（女性・50歳代）
- 隣人の家族がどのような様子なのか、互いに理解し合える地域環境作りを行う。（男性・30歳代）
- 市が相談窓口を作るのではなく、地域に相談窓口を作る。（男性・50歳代）
- 緊急時は、相談機関は営業時間外で、警察を呼んでも民事不介入なので、土日・夜間の緊急時に対応してくれる機関が必要。（女性・50歳代）

8 自由記述における主な意見

最後に、男女共同参画に関して、ご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

「男女共同参画」に関する意見・要望を求めたところ、123人から意見が寄せられた。また、主な意見のみを掲載したが、意見の趣旨を損なわない程度に表現を変えて表記している場合がある。

- よく議員の女性比を増やしたり管理職への女性の登用を増やすという案を聞きますが現在のよう
に家事、育児、介護の負担を女性がほとんど担っている状態でそれは無理です。男女共同参画
社会を目指す第一歩は男性が掃除をし洗濯をし食事を作り、目の前の皿を洗うことから始まると思
います。そして、その姿を当たり前として子どもに見せる、学校でも家事は誰もが行うものだと
教える、男の子にも家の手伝いをさせる、この暮らしの中の小さな習慣が社会を変えていくと思
います。（女性、50歳代）
- 私は50代ですが20代～30代の若い世代の夫婦は共働きが普通で家事や育児を分担していると思
います。私の時代は結婚、出産で仕事を退職して家庭に入る人が多かった。そのために家事、育児
を女性が主に担うことが多い。今は家事育児が分担傾向にあり良いと思います。
(女性、50歳代)
- 子育てにおいては、母親じゃないとできない事柄もあつたりして、母親の負担が多くなる傾向が
ある。父親でもできることは、父親も積極的に参加するように心がけることが常識になるような
社会にしてほしい。そうしやすい社会作りをしてほしい。でないと、女性の負担や昔からの慣習
は、ずっと変わらないと思う。（女性、40歳代）
- 子育てにお金がかかりすぎているので、それを解消すれば女性も働きやすくなると思う。
(男性、29歳以下)
- 小学3年生の息子はよく「男・女関係ない」と言っており、小学校での教育がよくされていると
思います。逆に自分達が男の子なんだからと言ってしまったり、職場で無意識のうちに掃除は主
に女性がやっけてしまい、男女を考えてしまっているように思います。我々の世代はもう刷り込ま
れている考え方なので、変えるのはなかなか難しいと思いますが、子どもの教育で変えられると
思うので、そこに力を入れていただきたいと思います。（女性、40歳代）
- 男女共同参画を推進すると共に、男と女の違いはいつの時代も存在すると考える。従って、男女
はすべて平等だとヒステリックに声を上げるのは違和感がある。男と女がお互いにリスペクトし
て、協力し合うバランスの取れた社会になれば良いのではないか。（男性、60歳代）
- 自分が男性だったら、もっと良い地位や給与をもらっていたかもしれない、とたまに思うことが
あります。事実はわかりませんが、そのように考えてしまう環境が今までであったということだと
思います。そのような考えを次の世代ではなくせるといいと思います。（女性、30歳代）
- 現在、私の回りや身近な所ではLGBTの方は全くいません。いないというよりは言えない状態
なのかもしれません。「私は犬より猫が好き」というくらい、簡単に「私はLGBTだよ」と発
言できて、それを聞いた方が「ああそうなんだね」と気軽に言える社会が望ましいと思います。
相手を理解するにはまず「無知」を失くすため学んでいただいて理解をしてもらい次に「優し
さ」をもって接することができる人材を増やすように周知啓発の徹底をお願いします。
(女性、50歳代)
- ジェンダーの概念がよく理解されない中で「男女共同参画」に対する理解を求めるには、無理が
ある。中学・高校・大学教育の中で「社会心理学」の科目を取り入れて、ジェンダーの概念の理

解を深める教育を徹底して行くことが問題解決への近道ではないかと思う。(男性、70歳以上)

- アンケートに参加させていただきありがとうございました。八千代市が、男女共同参画や(LGBTやSOGIに関連して)パートナーシップ制度などについて、他の周囲の自治体と比べて、よりオープンで先進的な思想をもった改革を押し進めていただけることを一市民として期待します。(女性、40歳代)
- LGBT等受け入れる側が考えの多様性を持つ時代になってきていると感じます。(男性、60歳代)
- DVについて加害者はいかなる理由があっても厳しい対処をしなければ何も変わらないと思う。病気と同じだと考えます。(女性、30歳代)
- 男女が平等に働き家事を分担するためには、今のままの保育施設では不十分。保育施設、学童、子ども教室を充実させるとともに、それらの施設では賄いきれていない狭間の子どもを保育できる施設が必要不可欠。例えば小学4年生以降に、親が帰ってくるまでの間、夏休みや冬休みなどの長期休暇時も含めて、子どもたちが安全な場所で過ごせる場所の提供など。(男性、40歳代)
- 男女共同参画の推進は、子どもの頃からの教育で男女同等であることが心の中に根付いていく。現在の幼稚園や学校教育では、いろいろな角度から男女の隔たりなく社会教育されていると思う。いずれ「男女共同参画」の言葉も消えることを期待します。(女性、70歳以上)
- 男とか、女とかの概念にこだわらず、1人の人間として皆が認められ、皆が自己肯定感を持って生きて行ける社会になって欲しいと思う。(女性、50歳代)
- 男だから、女だからと決めつけるのではなく、人間としてお互いを尊重できる世の中になって欲しいです。(男性、30歳代)
- 繊細な質問の割に、答えにくい聞き方のようなアンケートでした。男女共同参画に対しての八千代市の活動自体を存じてなかったのがこれから学ぼうと思いました。(女性、30歳代)
- とてもいい取組が多そうだと思いますが、センターも活動もあまり知られていないように思うので、利用しやすいようになるといいと思います。男女共同参画という言葉を使いやすくしては…子どもの施設にすてっぷとかあるように…など。(女性、50歳代)
- 50代の私でも昔の考え方から変化するためには時間がかかる。今後社会に出ていく子ども達には偏見や、男尊女卑的な考え方がなくなっていくよう大人が見本になれば良いと思う。(女性、50歳代)
- 「男女共同参画」の意味をどの世代も意識、理解して受け入れられるといいですね。「男性も女性も対等」と唱えるなら、それぞれ今までの習慣に甘えず自分の意見だけを主張するのではなく、周囲との協調も大切にして欲しいです。(女性、60歳代)

9 前回調査との比較【参考】

調査項目が異なるため単純な比較はできないが、参考として平成21年度、令和元年度調査の同内容の設問と結果を比較した。

■男女平等

政治（国政）については、「男性が優遇されている」の割合が平成21年度から約8ポイント増加している。

項目	調査年	男性が優遇されている	女性が優遇されている	平等	わからない	無回答
①慣習、しきたり等	H21	71.6%	7.3%	36.0%	6.7%	0.3%
	R1	50.1%	1.4%	20.1%	19.7%	8.7%
	R5	57.9%	2.1%	17.7%	20.7%	1.6%
②法律・制度での扱い	H21	38.8%	7.3%	37.7%	16.0%	0.2%
	R1	30.2%	4.4%	34.9%	21.8%	8.7%
	R5	35.4%	7.7%	33.2%	21.9%	1.7%
③政治（国政）	H21	65.3%	1.6%	19.1%	13.6%	0.2%
	R1	62.0%	0.3%	14.5%	15.5%	7.7%
	R5	73.4%	0.2%	13.6%	11.6%	1.1%
④学校教育	H21	14.0%	3.7%	57.9%	23.8%	0.4%
	R1	12.1%	1.0%	61.4%	17.2%	8.3%
	R5	12.8%	1.1%	66.7%	18.0%	1.5%
⑤就職の機会、職場での働き方や処遇	H21	59.4%	4.1%	20.0%	16.0%	0.4%
	R1	51.4%	2.7%	21.8%	15.7%	8.4%
	R5	52.2%	3.1%	25.8%	17.2%	1.7%
⑥家庭での家事分担や家庭におけるものごとの決定	H21	49.7%	7.3%	20.0%	16.0%	0.4%
	R1	36.5%	12.0%	29.2%	13.7%	8.7%
	R5	38.3%	11.0%	32.2%	17.0%	1.5%
⑦PTAやボランティアなどの地域活動	H21	27.1%	8.6%	36.0%	6.7%	0.3%
	R1	15.5%	12.8%	32.2%	31.3%	8.1%
	R5	17.3%	10.8%	34.0%	36.9%	1.0%

※H21調査では、各項目が「①社会通念・意識慣習・しきたり等②法律や制度上③政治の場④学校教育の場⑤職場⑥家庭生活⑦地域活動」となっている。

※H21調査での「男性（女性）の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性（女性）の方が優遇されている」回答を合計し、本表の「男性（女性）が優遇されている」に記載している。

Ⅲ 調査票

男女共同参画に関する市民アンケート【調査票】

＝ 八千代市の男女共同参画に関するアンケートのお願い ＝

市民の皆様には、日頃より市政にご協力を賜り厚く感謝申し上げます。

八千代市では、次期男女共同参画プランの策定に際し、市内在住の18歳以上の2,500人を対象として、アンケートを実施することといたしました。

このアンケートは、市民の皆様が男女共同参画やワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）などについてどのような意識をお持ちかお伺いし、その意向をプランに反映させると共に、今後の市の取組の基礎資料とさせていただくことを目的として実施するものです。

皆様におかれましては、ご多用のなか、大変恐れ入りますが回答にご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

なお、本調査は、八千代市から世論調査等の専門機関である「株式会社マーケティング・リサーチ・サービス」に委託し、実施しております。

令和6年1月 八千代市長 服部友則

（ご回答にあたって）

- 1 本調査は男女の固定的な役割分担等についての考え方をお聞きするものであるため、主に男女に分けた調査をしています。
- 2 ご記入いただいた内容は統計的に処理します。個人を特定するようなことはありません。また、アンケートの目的以外で使用しませんので、率直なご意見をお寄せください。
- 3 ご回答は、調査票のあてはまる番号を○で囲んでください。ご回答が「その他」の場合は、番号を○で囲み、内容を（ ）内にご記入ください。
- 4 回答に要する時間は、15分程度です。
- 5 記入が終わった調査票は同封の返信用封筒に入れ、**令和6年1月25日（木）**までに郵便ポストに投函してください。
- 6 本調査はインターネットを利用して回答することができます。インターネットで回答した方は、この調査票を返送する必要はございません。回答方法は、別紙「インターネットでの回答方法」をご確認ください。

（本アンケートに関するお問い合わせ）

（調査について）

八千代市男女共同参画センター
〒276-0033 八千代市八千代台南1-11-6
電話 047-485-7088（平日 9:00～17:00）

（調査票の配布・回収について）

（株）マーケティング・リサーチ・サービス
〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-45-8

※アンケートは8ページで完了になります。

はじめに、あなた自身のことについて伺います

F 1 あなたの性別を教えてください。(○は1つ) ※ご自身の自認によりご記入ください。

- | |
|-------------------|
| 1 男性 |
| 2 女性 |
| 3 どちらとも言えない・わからない |
| 4 回答しない |

F 2 あなたの年齢を教えてください。(○は1つ)

- | | | |
|---------|--------|---------|
| 1 29歳以下 | 3 40歳代 | 5 60歳代 |
| 2 30歳代 | 4 50歳代 | 6 70歳以上 |

F 3 あなたの働き方(雇用形態)を教えてください。(○は1つ)

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1 正社員・正職員 | 5 家事専業(専業主婦や主夫) |
| 2 契約・派遣社員 | 6 無職 |
| 3 パート・アルバイト | 7 学生 |
| 4 自営業(自由業・サービス業・農業等) | 8 その他() |

F 4 現在、あなたが同居されているすべての方を教えてください。
(該当するものすべてに○)

- | | |
|-------------|----------|
| 1 配偶者・パートナー | 5 祖父母 |
| 2 子ども | 6 孫 |
| 3 親(実親・義親) | 7 その他() |
| 4 兄弟・姉妹 | 8 一人暮らし |

→ (F 4で「2 子ども」とお答えの方にお聞きします。)

F 4-1 一番下のお子様の年代はどれにあてはまりますか。(○は1つ)

- | | | |
|---------------|------------|----------|
| 1 乳幼児(小学校入学前) | 4 中学生 | 7 その他() |
| 2 小学 1~3年生 | 5 高校生以上の学生 | |
| 3 小学 4~6年生 | 6 社会人 | |

(すべての方にお聞きします。)

F 5 現在、あなたは介護を行っていますか。(○は1つ)

- | | |
|------|-------|
| 1 はい | 2 いいえ |
|------|-------|

1 生活の中での男女共同参画について伺います

問1 家事や育児などは誰が日常的に行っていますか。①から⑩の項目ごとに1つずつ選んで番号に○をつけてください。（それぞれ○は1つずつ）

	横方向にお答えください				
	主に男性	主に女性	適宜分担	ひとり暮らし	該当しない
①食事のしたく	1	2	3	4	5
②洗濯	1	2	3	4	5
③掃除	1	2	3	4	5
④日常の買い物（食糧品・日用品など）	1	2	3	4	5
⑤高額な商品や不動産などの購入の決定	1	2	3	4	5
⑥子どもの身のまわりの世話	1	2	3	4	5
⑦子どものしつけ	1	2	3	4	5
⑧子どもと遊ぶ、勉強などを教える	1	2	3	4	5
⑨高齢者や障害者、病人の介護・看護	1	2	3	4	5
⑩町内会・自治会の活動	1	2	3	4	5
⑪PTAやボランティアなどの地域活動	1	2	3	4	5

2 働き方について伺います

問2 あなたが働いている（または働いていた）職場では、仕事の内容や待遇の面で、性別を理由とする差別がありますか（またはありましたか）。①から⑧の項目ごとに1つずつ選んで番号に○をつけてください。（それぞれ○は1つずつ）

	横方向にお答えください				
	男性が優遇されている	女性が優遇されている	差別はない	わからない	就労経験がない
①賃金	1	2	3	4	5
②昇進・昇格	1	2	3	4	5
③幹部への登用	1	2	3	4	5
④能力評価	1	2	3	4	5
⑤仕事の内容	1	2	3	4	5
⑥教育・訓練の機会や内容	1	2	3	4	5
⑦有給休暇、育児・介護休業の取得しやすさ	1	2	3	4	5
⑧結婚、出産退職などの慣行	1	2	3	4	5

(1 ページ目の F 3 で「5 家事専業 (専業主婦や主夫)」または「6 無職」とお答えの方にお聞きします。) ※該当しない方は、問 4 にお進みください。

問 3 現在または将来、あなたは働きたいと思いますか。(○は1つ)

- | |
|-------------|
| 1 働きたい |
| 2 働きたいが働けない |
| 3 働く必要がない |
| 4 働きたくない |

→ (問 3 で「2 働きたいが働けない」とお答えの方にお聞きします。)

問 3-1 「働きたいが働けない」と答えた、最も大きな理由を1つ選んで番号に○をつけてください。(○は1つだけ)

- | |
|---------------------------------|
| 1 家事との両立が困難だから |
| 2 子育てとの両立が困難だから |
| 3 介護との両立が困難だから |
| 4 希望する勤務条件 (時間・場所・給与等) の仕事がないから |
| 5 求職しているが仕事が見つからないから |
| 6 年齢面の制約のため |
| 7 健康面の理由から |
| 8 配偶者 (パートナー) 等家族が望まないから |
| 9 その他 (具体的に: _____) |

(すべての方にお聞きします。)

問 4 女性の理想の働き方を1つ選んで番号に○をつけてください。(○は1つだけ)

- | |
|---|
| 1 ずっと働く (勤務条件等を変えない ※産前産後休暇と育児休業を取る場合を含む) |
| 2 ずっと働く (結婚や子育てを機に短時間勤務や勤務日を減らす) |
| 3 結婚までは働き、結婚を機に仕事を辞める |
| 4 子どもができるまで働き、出産を機に仕事を辞める |
| 5 子育ての時期に一時仕事を辞め、その後は働く |
| 6 ずっと職業を持たず、家事に専念する |
| 7 その他 (具体的に: _____) |

問 5 女性が長く働き続けるためにはどのようなことが特に重要だと思いますか。最も必要だと思うものを1つ選んで番号に○をつけてください。(○は1つだけ)

- | |
|-----------------------------------|
| 1 賃金・昇給・昇進・昇格等の男女間の格差解消 |
| 2 育児・介護休業制度等の充実 |
| 3 フレックスタイム・在宅勤務など柔軟な勤務形態の導入 |
| 4 保育サービス (早朝・延長・病後児・乳児保育等) の整備の充実 |
| 5 介護サービス・施設等の整備の充実 |
| 6 結婚・出産・育児・介護等のために退職した社員の再雇用制度の充実 |
| 7 女性が働くことに対する家族や周囲の理解と協力 |
| 8 女性自身の自覚、意欲・能力の向上 |
| 9 男性の意識の変化 |
| 10 その他 (具体的に: _____) |

3 男性のワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について伺います

問6 育児休業や介護休業を取る男性は、女性に比べて少ないのが現状です。その理由について、あなたの考えに最も近いものを1つ選んで番号に○をつけてください。
(○は1つだけ)

- 1 職場の理解を得られないから
- 2 職場の同僚に申し訳ないと思うから
- 3 昇進や昇給に影響する恐れがあるから
- 4 休業後の職場復帰に不安があるから
- 5 仕事の量が多いから
- 6 仕事の責任が重いから
- 7 休業中は収入が少なくなり、家計を維持できないから
- 8 女性の方が育児や介護に向いているから
- 9 その他（具体的に： _____)

問7 今後、男性が女性とともに、家事・子育て・介護・地域活動などに積極的に参加していくために、最も必要だと思うものを1つ選んで番号に○をつけてください。
(○は1つだけ)

- 1 職場において家庭生活や地域活動に参加しやすい雰囲気をつくる
- 2 労働時間短縮や休暇を取りやすくすることで、仕事以外の時間を多く持てるようにする
- 3 社会の中で、男性自身の家庭生活や地域活動に参加することに対する評価を高める
- 4 夫婦（パートナー）や家族間でのコミュニケーションをよく図る
- 5 男性が積極的に参加する必要はない
- 6 その他（具体的に： _____)

4 男女平等について伺います

問8 「夫は外で働き、妻は家庭を守る方がよい」という考え方について、どのように思いますか。あなたの考えに近いものを1つ選んで番号に○をつけてください。
(○は1つだけ)

- 1 賛成
- 2 どちらかと言えば賛成
- 3 どちらかと言えば反対
- 4 反対
- 5 わからない

問9 あなたは、次の分野で男女は平等になっていると思いますか。①から⑩の項目ごとに1つずつ選んで番号に○をつけてください。（それぞれ○は1つずつ）

	横方向にお答えください			
	男性が優遇 されている	女性が優遇 されている	平等	わからない
①慣習・しきたり	1	2	3	4
②法律・制度での扱い	1	2	3	4
③政府や企業での重要な意思決定の場	1	2	3	4
④政治（国政）	1	2	3	4
⑤政治（地方政治）	1	2	3	4
⑥学校教育	1	2	3	4
⑦就職の機会、職場での働き方や処遇	1	2	3	4
⑧家庭での家事分担や家庭におけるものごとの決定	1	2	3	4
⑨町内会・自治会の活動	1	2	3	4
⑩PTAやボランティアなどの地域活動	1	2	3	4

問10 男女共同参画社会をつくるために、あなたが最も必要だと思うことを（1）から（3）の項目ごとに選んで番号に○をつけてください。

（1）個人の心掛けで最も必要だと思うこと（○は1つだけ）

- | |
|--|
| 1 「男らしく」「女らしく」ということにとらわれず、「自分らしく」行動する
2 男女ともに独立した人格としての自覚と責任意識を高める
3 性別に関する偏見や先入観を持たないように心掛ける
4 男女が互いに対等な存在として評価・尊重する意識を持つ
5 その他（具体的に： _____) |
|--|

（2）家庭で最も必要だと思う取組（○は1つだけ）

- | |
|---|
| 1 夫婦（パートナー）の関係が対等であるようにする
2 家事、育児、介護は男女を問わず分担し、協力する
3 家事や育児の重要性を正當に評価する
4 「嫁・姑」「後継ぎ」「墓」「氏」など、家系を中心にした家族観や慣習を改める
5 子育てにおいて、性別によって教育やしつけの方針、態度を区別しない
6 その他（具体的に： _____) |
|---|

(3) 八千代市で特に必要だと思う取組 (○は2つまで)

- 1 学校教育における男女共同参画教育を進める
- 2 男女共同参画の意識を高めるための学習の場（講座等）や情報提供（情報誌等）を充実する
- 3 事業者に対して職場における男女格差の是正を働きかける
- 4 事業者に対して仕事と家庭を両立しやすい労働条件の整備・改善を働きかける
- 5 保育サービスを充実する
- 6 介護サービスを充実する
- 7 女性を対象とした各種相談やDV被害から救済するための体制を充実する
- 8 男性も女性も地域で活動し、地域とのつながりをつくれるように支援する
- 9 市役所の責任ある立場に女性を積極的に登用する
- 10 市の施策に関する審議等を行う場に女性の参画を進める
- 11 市役所が率先して模範となることで、男女共同参画の職場づくりを働きかける
- 12 男女共同参画推進を目的とした市民活動を支援する
- 13 その他（具体的に： _____)
- 14 特にない

5 性の多様性について伺います

問11 「LGBT (※)」という言葉を知っていましたか。1つ選んで番号に○をつけてください。(○は1つ)

(※) LGBTとは、〔L〕レズビアン(女性同性愛者)、〔G〕ゲイ(男性同性愛者)、〔B〕バイセクシュアル(両性愛者)、〔T〕トランスジェンダー(出生時に割り当てられた性別と自認する性別が一致しない人)の頭文字をとった言葉です。

- 1 意味も言葉も知っていた
- 2 聞いたことがあり、言葉は知っていた
- 3 意味も言葉も知らなかった

問12 「SOGI (ソギまたはソジ) (※)」という言葉を知っていましたか。1つ選んで番号に○をつけてください。(○は1つ)

(※) SOGIとは、「Sexual Orientation (セクシュアル・オリエンテーション：性的指向)」と「Gender Identity (ジェンダー・アイデンティティ：性自認)」の頭文字をとった言葉です。

- 1 意味も言葉も知っていた
- 2 聞いたことがあり、言葉は知っていた
- 3 意味も言葉も知らなかった

問13 現在、LGBT等性的マイノリティ（少数者）の方々にとって、偏見や不当な差別などにより、生活しづらい社会だと思いますか。あなたの考えに最も近いものを1つ選んで番号に○をつけてください。（○は1つ）

- | |
|----------------|
| 1 思う |
| 2 どちらかと言えば思う |
| 3 どちらかと言えば思わない |
| 4 思わない |

→（問13で「1 思う」「2 どちらかと言えば思う」とお答えの方にお聞きします。）

問13-1 LGBT等性的マイノリティの方々に対する偏見や不当な差別をなくし、LGBT等性的マイノリティの方々が生かしやすくなるためにどのような対策が必要だと思いますか。特にあてはまるものを2つまで選んでください。（○は2つまで）

- | |
|--|
| 1 行政が市民等へ周知啓発を行う |
| 2 相談窓口等を充実させ、周知する |
| 3 生徒や市民への対応を想定し、小・中学校や高校などの学校教員や行政職員への研修等を行う |
| 4 法律等に性的マイノリティへの偏見や不当な差別解消への取組を明記する |
| 5 当事者や支援団体、行政等を交えた意見交換を行う |
| 6 働きやすい職場づくりに取り組む |
| 7 多様な生き方を選択できる環境づくりに取り組む |
| 8 その他（具体的に： _____) |
| 9 特になし |

6 DV（ドメスティック・バイオレンス）について伺います

問14 配偶者や恋人などから振るわれる暴力のことをDV（ドメスティック・バイオレンス）と言います。あなたは、身体的な暴力以外にも、①～③の行為がDVに当たることを知っていましたか。（それぞれ○は1つ）

① 精神的暴力：交友関係や電話を細かく監視する

1 DVに当たることを知っていた	2 DVに当たることを知らなかった
------------------	-------------------

② 経済的暴力：必要な生活費を渡さない

1 DVに当たることを知っていた	2 DVに当たることを知らなかった
------------------	-------------------

③ 性的暴力：避妊に協力しない

1 DVに当たることを知っていた	2 DVに当たることを知らなかった
------------------	-------------------

問15 DVを防止するため、どのような対策が必要だと思えますか。特にあてはまるものを2つまで選んでください。（○は2つまで）

- | |
|-----------------------------------|
| 1 行政が市民等へ周知啓発を行う |
| 2 相談窓口等を充実させ、周知する |
| 3 関係機関が連携した緊急対応の整備等を図る |
| 4 当事者（被害者・加害者）や支援団体、行政を交えた意見交換を行う |
| 5 被害者の保護や自立支援体制の充実を図る |
| 6 加害者に対する厳正な対処を行う |
| 7 加害者の更生に関する対応の充実を図る |
| 8 その他（具体的に： _____ ） |
| 9 特になし |

7 最後に、男女共同参画に関して、ご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

--

記入が終わりましたら、同封の返信用封筒で、令和6月1月25日（木）までに郵便ポストに投函してください。

最後までご協力いただき、誠にありがとうございました。

**令和5年度 八千代市の男女共同参画に関する
市民アンケート結果報告書**

発行：令和6年3月
八千代市 企画経営課 男女共同参画センター
八千代市八千代台南1-11-6 047(485)7088

